

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部等連係課程実施基本組織の設置（学部の設置）								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ヤマグチダイガク 国立大学法人 山口大学								
フリガナ大学の名称	ヤマグチダイガク 山口大学 (Yamaguchi University)								
大学本部の位置	山口県山口市吉田1677番地1								
大学の目的	本学は、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念に、地域の基幹総合大学及び世界に開かれた教育研究機関として、たゆまぬ研究及び社会活動並びにそれらの成果に立脚した教育を実践し、地域に生き、世界に羽ばたく人材を育成することを目的とする。（国立大学法人山口大学学則第3条 抜粋）								
新設学部等の目的	人間の心理・行動や地域・コミュニティに対する深い理解力及び数理的素養を含む分析力を基礎として、心の豊かさやまちの豊かさの観点から、ひとや地域の課題を見出し、その課題の解決のためにデジタル技術やAI技術などを活かすプロセスを提示でき、ひと・まち（コミュニティ）を起点とした新たな価値創出につなげることができる人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	・学部等連係課程実施基本組織等
	年	人	年次人	人			年月 第 年次 令和7年4月 第1年次	山口県山口市吉田1677番地1	
	ひと・まち未来共創学環 [School of Collaborative Community Innovation]	4	40	—	160	学士（学術） [Bachelor of Arts]	文学関係、経済学関係、工学関係		
	連係協力学部（Ⅰ） 教育学部 [Faculty of Education]							山口県山口市吉田1677番地1	
	学校教育教員養成課程 [Programs in Preschool and School Education]	4	155	—	620	学士（教育学）	教育学・保育学関係	平成10年度 第1年次	
学校教育教員養成課程 からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数		0	—	0					
連係協力学部（Ⅱ） 経済学部 [Faculty of Economics]								山口県山口市吉田1677番地1	
経済学科 [Department of Economics]	4	130	—	520	学士（経済学）	経済学関係	昭和24年度 第1年次		
経済学科からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数		5	—	20					

新設学部等の概要	経営学科 [Department of Management]	4	165	—	660	学士(経済学)	経済学関係	昭和24年度第1年次	
	経営学科からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数		0	—	0				
	観光政策学科 [Department of Tourism and Travel Industry Policy]	4	50	—	200	学士(経済学)	経済学関係	平成17年度第1年次	
	観光政策学科からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数		10	—	40				
	連係協力学部(Ⅲ) 理学部 [Faculty of Science]								山口県山口市吉田1677番地1
	数理科学科 [Department of Mathematical Sciences]	4	50	—	200	学士(理学)	理学関係	平成7年度第1年次	
	数理科学科からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数		0	—	0				
	物理・情報科学科 [Department of Physics and Informatics]	4	60	—	240	学士(理学)	理学関係	平成18年度第1年次	
	物理・情報科学科からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数		0	—	0				
	化学科 [Department of Chemistry]	4	40	—	160	学士(理学)	理学関係	令和3年度第1年次	
	化学科からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数		0	—	0				
	生物学科 [Department of Biology]	4	40	—	160	学士(理学)	理学関係	令和3年度第1年次	
	生物学科からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数		0	—	0				
	地球圏システム科学科 [Department of Geosphere Sciences]	4	30	—	120	学士(理学)	理学関係	平成18年度第1年次	
地球圏システム科学科からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数		0	—	0					

関係協力学部 (IV) 国際総合科学部 [Faculty of Global and Science Studies] 国際総合科学科 [Department of Global and Science Studies] 国際総合科学科からひと・まち未来共創学環の内数とする入学定員数 計		4	125	—	500	学士(学術)	学際領域	平成27年度 第1年次	山口県山口市吉田1677番地1
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		国際総合科学部 国際総合科学科 [定員増] (25) (令和7年4月) 教育学部 学校教育教員養成課程 [定員減] (△25) (令和7年4月) 人文科学研究科 人文科学専攻 [廃止] (△8) (令和7年4月学生募集停止) 教育学研究科 学校臨床心理学専攻 [廃止] (△7) (令和7年4月学生募集停止) 経済学研究科 経済学専攻 [廃止] (△16) (令和7年4月学生募集停止) 企業経営専攻 [廃止] (△10) (令和7年4月学生募集停止) 人間社会科学研究科 [研究科の設置] (令和6年7月届出) 人文科学専攻 (7) 臨床心理学専攻 (6) 経済学・経営学専攻 (22) 共創科学専攻 (6)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	ひと・まち未来共創学環	講義	演習	実験・実習	計	128単位			
		149科目	13科目	3科目	165科目				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	(注) <>の中の数は学部等 連係課程実施基本組織 のみに従事する基幹教員。 【】の中の数は学部等 連係課程実施基本組織 と関係協力学部等を兼ね る教員の数。
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設分	学部等連係課程実施基本組織 ひと・まち未来共創学環 関係協力学部 (I) 教育学部 学校教育教員養成課程 関係協力学部 (II) 経済学部 経済学科 経営学科 観光政策学科 関係協力学部 (III) 理学部 数理科学科 物理・情報科学科 化学科 生物学科 地球圏システム科学科 関係協力学部 (IV) 国際総合科学部 国際総合科学科	人	人	人	人	人	人	人	
		<0> 【11】 (11)	<3> 【9】 (12)	<2> 【4】 (6)	<1> 【0】 (1)	<6> 【24】 (30)	<0> 【0】 (0)	<0> 【72】 (72)	

	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	<0> 【11】 (11)	<3> 【9】 (12)	<2> 【4】 (6)	<1> 【0】 (1)	<6> 【24】 (30)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
	小計（a～b）	<0> 【11】 (11)	<3> 【9】 (12)	<2> 【4】 (6)	<1> 【0】 (1)	<6> 【24】 (30)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)		
	計（a～d）	<0> 【11】 (11)	<3> 【9】 (12)	<2> 【4】 (6)	<1> 【0】 (1)	<6> 【24】 (30)		
	計	<0> 【11】 (11)	<3> 【9】 (12)	<2> 【4】 (6)	<1> 【0】 (1)	<6> 【24】 (30)	0 【0】 (0)	<-> 【-】 (-)
既 設 分	人文学部 人文学科	13 (13)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	73 (73)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 (13)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	31 (31)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	13 (13)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	31 (31)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	13 (13)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	31 (31)		
	計	13 (13)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	- (-)
	教育学部 学校教育教員養成課程	32 【6】 (32)	23 【4】 (23)	15 【2】 (15)	0 【0】 (0)	70 【12】 (70)	0 【0】 (0)	64 【0】 (64)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	32 【6】 (32)	23 【4】 (23)	15 【2】 (15)	0 【0】 (0)	70 【12】 (70)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
小計（a～b）	32 【6】 (32)	23 【4】 (23)	15 【2】 (15)	0 【0】 (0)	70 【12】 (70)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
計（a～d）	32 【6】 (32)	23 【4】 (23)	15 【2】 (15)	0 【0】 (0)	70 【12】 (70)			
計	32 【6】 (32)	23 【4】 (23)	15 【2】 (15)	0 【0】 (0)	70 【12】 (70)	0 【0】 (0)	- 【-】 (-)	

大学設置基準別表第一  
イに定める基幹教員数  
の四分の三の数 9人

大学設置基準別表第一  
イに定める基幹教員数  
の四分の三の数 53人

経済学部 経済学科	10 【0】 (10)	8 【2】 (8)	3 【0】 (3)	0 【0】 (0)	21 【2】 (21)	0 【0】 (0)	90 【0】 (90)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 8人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 【0】 (10)	8 【2】 (8)	3 【0】 (3)	0 【0】 (0)	21 【2】 (21)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
小計（a～b）	10 【0】 (10)	8 【2】 (8)	3 【0】 (3)	0 【0】 (0)	21 【2】 (21)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
計（a～d）	10 【0】 (10)	8 【2】 (8)	3 【0】 (3)	0 【0】 (0)	21 【2】 (21)			
経営学科	8 【1】 (8)	8 【2】 (8)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	18 【3】 (18)	0 【0】 (0)	93 【0】 (93)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 9人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 【1】 (8)	8 【2】 (8)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	18 【3】 (18)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
小計（a～b）	8 【1】 (8)	8 【2】 (8)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	18 【3】 (18)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
計（a～d）	8 【1】 (8)	8 【2】 (8)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	18 【3】 (18)			
観光政策学科	5 【1】 (5)	4 【0】 (4)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	10 【1】 (10)	0 【0】 (0)	101 【0】 (101)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 【1】 (5)	4 【0】 (4)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	10 【1】 (10)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
小計（a～b）	5 【1】 (5)	4 【0】 (4)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	10 【1】 (10)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
計（a～d）	5 【1】 (5)	4 【0】 (4)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	10 【1】 (10)			
計	23 【2】 (23)	20 【4】 (20)	6 【0】 (6)	0 【0】 (0)	49 【6】 (49)	0 【0】 (0)	- 【-】 (-)	

理学部 数理科学科	4 (4)	2 (2)	4 (4)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	41 (41)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	2 (2)	4 (4)	1 (1)	11 (11)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	4 (4)	2 (2)	4 (4)	1 (1)	11 (11)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	4 (4)	2 (2)	4 (4)	1 (1)	11 (11)		
物理・情報科学科	7 【1】 (7)	4 【0】 (4)	3 【1】 (3)	3 【0】 (3)	17 【2】 (17)	0 【0】 (0)	67 【0】 (67)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 【1】 (7)	4 【0】 (4)	3 【1】 (3)	3 【0】 (3)	17 【2】 (17)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
小計（a～b）	7 【1】 (7)	4 【0】 (4)	3 【1】 (3)	3 【0】 (3)	17 【2】 (17)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)		
計（a～d）	7 【1】 (7)	4 【0】 (4)	3 【1】 (3)	3 【0】 (3)	17 【2】 (17)		
化学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	56 (56)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	10 (10)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	4 (4)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	10 (10)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	4 (4)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	10 (10)		

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

生物学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	55 (55)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	/	/	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	4 (4)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	11 (11)			
地球圏システム科学科	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	56 (56)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)	/	/	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	5 (5)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	10 (10)			
計	24 【1】 (24)	16 【0】 (16)	10 【1】 (10)	9 【0】 (9)	59 【2】 (59)	0 【0】 (0)	- 【-】 (-)	
医学部 医学科	36 (36)	40 (40)	53 (53)	91 (91)	220 (220)	0 (0)	82 (82)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 105 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	36 (36)	40 (40)	53 (53)	91 (91)	220 (220)	/	/	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	36 (36)	40 (40)	53 (53)	91 (91)	220 (220)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	36 (36)	40 (40)	53 (53)	91 (91)	220 (220)			

保健学科	19 (19)	6 (6)	12 (12)	17 (17)	54 (54)	2 (2)	96 (96)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 11人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	19 (19)	6 (6)	12 (12)	17 (17)	54 (54)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	19 (19)	6 (6)	12 (12)	17 (17)	54 (54)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	19 (19)	6 (6)	12 (12)	17 (17)	54 (54)			
計	55 (55)	46 (46)	65 (65)	108 (108)	274 (274)	2 (2)	- (-)	
工学部 機械工学科	10 (10)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	19 (19)	1 (1)	121 (121)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 7人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	19 (19)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	10 (10)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	19 (19)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	10 (10)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	19 (19)			
社会建設工学科	9 (9)	8 (8)	1 (1)	3 (3)	21 (21)	0 (0)	131 (131)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 7人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	8 (8)	1 (1)	3 (3)	21 (21)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	9 (9)	8 (8)	1 (1)	3 (3)	21 (21)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	9 (9)	8 (8)	1 (1)	3 (3)	21 (21)			



応用化学科	11 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	123 (123)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	19 (19)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	11 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	19 (19)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	11 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	19 (19)			
電気電子工学科	8 (8)	6 (6)	1 (1)	6 (6)	21 (21)	0 (0)	114 (114)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 7人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	6 (6)	1 (1)	6 (6)	21 (21)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	8 (8)	6 (6)	1 (1)	6 (6)	21 (21)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	6 (6)	1 (1)	6 (6)	21 (21)			
知能情報工学科	6 (6)	9 (9)	1 (1)	3 (3)	19 (19)	0 (0)	116 (116)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 7人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	9 (9)	1 (1)	3 (3)	19 (19)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	6 (6)	9 (9)	1 (1)	3 (3)	19 (19)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	6 (6)	9 (9)	1 (1)	3 (3)	19 (19)			

感性デザイン工学科	6 (6)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	122 (122)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	15 (15)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	6 (6)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	15 (15)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	6 (6)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	15 (15)			
循環環境工学科	8 (8)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	125 (125)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	17 (17)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	8 (8)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	17 (17)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	17 (17)			
計	58 (58)	51 (51)	8 (8)	14 (14)	131 (131)	1 (1)	- (-)	
農学部 生物資源環境科学科	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	91 (91)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)			

生物機能科学科	9 (9)	3 (3)	0 (0)	4 (4)	16 (16)	0 (0)	86 (86)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	3 (3)	0 (0)	4 (4)	16 (16)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	4 (4)	16 (16)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	9 (9)	3 (3)	0 (0)	4 (4)	16 (16)		
計	15 (15)	10 (10)	0 (0)	5 (5)	30 (30)	0 (0)	- (-)
共同獣医学部 共同獣医学科	14 (14)	13 (13)	0 (0)	10 (10)	37 (37)	0 (0)	94 (94)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	14 (14)	13 (13)	0 (0)	10 (10)	37 (37)		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
小計（a～b）	14 (14)	13 (13)	0 (0)	10 (10)	37 (37)		
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計（a～d）	14 (14)	13 (13)	0 (0)	10 (10)	37 (37)		
計	14 (14)	13 (13)	0 (0)	10 (10)	37 (37)	0 (0)	- (-)

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 11人

国際総合科学部 国際総合科学科		10 【2】 (10)	10 【1】 (10)	8 【1】 (8)	0 【0】 (0)	28 【4】 (28)	0 【0】 (0)	16 【0】 (16)	大学設置基準別表第一 イに定める基幹教員数 の四分の三の数 11人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		10 【2】 (10)	10 【1】 (10)	8 【1】 (8)	0 【0】 (0)	28 【4】 (28)	/		
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
小計（a～b）		10 【2】 (10)	10 【1】 (10)	8 【1】 (8)	0 【0】 (0)	28 【4】 (28)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
計（a～d）		10 【2】 (10)	10 【1】 (10)	8 【1】 (8)	0 【0】 (0)	28 【4】 (28)			
計		10 【2】 (10)	10 【1】 (10)	8 【1】 (8)	0 【0】 (0)	28 【4】 (28)			0 【0】 (0)
合 計		244 【11】 (244)	205 【9】 (205)	119 【4】 (119)	147 【0】 (147)	715 【24】 (715)	3 【0】 (3)	- 【-】 (-)	
職 種		専 属		そ の 他		計			
事 務 職 員		442 人 (442)		398 人 (398)		840 人 (840)			
技 術 職 員		1,236 (1,236)		189 (189)		1,425 (1,425)			
図 書 館 職 員		9 (9)		0 (0)		9 (9)			
そ の 他 の 職 員		144 (144)		108 (108)		252 (252)			
指 導 補 助 者		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計		1,831 (1,831)		695 (695)		2,526 (2,526)			
校 地 等	区 分	専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	
	校 舎 敷 地	514,630㎡		0㎡		0㎡		514,630㎡	
	そ の 他	458,103㎡		0㎡		0㎡		458,103㎡	
	合 計	972,733㎡		0㎡		0㎡		972,733㎡	
校 舎		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	
		216,256㎡ ( 216,256 ㎡)		0㎡ ( 0 ㎡)		0㎡ ( 0 ㎡)		216,256㎡ ( 216,256 ㎡)	
教室・教員研究室		教 室		1765室 教 員 研 究 室		30室 大学全体			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	ひと・まち未来共創学環	1,649,556 [467,483] (1,649,556 [467,483])	4,431 [2,569] (4,431 [2,569])	37,280 [13,297] (37,280 [13,297])	4,548 [2,924] (4,548 [2,924])	110 (110)		0 (0)	
	計	1,649,556 [467,483] (1,649,556 [467,483])	4,431 [2,569] (4,431 [2,569])	37,280 [13,297] (37,280 [13,297])	4,548 [2,924] (4,548 [2,924])	110 (110)		0 (0)	

スポーツ施設等		スポーツ施設			講堂				厚生補導施設		大学全体
		0 m <sup>2</sup>			0 m <sup>2</sup>				13,252 m <sup>2</sup>		
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費 (運営費 交付金)	
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—		
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—		
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—			
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—								
大学等の名称		山口大学									
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地		
【学部】		年	人	年次人	人		倍				
人文学部											
人文学科		4	185	—	740	学士(文学)	1.07 《1.03》	平成28年度	山口県山口市吉田1677番地1		
教育学部											
学校教育教員養成課程		4	180	—	720	学士(教育学)	1.06 《1.04》	平成10年度	山口県山口市吉田1677番地1		
経済学部											
経済学科、経営学科、観光政策学科(1年次)		4	345	—	345	学士(経済学)	1.04 《1.00》		山口県山口市吉田1677番地1		
経済学科(2~4年次)		4	130	—	390	学士(経済学)	1.07 《0.99》	昭和24年度			
経営学科(2~4年次)		4	165	—	495	学士(経済学)	1.03 《1.01》	昭和24年度			
観光政策学科(2~4年次)		4	50	—	150	学士(経済学)	1.11 《0.98》	平成17年度			
理学部											
数理科学科		4	50	—	200	学士(理学)	1.04 《0.99》	平成7年度	山口県山口市吉田1677番地1		
物理・情報科学科		4	60	—	240	学士(理学)	1.07 《0.99》	平成18年度			
化学科		4	40	—	160	学士(理学)	0.99	令和3年度			
生物学科		4	40	—	160	学士(理学)	0.99	令和3年度			
地球圏システム科学科		4	30	—	120	学士(理学)	1.08 《0.99》	平成18年度			

既設大学等の状況	医学部						1.01 《0.99》		山口県宇部市南小串1丁目1番1号	※令和6年度入学定員増(19人) (医学部医学科)
	医学科	6	109	2年次 10	696	学士(医学)	1.02 《0.99》	昭和39年度		
	保健学科	4	120	—	480	学士(看護学、保健学)	1.01 《0.99》	平成12年度		
	工学部						1.08 《1.02》		山口県宇部市常盤台2丁目16番1号	
	機械工学科	4	90	3年次 5	370	学士(工学)	1.12 《1.05》	平成2年度		
	社会建設工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.06 《1.03》	平成2年度		
	応用化学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.09 《1.00》	平成19年度		
	電気電子工学科	4	80	3年次 5	330	学士(工学)	1.07 《1.02》	平成2年度		
	知能情報工学科	4	80	3年次 10	340	学士(工学)	1.01 《0.97》	平成19年度		
	感性デザイン工学科	4	55	—	220	学士(工学)	1.13 《1.05》	平成8年度		
	循環環境工学科	4	55	—	220	学士(工学)	1.13 《1.07》	平成19年度		
	農学部						1.04 《1.02》		山口県山口市吉田1677番地1	
	生物資源環境科学科	4	50	—	200	学士(農学)	1.05 《1.02》	平成13年度		
	生物機能科学科	4	50	—	200	学士(農学)	1.04 《1.03》	平成13年度		
	共同獣医学部						1.07 《1.05》		山口県山口市吉田1677番地1	※令和6年度より 学生募集停止 (共同獣医学部獣医学科)
	獣医学科	6	—	—	150	学士(獣医学)	1.08 《1.05》	平成24年度		
	共同獣医学科	6	30	—	30	学士(獣医学)	1.03	令和6年度		
	国際総合科学部						1.10 《1.05》		山口県山口市吉田1677番地1	
	国際総合科学科	4	100	—	400	学士(学術)	1.10 《1.05》	平成27年度		

【 大 学 院 】								
人文科学研究科 人文科学専攻	2	8	—	16	修士(文学)	1.18	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1
教育学研究科								山口県山口市吉田 1677番地1
学校臨床心理学専攻	2	7	—	14	修士(教育学)	0.78	令和元年度	
教職実践高度化専攻	2	28	—	56	教職修士 (専門職)	0.58	令和元年度	
経済学研究科								山口県山口市吉田 1677番地1
経済学専攻	2	16	—	32	修士(経済学)	1.37	昭和50年度	
企業経営専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	0.50	平成7年度	
医学系研究科								山口県宇部市 南小串 1丁目1番1号
(一貫制博士課程)								
医学専攻	4	33	—	132	博士(医学)	1.09	平成28年度	
(博士前期課程)								
保健学専攻	2	12	—	24	修士(保健学)	1.04	平成17年度	
(博士後期課程)								
保健学専攻	3	5	—	15	博士(保健学)	1.26	平成19年度	
創成科学研究科								山口県山口市吉田 1677番地1
(修士課程)								
山口大学・カセサート大学 国際連携農学生命科学専攻	2	6	—	12	修士(農学、 生命科学)	0.58	令和2年度	
(博士前期課程)						0.99		
基盤科学系専攻	2	38	—	76	修士(理学)	0.96	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1
地球圏生命物質科学系専攻	2	42	—	84	修士(理学)	0.92	平成28年度	
機械工学系専攻	2	60	—	120	修士(工学)	0.95	平成28年度	山口県宇部市常盤台 2丁目16番1号
建設環境系専攻	2	74	—	148	修士(工学、 学術)	0.94	平成28年度	
化学系専攻	2	83	—	166	修士(工学、 学術)	0.98	平成28年度	
電気電子情報系専攻	2	107	—	214	修士(工学)	1.08	平成28年度	
農学系専攻	2	36	—	72	修士(農学、 生命科学)	1.02	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1
(博士後期課程)						0.97		
自然科学系専攻	3	7	—	21	博士(理学、 学術)	0.57	平成28年度	山口県山口市吉田 1677番地1
システム・デザイン工学系専攻	3	10	—	30	博士(工学、 学術)	1.50	平成28年度	山口県宇部市常盤台 2丁目16番1号
環境共生系専攻	3	12	—	36	博士(工学、 学術)	1.11	平成28年度	
物質工学系専攻	3	8	—	24	博士(工学、 学術)	0.54	平成28年度	
ライフサイエンス系専攻	3	7	—	21	博士(医工学、生命 科学、学術)	0.90	平成28年度	
東アジア研究科								山口県山口市吉田 1677番地1
東アジア専攻	3	10	—	30	博士(学術)	1.23	平成13年度	
技術経営研究科								山口県宇部市常盤台 2丁目16番1号
技術経営専攻	2	15	—	30	技術経営修士 (専門職)	1.16	平成17年度	
共同獣医学研究科								山口大学 山口県山口市吉田 1677番地1
獣医学専攻	4	6	—	24	博士(獣医学)	2.20	平成30年度	

鹿児島大学  
鹿児島県鹿児島市  
郡元1丁目21番24号

附属施設の概要

名称：図書館  
所在地：山口市吉田1677番地1、宇部市南小串1丁目1番地1、宇部市常盤台2丁目16番地1  
規模等：12,835㎡  
設置年月：昭和24年5月1日  
目的：本学の理念に基づいた教育研究に必要な図書館資料を収集、整理及び提供するとともに、必要とする学術情報を提供し、主として本学の学生及び職員の利用に供することを目的とする。

名称：附属学校  
目的：学校教育法（昭和22年法律第26号）その他関係法令に規定する教育又は保育を施し、かつ、教育学部の教育計画に従い、教育の理論及び実践に関する研究、実証並びに学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。

- 教育学部附属山口小学校  
所在地：山口市白石3丁目1番地1  
規模等：4,513㎡  
設置年月：昭和24年5月31日
- 教育学部附属光小学校  
所在地：光市室積8丁目4番地1  
規模等：5,341㎡  
設置年月：昭和24年5月31日
- 教育学部附属山口中学校  
所在地：山口市白石1丁目9番地1  
規模等：6,011㎡  
設置年月：昭和24年5月31日
- 教育学部附属光中学校  
所在地：光市室積8丁目4番地1  
規模等：5,013㎡  
設置年月：昭和24年5月31日
- 教育学部附属特別支援学校  
所在地：山口市吉田3003  
規模等：3,539㎡  
設置年月：昭和54年4月1日
- 教育学部附属幼稚園  
所在地：山口市白石3丁目1番地2  
規模等：884㎡  
設置年月：昭和41年4月1日

名称：医学部附属病院  
所在地：山口県宇部市南小串1丁目1番1号  
規模等：99,144㎡  
設置年月：昭和42年6月1日  
目的：患者の診療を通じて、医学の教育及び研究を行うことを目的とする。

名称：工学部附属ものづくり創成センター  
所在地：宇部市常盤台2丁目16番地1  
規模等：1,032㎡  
設置年月：平成15年4月1日  
目的：ものづくりを通じて感性の涵養、創造性、独創性及び問題解決能力を育成するため、創成工学教育に関する教育プログラムの開発・実践を行うとともに、ものづくり基盤を推進するための技術教育を行うことを目的とする。

名称：農学部附属農場  
所在地：山口市吉田1677番地1  
規模等：3,108㎡  
設置年月：昭和24年11月1日  
目的：農学に関する実証的な研究及び学生の実験、実習に資することを目的とする。



名称：共同獣医学部附属動物医療センター 所在地：山口市吉田1677番地1 規模等：2,115㎡ 設置年月：昭和28年7月1日 目的：獣医学の臨床教育及び学術研究の目的をもって動物の診療を行う。	
--	--

## 国立大学法人山口大学 設置申請に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山口大学				山口大学				
人文学部				人文学部				
人文学科	185		740	人文学科	185		740	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	180		720	学校教育教員養成課程	<u>155</u>		<u>620</u>	定員変更 (△25)
経済学部				経済学部				
経済学科	130		520	経済学科	130		520	ひと・まち未来共創学 環の内数[5]
経営学科	165		660	経営学科	165		660	
観光政策学科	50		200	観光政策学科	50		200	ひと・まち未来共創学 環の内数[10]
理学部				理学部				
数理科学科	50		200	数理科学科	50		200	
物理・情報科学科	60		240	物理・情報科学科	60		240	
化学科	40		160	化学科	40		160	
生物学科	40		160	生物学科	40		160	
地球圏システム科学科	30		120	地球圏システム科学科	30		120	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	109	10	696	医学科	<u>90</u>	10	<u>590</u>	定員変更 (△19)
保健学科	120		480	保健学科	120		480	
工学部		3年次		工学部		3年次		
機械工学科	90	5	370	機械工学科	90	5	370	
社会建設工学科	80		320	社会建設工学科	80		320	
応用化学科	90		360	応用化学科	90		360	
電気電子工学科	80	5	330	電気電子工学科	80	5	330	
知能情報工学科	80	10	340	知能情報工学科	80	10	340	
感性デザイン工学科	55		220	感性デザイン工学科	55		220	
循環環境工学科	55		220	循環環境工学科	55		220	
農学部				農学部				
生物資源環境科学科	50		200	生物資源環境科学科	50		200	
生物機能科学科	50		200	生物機能科学科	50		200	
共同獣医学部				共同獣医学部				
共同獣医学科	30		180	共同獣医学科	30		180	
国際総合科学部				国際総合科学部				定員変更 (25)
国際総合科学科	100		400	国際総合科学科	<u>125</u>		<u>500</u>	ひと・まち未来共創学 環の内数[25]
				ひと・まち未来共創学環	<u>[40]</u>		<u>[160]</u>	学部等連係課程実施基 本組織の設置 (届出)
計	1,919	2年次 10 3年次 20	8,036	計	<u>1,900</u>	2年次 10 3年次 20	<u>7,930</u>	

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
山口大学大学院				山口大学大学院				
人文科学研究科				人文科学研究科				
人文科学専攻	8		16	人文科学専攻	0		0	令和7年4月学生募集停止
教育学研究科				教育学研究科				
学校臨床心理学専攻	7		14	学校臨床心理学専攻	0		0	令和7年4月学生募集停止
教職実践高度化専攻	28		56	教職実践高度化専攻	28		56	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻	16		32	経済学専攻	0		0	令和7年4月学生募集停止
企業経営専攻	10		20	企業経営専攻	0		0	令和7年4月学生募集停止
医学系研究科				人間科学研究科				研究科の設置（届出）
（一貫制博士課程）				人文科学専攻	7		14	
医学専攻	33		132	臨床心理学専攻	6		12	
（博士前期課程）				経済学・経営学専攻	22		44	
保健学専攻	12		24	共創科学専攻	6		12	
（博士後期課程）				医学系研究科				
保健学専攻	5		15	（一貫制博士課程）				
創成科学研究科				医学専攻	33		132	
（修士課程）				（博士前期課程）				
山口大学・カセサート大学				保健学専攻	12		24	
国際連携農学生命科学専攻	6		12	（博士後期課程）				
（博士前期課程）				保健学専攻	5		15	
基盤科学系専攻	38		76	創成科学研究科				
地球圏生命物質科学系専攻	42		84	（修士課程）				
化学系専攻	83		166	山口大学・カセサート大学				
電気電子情報系専攻	107		214	国際連携農学生命科学専攻	6		12	
機械工学系専攻	60		120	（博士前期課程）				
建設環境系専攻	74		148	基盤科学系専攻	38		76	
農学系専攻	36		72	地球圏生命物質科学系専攻	42		84	
（博士後期課程）				化学系専攻	83		166	
自然科学系専攻	7		21	電気電子情報系専攻	107		214	
物質工学系専攻	8		24	機械工学系専攻	60		120	
システム・デザイン工学系専攻	10		30	建設環境系専攻	74		148	
環境共生系専攻	12		36	農学系専攻	36		72	
ライフサイエンス系専攻	7		21	（博士後期課程）				
東アジア研究科				自然科学系専攻	7		21	
東アジア専攻	10		30	物質工学系専攻	8		24	
技術経営研究科				システム・デザイン工学系専攻	10		30	
技術経営専攻	15		30	環境共生系専攻	12		36	
共同獣医学研究科				ライフサイエンス系専攻	7		21	
獣医学専攻	6		24	東アジア研究科				
				東アジア専攻	10		30	
				技術経営研究科				
				技術経営専攻	15		30	
				共同獣医学研究科				
				獣医学専攻	6		24	
計	640	-	1,417	計	640	-	1,417	

教育課程等の概要																		
（ひと・まち未来共創学環）																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員		
共通教育科目	教養コア 基礎セミナー データ科学と社会Ⅰ データ科学と社会Ⅱ 知的財産入門 運動健康科学 山口と世界 知の広場 キャリア教育	1前		2			○			4							オムニバス	
		1前		1			○								1			
		1前		1			○								1			
		1前		1			○								1			
		1前		1			○								1			
		1前		1			○								1			
		1後		1			○				1		1					
		3前		1			○								1			
	小計（8科目）	—	—	9	0	0	—	—	—	4	1		1		5			
	英語	英語Ⅰa	1前		2			○									1	
英語Ⅱa		1前		2			○									1		
英語Ⅰb		1後		2			○									1		
英語Ⅱb		1後		2			○									1		
英語会話Ⅰa		1前		1			○									1		
英語会話Ⅱa		1前		1			○									1		
英語会話Ⅰb		1後		1			○									1		
英語会話Ⅱb		1後		1			○									1		
小計（8科目）	—	—	0	12	0	—	—	—	0	0	0	0	0	2				
一般教養	人文教養 哲学 歴史学 社会学	1前		1			○									1		
		1前		1			○								1			
		1前		1			○			1								
	社会教養 経済と法1 経済と法2 経済と法3	1前		1			○									1		
		1前		1			○									1		
		1前		1			○									1		
	自然教養 自然科学1 自然科学2	1前		1			○									1		
		1後		1			○									1		
	学際的教養 人間の発達と育成1 人間の発達と育成2 文化の継承と創造1 文化の継承と創造2 社会と医療 環境と人間 食と生命	1前		1			○			1								
		1後		1			○			1								
		1前		1			○									1		
		1後		1			○									1		
		1前		1			○									1		
		1前		1			○									1		
	小計（15科目）	—	—	15	0	0	—	—	—	2	0	0	0	0	12			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員		
専門科目	学環基盤科目	教理的素養	データ科学のための基礎数学	1後	○	2			○			1						※1
		統計学概論	2前	○	2			○						1				
			心理統計学演習 (心理学統計法)	2前	○	2			○				1					※1
			データ科学のための発展数学	2後		2			○			1						
			統計学演習	2後	○	2			○				1					※1
	デザイン思考・コミュニケーション		コミュニケーション概論	1後③		1			○							1		※演習
			デザイン思考論	2前	○	2			○							1		※講義
			デザイン演習	2前		2			○							1		
			カウンセリングマインド論	2後		2			○			1						
			多文化共生とコミュニケーション	2後		2			○							1		
			心理学的支援法	3前		2			○			1						
	心理学・行動科学		ウェルビーイング学	1前	○	1			○						1			オムニバス
			人間行動科学入門 (心理学概論)	1後	○	1			○			2						オムニバス
			行動科学概論	2前	○	2			○				1					
			社会心理学 (社会・集団・家族心理学)	2前	○	2			○				1					
			知覚・認知心理学 I	2前①	○	1			○			1						
			「産業・組織とひとづくり」の心理学 (産業・組織心理学)	2後	○	2			○			1						
	経済学・経営学		経済学概論	1後④	○	1			○			1						
			経営学概論	1前②	○	1			○				1					
			ミクロ経済学 I	2前	○	4			○				1					※2
			マクロ経済学 I	2後	○	2			○				1					※2
			経営学総論	2前	○	2			○				1					※2
			経営組織論	2前	○	2			○			1						※2
			経営管理論	2後	○	2			○				1					※2
			経営戦略論	2前	○	2			○				1					※2
	社会学		社会学概論	1後③	○	1			○			1				1		共同
			社会調査法 I (質的調査)	1後③	○	1			○			1						
			社会調査法 II (量的調査)	1後④	○	1			○				1					
			コミュニティデザイン論	2後	○	2			○							1		
	地域学		地域文化論	1後	○	2			○							1		
			地域学	2前	○	2			○							1		
	デジタル技術・AI技術活用		情報科学概論 (実習を含む。)	1前	○	2			○			1						※実習
			情報通信ネットワーク論 (実習を含む。)	1後		2			○				1					※実習
			情報処理言語 I (実習を含む。)	2前		4			○			1						※実習
			DX概論	2前	○	2			○				1					
			人工知能概論	2後	○	2			○					1				
			情報処理言語 II (実習を含む。)	2後		4			○			1						※実習
			人工知能演習	3前	○	2			○					1				
			データサイエンス概論	3前	○	2			○				1					
			データサイエンス演習	3前	○	2			○				1					
			マルチメディア概論 (実習を含む。)	3前		2			○			1						※実習
			データベース概論 (実習を含む。)	3前		2			○			1						※実習
			ビジネスデータ科学	3前		2			○				1					
			情報化社会概論 (情報倫理を含む。)	3後		2			○							1		
			視覚伝達デザイン	3後		2			○			1						
		情報職業論	4前		2			○							1			
		小計 (46科目)	-	-	38	51	0	-	-	-	7	11	3	0	0	11		

プログラム専門科目	心理学・行動科学系科目群	発達心理学	1後		2		○			1										
		臨床心理学概論	1後		2		○			1										
		「次世代育成と教育」の心理学 (教育・学校心理学)	2前		2		○			1										
		心理学研究法	2前		2		○				1									
		形態機能学Ⅰ (人体の構造と機能及び疾病)	2前	1		2		○				1								
		「障害と社会の多様性」の心理学 (障害者・障害児心理学)	2後		2		○						1							
		「健康と福祉」の心理学 (健康・医療心理学)	2後		2		○									1				
		「地域福祉と支援サービス」の心理学 (福祉心理学)	2後		2		○									1				
		「安全・安心なまちづくり」の心理学 (司法・犯罪心理学)	2後		2		○									1				
		知覚・認知心理学Ⅱ	2後③	1		2		○				1								
		感情・人格心理学	2後		2		○									1				
		学習・言語心理学	2後		2		○					1								
		神経・生理心理学	2後	1		2		○		○		2				1			オムニバス	
		心理学実験	2後		2		○													
		ヘルスリテラシー	2後		2		○												1	
		関係行政論	3前		1		○												1	
		公認心理師の職責	3前		1		○			○		1								
		精神保健学 (精神疾患とその治療)	3前		2		○							1						オムニバス
		心理演習	3前		2		○	○			○	2	1	1						
		心理研究演習	3前		2		○	○			○	2	2	2						
組織における健康リスクマネジメント	3前		2		○			○		1	1						1			
心理実習	3通		2		○					1	1							1		
異文化間心理学概論	3後		2		○															
心理学的アセスメント	3後		2		○							1								
社会科学系科目群	経済学	ミクロ経済学Ⅱ	3後		2		○											1		
		マクロ経済学Ⅱ	3前		2		○				1									
		経済統計学Ⅰ	3前		2		○												1	
		経済統計学Ⅱ	3後		2		○												1	
		計量経済学	3後		2		○												1	隔年
		産業連関論	3後		2		○												1	
		経済政策総論	3後		2		○												1	
		金融経済論	3前		4		○												1	
		財政学	3後		4		○												1	
		公共政策論	3前		2		○												1	
		地域経済論	3前		2		○												1	
		労働経済論	3前		2		○												1	隔年
		医療福祉経済論	3前		2		○												1	
		国際経済学	3後		2		○												1	
		国際金融論	3後		2		○												1	
		経済発展論	3前		2		○												1	
		観光政策概論	3前		2		○												1	
		観光経済学	3前		2		○												1	
		観光統計学	3前		2		○												1	
		観光地域経済論	3後		2		○												1	
環境経済学	3前		2		○												1			
経営学	経営学	財務管理論	3前		2		○											1		
		国際経営論	3後		2		○			1										
		地域企業経営論	3前		2		○												1	
		中小企業経営論	3後		2		○					1								
		企業論	3後		2		○												1	
		多国籍企業論	3前		2		○			1										
		経営統計学	3前		2		○												1	
		会計学Ⅰ	3前		2		○												1	
		会計学Ⅱ	4前		2		○												1	
		簿記	3前		2		○												1	
		流通論Ⅰ	3前		2		○												1	
		流通論Ⅱ	3後		2		○												1	
		マーケティング論	3前		2		○												1	
		マーケティング戦略論	3後		2		○												1	
		商品学	3前		2		○												1	
		商品開発論	3後		2		○												1	
		保険論Ⅰ	3前		2		○												1	
		保険論Ⅱ	3後		2		○												1	隔年
		観光マーケティング論	3前		2		○												1	
		ヘルスツーリズム論	3後		2		○												1	
観光文化心理学	3後		2		○				1											

社会学	質的調査データ解析法	2前		2		○									1	
	現代社会学概論（社会調査）	2前		2		○									1	
	課題の発見と検証	2前		2		○									1	
	現代社会学概論（基礎理論）	2後		2		○									1	
	社会心理学概論	2後		2		○								2	オムニバス	
	民俗学・文化人類学概論	2後		2		○									1	
	現代社会学特殊講義（地域福祉）	3前		2		○									1	隔年
	現代社会学特殊講義（コミュニティと災害）	3前		2		○									1	隔年
	社会心理学特殊講義（社会問題）	3後		2		○									1	隔年
	社会心理学特殊講義（コミュニケーション）	3後		2		○									1	隔年
	民俗学・文化人類学特殊講義（現代民俗）	3前		2		○									1	
	民俗学・文化人類学特殊講義（生活文化）	3後		2		○									1	
	人材育成論	3前		2		○				1						
	環境教育概論	3前		2		○					1					
子ども社会学概論	3前		2		○									1		
地域福祉社会学	3前		2		○									1		
小計（82科目）	—	—	0	163	0	—	—	—	4	5	3	1	0	46		
課題解決科目	プロジェクトマネジメント論	2後		2		○					1					
	DXによる地域課題解決（PBL）入門	2前	○	2		○				1		1			共同	
	DXによる地域課題解決（PBL）Ⅰ	3前	○	2		○				2		1		1	共同 ※実習	
	DXによる地域課題解決（PBL）Ⅱ	3後	○	2			○		10	7	6	1			共同	
小計（4科目）	—	—	6	2	0	—	—	10	7	6	1	0	1			
卒業研究	研究演習	3後	○	2		○			10	6	6	1				
	卒業研究	4通	○	4		○			10	6	6	1				
	小計（2科目）	—	—	6	0	0	—	—	10	6	6	1	0	0		
合計（165科目）		—	—	74	228	0	—	—	11	12	6	1	0	72		
学位又は称号		学士（学術）			学位又は学科の分野			文学、経済学、工学								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
<p>〔卒業要件〕 共通教育科目から30単位以上、専門科目から98単位以上、合計128単位以上を修得すること。</p> <p>I. 共通教育科目 必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位以上を修得すること。 （必修科目 内訳） ・教養コア系列 9単位 ・一般教養系列 15単位 （選択必修科目 内訳） ・英語系列 6単位 ただし、「英語Ⅰa」又は「英語Ⅱa」から2単位、「英語Ⅰb」又は「英語Ⅱb」から2単位、「英語会話Ⅰa」又は「英語会話Ⅱa」から1単位、「英語会話Ⅰb」又は「英語会話Ⅱb」から1単位を修得するものとする。</p> <p>II. 専門科目 必修科目50単位及び選択必修科目8単位を含め、98単位以上を修得すること。 （1）学環基盤科目 46単位以上 必修科目38単位及び選択必修科目8単位を含め46単位以上修得すること。 （選択必修科目内訳） ※1 「統計学演習」又は「心理統計学演習（心理学統計法）」から2単位 ※2 「経済学・経営学」系列は、以下の組み合わせから1つを選択し、計6単位を修得すること。 ①「ミクロ経済学Ⅰ」（4単位）及び「マクロ経済学Ⅰ」（2単位） 計6単位 ②「経営学総論」、「経営組織論」、「経営管理論」及び「経営戦略論」（各2単位）のうちから3科目6単位 ③「ミクロ経済学Ⅰ」（4単位）及び「経営学総論」（2単位） 計6単位</p> <p>（2）プログラム専門科目 28単位以上 ・ひと・まち共創心理系プログラム 心理学・行動科学系科目群から22単位以上、社会科学系科目群から6単位以上 ・ひと・まち共創社会系プログラム 社会科学系科目群から22単位以上、心理学・行動科学系科目群から6単位以上</p> <p>（3）課題解決科目 6単位以上 （4）卒業研究 6単位</p> <p>〔他学部科目〕 他学部の授業科目は、開講学部の承諾を得て履修することが出来る。この場合、取得した単位は専門科目の単位として取り扱い、6単位を限度として卒業に必要な専門科目の単位数に含めることができる。</p>							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業の標準時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																		
連係協力学部（教育学部学校教育教員養成課程）																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員		
共通 教育 科目	教養 コア	基礎セミナー	1前		2			○				31	21	15				※演習 オムニバス
		データ科学と社会Ⅰ	1前		1			○									1	
		データ科学と社会Ⅱ	1前		1			○									1	
		知的財産入門	1前		1			○									1	
		運動健康科学	1前		1			○									1	
		山口と世界	1後		1			○									1	
		知の広場	1前		1			○									1	
		キャリア教育	1後		1			○		○		3	2	3				※講義 共同
	小計（8科目）	—	—	—	9	0	0	—	—	—	—	31	22	15	0		6	
	英語	英語Ⅰa	1前			2			○								1	
英語Ⅱa		1前			2			○								1		
英語Ⅰb		1後			2			○								1		
英語Ⅱb		1後			2			○								1		
英語会話Ⅰa		1前			1			○								1		
英語会話Ⅱa		1前			1			○								1		
英語会話Ⅰb		1後			1			○								1		
英語会話Ⅱb		1後			1			○								1		
小計（8科目）	—	—	—	0	12	0	—	—	—	—	0	0	0	0	2			
一般 教養	人文 教養	哲学	1後		1			○								1		
		歴史学	1後		1			○								1		
		社会学	1前		1			○								1		
	小計（3科目）	—	—	—	3	0	0	—	—	—	—	0	0	0	0	3		
	社会 教養	経済と法1	1前			1			○								1	
		経済と法2	1後			1			○								1	
		経済と法3	1後			1			○								1	
	小計（3科目）	—	—	—	3	0	0	—	—	—	—	0	0	0	0	3		
	自然 教養	自然科学1	1前			1			○								1	
		自然科学2	1前			1			○								1	
		小計（2科目）	—	—	—	2	0	0	—	—	—	—	0	0	0	0	2	
	学 際 的 教 養	人間の発達と育成1	1前			1			○			1						
文化の継承と創造1		1前			1			○			1							
社会と医療		1後			1			○								1		
環境と人間		1前			1			○								1		
食と生命		1前			1			○								1		
小計（5科目）	—	—	—	5	0	0	—	—	—	2	0	0	0	0	3			
専 門 基 礎	理 系 基 礎	数学Ⅰ	1前			2			○				1					
		数学Ⅱ	1後			2			○				1					
		小計（2科目）	—	—	—	0	4	0	—	—	—	1	1	0	0			
教 職 基 礎	教 職 基 礎	日本国憲法	1前			2			○			1						
		スポーツ運動実習	1後			1				○		1						
		小計（2科目）	—	—	—	3	0	0	—	—	—	2	0	0	0			



科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く		
専門科目	教科に関する専門的事項(小)	初等科国語	2後	○		2		○			1	1	1					オムニバス
		初等科社会	1後	○		2		○			2	2	2					2クラス
		初等科数学	2前	○		2		○			2	1						オムニバス
		初等科理科	2前	○		2		○			1							オムニバス
		初等科生活	3前	○		2			○			1				1		2クラス
		初等科音楽	2後	○		2			○		2							2クラス
		小学校歌唱伴奏法	4前	○		2			○				1			2		5クラス
		初等科図画工作	2前	○		2		○			3	1						オムニバス
		初等科体育	2前	○		2			○		2					2		共同
		初等科家庭	2前	○		2		○			1	2						2クラス
		初等科英語	3後	○		2		○			2	1						オムニバス
小計(11科目)	—	—	0	22	0	—	—	—	16	9	4	0		5				
各教科の指導法(小)	教科教育法国語	2後	○		2		○								1		2クラス	
	教科教育法社会	2後	○		2		○				1						2クラス	
	教科教育法算数	3前	○		2		○			1							オムニバス	
	教科教育法理科	3前	○		2		○			4	1						2クラス	
	教科教育法生活	3前	○		2		○				1							
	教科教育法音楽	3前	○		2			○		1							2クラス	
	教科教育法図画工作	2後	○		2		○			1							2クラス	
	教科教育法体育	2後	○		2		○				1	1					共同	
	教科教育法家庭	2後	○		2		○					1					2クラス	
	教科教育法英語	3前	○		2		○			1							※演習	
	小計(10科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	7	5	2	0		1			
教科及び教科の指導法に関する科目(中・高)	国語学	国語学概論(音声言語及び文章表現を含む。)	2前	○		2		○			1							
		国語史	2後	○		2		○			1							
		国語学特講	4前	○		2		○			1							
		国語学演習	3後	○		2			○		1							
		国語特演Ⅰ	2前	○		2			○		1	1	1					3クラス
		国語特演Ⅱ	2後	○		2			○		1	1	1					3クラス
		国語特論Ⅰ	4前	○		2			○		1	1	1					3クラス
		国語特論Ⅱ	4後	○		2			○		1	1	1					3クラス
	小計(8科目)	—	—	0	16	0	—	—	—	1	1	1	0		0			
	国文学	国文学基礎講読	1前	○		2		○								1		
		国文学概論(国文学史を含む。)	2前	○		2		○					1					
		国文学講読Ⅰ	2後	○		2		○					1					
		国文学講読Ⅱ	3前	○		2		○					1					
		国文学演習Ⅰ	3後	○		2			○				1					
		国文学演習Ⅱ	2後	○		2			○							1		
	小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	1	0	1	0		1			
	漢文学	漢文学講読	1後	○		2		○				1						
		漢文学概論	2前	○		2		○				1						
		漢文学演習	3前	○		2			○			1						
	小計(3科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	0	1	0	0	0				
	書道	書道Ⅰ	1前	○		1				○	1							
		書道Ⅱ	1後	○		1				○	1							
		小計(2科目)	—	—	0	2	0	—	—	—	1	0	0	0	0			
	日本史・外国史	日本史Ⅰ	2前	○		2		○			1							
日本史Ⅱ		2後	○		2		○			1								
日本史演習		3前	○		2			○		1								
社会科特別研究AⅠ		3後	○		2			○		2	1	2						
外国史Ⅰ		2前	○		2		○					1						
外国史Ⅱ		2後	○		2		○					1						
外国史演習		3前	○		2			○				1						
小計(7科目)	—	—	0	14	0	—	—	—	2	1	2	0						
地理学	自然地理学	2後	○		2		○				1							
	人文地理学	2前	○		2									1				
	地理学演習	3前	○		2			○			1							
	地理学実習	3前	○		1				○		1							
	地理学巡検	3後	○		1						1							
	地域人文地理学	2後	○		2		○				1							
	地理学概論	2前	○		2		○				1							
	社会科特別研究AⅡ	4前	○		2			○		2	1	2						
小計(8科目)	—	—	0	14	0	—	—	—	2	1	2	0		1				
法律学、政治学	日本国憲法	2後	○		2		○			1								
	現代法(国際法を含む。)	2前	○		2					1								
	法律学演習	3前	○		2			○		1								
	社会科特別研究BⅡ	4前	○		2			○		2	1	2						
	小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	3	1	2	0		0			

社会学、 経済学	社会学 社会調査論	2前 2後	○ ○		2 2		○ ○						1 1	
	経済概論	2前	○		2		○				1			
	経済政策 (国際経済を含む。)	2後	○		2		○				1			
	社会科基礎演習	1後	○		2			○			2	1	2	
	小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—				2	2	2	0
哲学、 宗教学	哲学倫理学Ⅰ	1前	○		2		○						1	
	哲学倫理学Ⅱ	2後	○		2		○						1	
	哲学倫理学演習	3前	○		2		○						1	
	社会科特別研究BⅠ	3後	○		2			○			2	1	2	
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—				2	1	2	0
代数学	代数学Ⅰ	2前	○		2		○				1			
	代数学Ⅱ	2後	○		2		○				1			
	代数学Ⅲ	3前4前	○		2		○				1			
	数学講義Ⅰ	1後	○		2		○					1		
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—				1	1	0	0
幾何学	幾何学Ⅰ	2前	○		2		○							1
	幾何学Ⅱ	2後	○		2		○				1			
	幾何学Ⅲ	3前4前	○		2		○				1			
	集合論Ⅰ	1前	○		2		○				1			
	集合論Ⅱ	1後	○		2		○				1			
小計 (5科目)	—	—	0	10	0	—				2	0	0	0	
解析学	解析学Ⅰ	2前	○		2		○				1			
	解析学Ⅱ	2後	○		2		○				1			
	解析学Ⅲ	3後4後	○		2		○				1			
	数学講義Ⅱ	2後	○		2		○				1			
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—				1	0	0	0
確率論、 統計学	確率・統計学	3前	○		2		○					1		
	数学講義Ⅲ	3後	○		2		○				1			
	小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—				1	1	0	0
コン ピ ユ ー タ	計算機概論	1前	○		2		○				1			
	計算機数学Ⅰ	3後4後	○		2		○				1			
	計算機数学Ⅱ	3前4前	○		2		○					1		
	計算機数学Ⅲ	3後4後	○		2		○				1			
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—				2	1	0	0
物理学	物理学概論Ⅰ	1前	○		2		○				1			
	物理学概論Ⅱ	2前	○		2		○				1			
	物理学演習	3後	○		2			○			1			
	物理学実験	2後	○		1				○		2			
	小計 (4科目)	—	—	0	7	0	—				2	0	0	0
化学	化学概論Ⅰ	1後	○		2		○				1			
	化学概論Ⅱ	2前	○		2		○				1			
	化学演習	3後	○		2			○			1			
	化学実験	2後	○		1				○		1			2
	小計 (4科目)	—	—	0	7	0	—				1	0	0	0
生物学	生物学概論	1後	○		2		○				1	1		
	生化学	2後	○		2		○				1			
	発生生物学	3前	○		2		○					1		
	環境生物学	3前	○		2		○				1			
	生物学演習	3後	○		2			○			1	1		
	生物学実験	2前	○		1				○		1	1		
	小計 (6科目)	—	—	0	11	0	—				1	1	0	0
地学	地学概論Ⅰ	2前	○		2		○							1
	地学概論Ⅱ	3後	○		2		○							1
	地学演習	2後	○		2			○						1
	地学実験	2前	○		1				○					1
	小計 (4科目)	—	—	0	7	0	—				0	0	0	0
ソ ル フ ェ ー ジュ	ソルフェージュ	1後	○		2				○			1	1	
	小計 (1科目)	—	—	0	2	0	—				0	1	1	0
声 楽	独唱Ⅰ	1前	○		1				○					1
	独唱Ⅱ	1後	○		2				○					1
	独唱Ⅲ	2前	○		2				○					1
	独唱Ⅳ	2後	○		2				○					1
	合唱Ⅰ (日本の伝統的な歌唱を含む。)	1後	○		2				○					1
	合唱Ⅱ	2後	○		2				○					1
	合唱Ⅲ	4後	○		2				○					1
小計 (7科目)	—	—	0	13	0	—				0	0	1	0	



材料加工	製図	1後	○		2			○		1								共同
	材料加工Ⅰ（実習を含む。）	2前	○		2			○		1		1						隔年
	木材加工演習	2後3後	○		2			○		1								隔年
	総合技術Ⅰ	2後3後	○		2			○		1	1							共同
	金属材料学	2前	○		2			○		1		1						※講義
材料加工Ⅱ（実習を含む。）	3前	○		2				○	2	1	1						オムニバス	
小計（6科目）	—	—	0	12	0			—	2	1	1	0		0				オムニバス
機械・電気	機械工学Ⅰ	2前	○		2			○		1								隔年 共同 ※講義
	機械工学Ⅱ	2後	○		2			○		1								
	応用機械（実習を含む。）	3前	○		2				○	1								
	総合技術Ⅱ	3後4後	○		2			○		1	1							
	電子回路学	2後	○		2			○				1						
	電気回路学	2前	○		2			○				1						
	応用電気（実習を含む。）	3前	○		2				○			1						
小計（7科目）	—	—	0	14	0			—	1	1	1	0		0				
生物育成	生物育成（実習を含む。）	2前	○		2			○							2			オムニバス
	農業環境論	3前	○		2			○							1			
小計（2科目）	—	—	0	4	0			—	0	0	0	0		3				
情報・コミュニケーション	情報処理論（実習を含む。）	1前	○		2			○		1								隔年
	情報基礎Ⅰ	1後	○		2			○		1								
	情報基礎Ⅱ	2前3前	○		2			○		1								
小計（3科目）	—	—	0	6	0			—	1	0	0	0		0				
家庭経営学	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	1前	○		2			○				1						※演習
	生活科学論	2後	○		2			○			1							
小計（2科目）	—	—	0	4	0			—	0	1	1	0		0				
被服学	衣生活環境論	1前	○		2			○		1								※1
	衣料素材論Ⅰ	2前	○		2			○		1								※実習
	衣料素材論Ⅱ	2後	○		2			○		1								
	被服造形論（被服実習を含む。）	2前	○		2			○							1			
	被服学実験	3前	○		1				○	1								
小計（5科目）	—	—	0	9	0		—	1	0	0	0		1					
食物学	食文化論	1後	○		2			○							1			※1
	食品衛生学	1後2後	○		2			○			1							隔年 ※実習
	栄養学Ⅰ	2前	○		2			○			1							※1
	栄養学Ⅱ	2後3後	○		2			○			1							隔年 ※実習
	調理学実習Ⅰ	1後	○		1				○		1							隔年
	調理学実習Ⅱ	2前3前	○		1				○		1							隔年
	食品科学	2後	○		2			○							1			
	食品栄養学実験	2前3前	○		1				○		1							隔年
小計（8科目）	—	—	0	13	0		—	0	1	0	0		1					
住居学	住生活科学概論	1後	○		2			○			1							※1
	住居学（製図を含む。）	2前	○		2				○		1							
小計（2科目）	—	—	0	4	0		—	0	1	0	0		0					
保育学	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	2後	○		2			○		2								オムニバス ※実習
	保育学演習	3前	○		2			○							1			※1
小計（2科目）	—	—	0	4	0		—	2	0	0	0		1					
英語学	実践英語音声学	1前	○		2			○				1						隔年 隔年
	言語学概論Ⅰ	2前	○		2			○				1						
	言語学概論Ⅱ	2後	○		2			○				1						
	英語史Ⅰ	2前3前	○		2			○				1						
	英語史Ⅱ	2後3後	○		2			○				1						
	英文法演習	2後	○		2				○			1						
	英語学演習	4前	○		2							1						
小計（7科目）	—	—	0	14	0		—	0	0	1	0		0					
英語文学	英語文学概論	2前	○		2			○		1								
	英語文学講義	2後	○		2			○		1								
	英語文学の地域と文化	1後	○		2			○		1								
	英語文学演習	3前	○		2				○	1								
小計（4科目）	—	—	0	8	0		—	1	0	0	0		0					
英語コミュニケーション	実践総合英語Ⅰ	1後	○		2			○				1						2クラス 2クラス
	実践総合英語Ⅱ	2前	○		2			○				1						
	実践総合英語Ⅲ	2後	○		2			○				1						
	英語表現Ⅰ	2前	○		2			○				1						
	英語表現Ⅱ	2後	○		2			○				1						
小計（5科目）	—	—	0	10	0		—	0	0	1	0		0					
異文化理解	日本語の文化と英語の文化	1後	○		2			○		1								
	英語文化と言語	3後	○		2			○		1								
小計（2科目）	—	—	0	4	0		—	1	0	0	0		0					

情報社会へ職業に關する 情報処理	情報化社会概論（情報倫理を含む。）	3後	○		2	○								1	
	情報職業論	2前	○		2	○								1	
	小計（2科目）	—	—	0	4	0	—			0	0	0	0	2	
	情報科学概論（実習を含む。）	2前	○		2	○				1					※実習
	情報処理言語Ⅰ（実習を含む。）	2前	○		4	○				1					※実習
コンピュータ・ 情報処理	計算機アルゴリズム（実習を含む。）	3前	○		2	○					1				※実習
	教育情報処理論（実習を含む。）	2後	○		2	○				1					※実習
	小計（4科目）	—	—	0	10	0	—			2	1	0	0	0	
	データベース概論（実習を含む。）	3前	○		2	○				1					※実習
	教育情報システム論	2後	○		2	○				1					
情報通信ネット ワーク	情報処理演習	2後	○		2		○				1				
	小計（3科目）	—	—	0	6	0	—			2	0	1	0	0	
	情報通信ネットワーク論（実習を含む。）	1後	○		2	○					1				※実習
	グラフ・ネットワーク論	3後	○		2	○					1				
	小計（2科目）	—	—	0	4	0	—			0	1	0	0	0	
マルチメディア表現・ グラフィック	マルチメディア概論（実習を含む。）	2前	○		2	○				1					※実習
	情報処理言語Ⅱ（実習を含む。）	2後	○		4	○				1					※実習
	視覚伝達デザイン	3後	○		2	○				1					
	小計（3科目）	—	—	0	8	0	—			2	0	0	0	0	
	中学校指導法（中・高）	国語科教育法Ⅰ	2後	○		2	○								1
国語科教育法Ⅱ		3前	○		2	○								1	
国語科教育法Ⅲ		3前	○		2	○								1	
国語科教育法Ⅳ		3後	○		2	○								1	
小計（4科目）		—	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	1
社会	中等地理歴史教育論Ⅰ	2後	○		2	○								1	
	中等公民教育論Ⅰ	2前	○		2	○					1				
	中等地理歴史教育論Ⅱ	3後	○		2	○								1	
	中等公民教育論Ⅱ	3後	○		2	○					1				
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			0	1	0	0	0	1
数学	数学科教育法Ⅰ	2前	○		2	○								1	
	数学科教育法Ⅱ	2後	○		2	○								1	
	数学科教育法Ⅲ	3前	○		2	○								1	
	数学科教育法Ⅳ	3後	○		2	○								1	
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	1
理科	理科教育法Ⅰ	2前	○		2	○				1					
	理科教育法Ⅱ	2後	○		2	○			3	1					オムニバス
	理科教育法Ⅲ	3前	○		2	○			1						
	理科教育法Ⅳ	3後	○		2	○			1						
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—		4	1	0	0	0	0	
音楽	音楽科教育法Ⅰ	2後	○		2	○				1					
	音楽科教育法Ⅱ	3前	○		2		○		1						
	音楽科教育法Ⅲ	3後	○		2		○		1						
	音楽科教育法Ⅳ	4前	○		2		○		1						
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—		1	0	0	0	0	0	
美術	美術科教育法Ⅰ	3前	○		2	○			1						
	美術科教育法Ⅱ	3前	○		2	○			1						
	美術科教育法Ⅲ	3後	○		2	○			1						
	美術科教育法Ⅳ	3後	○		2	○			1						
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—		1	0	0	0	0	0	
保健体育	保健体育科教育法Ⅰ	2前	○		2	○					1				
	保健体育科教育法Ⅱ	2後	○		2	○					1				
	保健体育科教育法Ⅲ	3前	○		2	○				1					
	保健体育科教育法Ⅳ	3後	○		2	○					1				
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—		0	1	1	0	0	0	
技術	技術科教育法Ⅰ	2後	○		2		○			1	1				共同 ※講義
	技術科教育法Ⅱ	3前	○		2		○			1	1				共同 ※講義
	技術科教育法Ⅲ	3前	○		2		○			1					※講義
	技術科教育法Ⅳ	3後	○		2		○			1					※講義
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—		0	1	1	0	0	0	
家庭	家庭科教育法Ⅰ	2前	○		2	○					1				※演習
	家庭科教育法Ⅱ	2後	○		2	○					1				※演習
	家庭科教育法Ⅲ	3前	○		2	○					1				※演習
	家庭科教育法Ⅳ	3後	○		2	○					1				※演習
	小計（4科目）	—	—	0	8	0	—		0	1	1	1	0	0	
英語	英語科教育概論	2後	○		2	○				1					
	実践英語科教育法	3前	○		2	○				1					
	英語科教育法Ⅰ	3前	○		2	○				1					
	英語科教育法Ⅱ	3後	○		2	○					1				
	英語科教育法Ⅲ	4前	○		2	○					1				
小計（5科目）	—	—	0	10	0	—		1	1	0	0	0	0		

	情報	情報科教育法Ⅰ 情報科教育法Ⅱ 小計(2科目)	2後 3前 —	○ ○ —	2 2 0	○ ○ —	1 1 —	1 1 —	0 0 —	0 0 —	2 — —	メディア メディア オムニバス	
領域及び保育内容の指導演法に関する科目	領域に関する専門的事項	幼児と健康	2前	○	1	○	1	0	1	—	—	※演習 オムニバス	
		幼児と人間関係	1後	○	1	○	2	—	—	—	—	※演習 共同	
		幼児と環境	1後	○	1	○	1	1	—	—	—	※演習 共同	
		幼児と言葉	2前	○	1	○	1	—	—	—	—	※演習 共同	
		幼児と表現	1後③	○	1	○	1	1	—	—	—	※演習 共同	
		小計(5科目)	—	—	0	5	0	—	4	1	2	0	—
	保育内容の指導演法	保育内容総論	1後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	※演習
		保育内容人間関係	2前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	※演習
		保育内容環境	2前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	※演習
		保育内容健康	2後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	※演習
		保育内容言葉	2後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	※演習
保育内容表現	2後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	※演習		
表現指導演法Ⅰ(音楽表現)	3前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—		
表現指導演法Ⅱ(造形表現)	2後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—		
総合表現指導演法(身体表現を含む)	2前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—		
小計(9科目)	—	—	0	18	0	—	2	1	0	0	0	—	
特別支援教育に関する科目	障害児の別冊を添読する教科	特別支援教育総論	2前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	
		障害者福祉総論	1後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
	小計(2科目)	—	—	0	4	0	—	0	1	0	0	0	—
	特別支援教育領域に関する科目	知的障害心理学	2後③	○	1	○	1	—	—	—	—	—	—
		知的障害生理・病理学	1後④	○	1	○	1	—	—	—	—	—	オムニバス 隔年
		運動障害心理・生理・病理学	1前2前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	メディア 隔年
		病弱心理・生理・病理学	1前2前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
		特別支援教育の心理アセスメント	2後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
		特別支援教育心理学演習	2後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
		特別支援教育研究法	3後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	共同
		知的障害教育	3前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
		運動障害教育	1前2前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	隔年 隔年 メディア
		病弱教育	1前2前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
		自立活動指導演論	3後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
	特別支援教育実践論	4前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—	
	小計(12科目)	—	—	0	22	0	—	1	2	0	0	7	—
	教二免許と許容に類する科目	視覚障害教育総論	1後2後	○	1	○	1	—	—	—	—	—	隔年
		聴覚障害教育総論	1後2後	○	1	○	1	—	—	—	—	—	隔年
		重複障害教育総論	3前①	○	1	○	1	—	—	—	—	—	—
L.D等教育総論		3前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—	
発達障害の臨床心理		4前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—	
小計(5科目)	—	—	0	7	0	—	1	1	0	0	2	—	
実教育	教育実習	3前	○	3	○	1	—	—	—	—	—	—	
	小計(1科目)	—	—	0	3	0	—	1	0	0	0	0	—
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	1前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	2クラス
		教育哲学	1後	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—
		教育の思想と歴史	2後	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—
		教職概論	1前	○	2	○	1	3	3	—	—	—	2クラス オムニバス・共同 ※演習
		教育社会学	2前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—
		教育制度	2後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
		教育法規	2前	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
		社会教育	2前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—
		国際理解教育概説	2後	○	2	○	1	—	—	—	—	—	—
		教育場面の心理学	2前①②	○	1	○	2	1	—	—	—	—	2クラス 共同
		特別支援教育	2前①②	○	1	○	1	—	—	—	—	—	2クラス
		教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む)	2前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—
	小計(12科目)	—	—	4	18	0	—	3	6	5	0	3	—
	幼	幼児教育課程論	3前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—
小計(1科目)	—	—	0	2	0	—	1	0	0	0	0	—	
道徳、総合的な学習の時間等の指導演法及び生徒	小・中	道徳教育	3前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	2クラス
		総合的な学習の時間指導演法	3後④	○	1	○	—	—	—	—	—	—	—
		特別活動	2後③	○	1	○	—	—	—	—	—	—	—
		教育方法学	2前	○	1	○	—	—	—	—	—	—	—
		授業におけるICT活用	2前	○	1	○	—	—	—	—	—	—	—
		教育方法の研究	3前	○	1	○	—	—	—	—	—	—	—
		ICT活用の理論と実践	3前	○	1	○	—	—	—	—	—	—	—
		生徒指導概論	2前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—
		教育相談・進路指導	3前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—
	小計(9科目)	—	—	0	12	0	—	2	2	2	0	2	3クラス
幼	幼児教育方法技術	3前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—	
幼児心理学	1後	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—		
保育カウンセリング	3前	○	2	○	—	—	—	—	—	—	—		
小計(3科目)	—	—	0	6	0	—	1	1	0	0	0	※演習	



教育学	教育学基礎	教育学研究法Ⅰ	1後	○		2		○				3			1	共同 ※演習 2クラス 共同 2クラス 共同	
		教育学研究法Ⅱ	4後	○		2			○				3				
		教職のための教育学Ⅰ	2前	○		2				○			3				
		教職のための教育学Ⅱ	3前	○		2				○			3				
		小計(4科目)	—	—	0	8	0					0	0	3	0		1
	教育パラダイム系	教育哲学演習Ⅰ	2前	○		2				○			1				
		教育哲学演習Ⅱ	3後	○		2				○			1				
		教育史演習Ⅰ	3前	○		2				○					1		
		教育史演習Ⅱ	3後	○		2				○					1		
		小計(4科目)	—	—	0	8	0					0	0	1	0	1	
	学校臨床教育学系	教育社会学演習Ⅰ	2後	○		2				○			1				
		教育社会学演習Ⅱ	3後	○		2				○			1				
		教育方法学演習Ⅰ	3前	○		2				○			1				
		教育方法学演習Ⅱ	3後	○		2				○			1				
		教育調査法	3前	○		2			○				1				
小計(5科目)	—	—	0	10	0					0	0	2	0	0			
国際理解	国際理解教育論	異文化体験実習	1後	○		1						1				隔年 共同	
		アジアの持続可能な開発	2後	○		2					1	1					
		国際体験実習	2後3後	○		1					1	1	1				
		国際理解教育論Ⅱ	3前	○		2						1					
		国際理解教育演習	3後	○		2					1						
	小計(5科目)	—	—	0	8	0				1	1	1	0	0			
	異文化理解	異文化学習論	2前	○		2				○		1				オムニバス	
		インターカルチュラル・スタディーズⅠ	1後	○		2						1					
		インターカルチュラル・スタディーズⅡ	2前	○		2						1	1				
		異文化学習演習	2後	○		2						1					
小計(4科目)	—	—	0	8	0					1	1	1	0	0			
外国語演習	英語コミュニケーション	1前	○		2				○			1			共同		
	語学教授法演習	3後	○		2						1	1					
	小計(2科目)	—	—	0	4	0				0	1	1	0	0			
情報	コース指定	情報科授業実践基礎演習	3前	○		2					4	1			オムニバス・ 共同		
		教育コンテンツデザイン	3前	○		2					1						
小計(2科目)	—	—	0	4	0					4	1	0	0	0			
その他の科目	共通	小学校歌唱伴奏法(入門)	2前後	○		2									2	6クラス ※演習 ※演習 2クラス 2クラス 2クラス	
		初習外国語Ⅰ(中国語)	1前	○		2						1					
		初習外国語Ⅱ(中国語)	1後	○		2						1					
		標準英語A	2前後	○		2								1			
		標準英語B	2前後	○		2								1			
		標準英語C	2前後	○		2								1			
		教育現場における知的財産入門	2前	○		1								1			
	小計(7科目)	—	—	0	13	0					0	1	0	0	3		
	幼	初等科歌唱伴奏法入門	1後	○		2									1	※講義	
		臨床心理学概論	1後	○		2						1					
	小計(2科目)	—	—	0	4	0					4	1	0	0	1		
	理科	自然科学特論	4後	○		2						3	1			オムニバス	
小計(1科目)		—	—	0	2	0				3	1	0	0	0			
音楽	合唱指導法Ⅰ(演奏マネージメントを含む。)	2前	○		2						1				共同 共同		
	合唱指導法Ⅱ(演奏マネージメントを含む。)	3前	○		2						1	1					
	合唱指導法Ⅲ(演奏マネージメントを含む。)	4前	○		2						2						
	小計(3科目)	—	—	0	6	0					2	1	0	0		0	
卒業 研究	卒業研究	4前後	○	5							1						
	小計(1科目)	—	—							0	1	0	0	0			
合計(473科目)			—	—							32	23	15	0	64		
学位又は称号		学士(教育学)			学位又は学科の分野		教育学・保育学関係										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
(履修科目の登録の上限:各学期30単位(4年次を除く))							1学年の学期区分			2期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業の標準時間			90分							



◎小学校教育コース 小学校総合選修

小学校教諭一種免許状を取得するために必要な単位と選修で指定されている単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位，専門科目から97単位，合計128単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習(初等)Ⅰ，教職実践演習(小)，大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，国際理解教育論Ⅰ，人権教育，選修指定科目のうち小学校総合の授業科目，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から97単位(小学校総合選修の必修科目87単位及び選択必修科目6単位を含む。)以上を修得する。

(小学校総合選修の必修科目87単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(小)のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目20単位
- ・各教科の指導法(小)の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習(初等)Ⅰ，教職実践演習(小)7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習1単位
- ・選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子ども理解演習，学校心理学，特別支援実践演習，学校課題理解演習，教材・指導法開発演習，協働実践基礎，教職協働実践Ⅰ，地域教育実践演習，教職協働実践Ⅲ18単位
- ・卒業研究5単位

(小学校総合選修の選択必修科目6単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論，教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学，教育制度，教育法規)から2単位以上
- ・選修指定科目の小学校総合の授業科目(子どもと健康，学習メディア活用演習，総合学習開発演習)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区分	専 門 科 目								卒業要件 総単位数	
	教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	選 修 指定科目 * 1	その他の 科目・ 自由選択 科目 * 2		卒業 研究
	教科に関する 専門的 事項	各教科 の指導 法	教育の基礎的理解 に関する 科目	道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目					
	92 以上								5	97
	20 以上	20	10 以上	10 以上	7	1 以上	20 以上	0 以上		

\* 1 「選修指定科目」：選修指定科目のうち小学校総合の授業科目

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎小学校教育コース 教育学選修

小学校教諭一種免許状を取得するために必要な単位と選修で指定されている単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から97単位、合計128単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教職実践演習（小）、大学が独自に設定する科目のうち共通の授業科目、選修指定科目のうち教育学の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から97単位（教育学選修の必修科目87単位及び選択必修科目8単位を含む。）以上を修得する。

(教育学選修の必修科目87単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(小)のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目20単位
- ・各教科の指導法(小)の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち道徳教育, 総合的な学習の時間指導法, 特別活動, 教育方法学, 授業におけるICT活用, 生徒指導概論, 教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習(初等)Ⅰ, 教職実践演習(小)7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習, 地域教育実践研究3単位
- ・選修指定科目の教育学の授業科目のうち教育学研究法Ⅰ, 教育学研究法Ⅱ, 教職のための教育学Ⅰ, 教職のための教育学Ⅱ, 教育哲学演習Ⅰ, 教育史演習Ⅰ, 教育社会学演習Ⅰ, 教育方法学演習Ⅰ16単位
- ・卒業研究5単位

(教育学選修の選択必修科目8単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上
- ・選修指定科目の教育学の授業科目(教育哲学演習Ⅱ, 教育史演習Ⅱ, 教育社会学演習Ⅱ, 教育方法学演習Ⅱ, 教育調査法)から4単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区分	専 門 科 目									卒業要件 総単位数
	教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	選 修 指定科目 * 1	その他の 科目・ 自由選択 科目 * 2	卒業 研究	
	教科に関する専門的事項	各教科の指導法	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目					
	20 以上	20	12 以上	10 以上	7	3 以上	20 以上	0 以上	5	97

\* 1 「選修指定科目」: 選修指定科目のうち教育学の授業科目

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」: 学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部, 協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合, 教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎小学校教育コース 国際理解教育選修

小学校教諭一種免許状を取得するために必要な単位と選修で指定されている単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位，専門科目から97単位，合計128単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習(初等)Ⅰ，教職実践演習(小)，大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，国際理解教育論Ⅰ，人権教育，選修指定科目のうち国際理解の授業科目，教科に関する専門的事項(中・高)の英語コミュニケーションのうち実践総合英語Ⅰ，実践総合英語Ⅱ，英語表現Ⅰ，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から97単位(国際理解教育選修の必修科目84単位及び選択必修科目10単位を含む。)以上を修得する。

(国際理解教育選修の必修科目84単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(小)のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目20単位
- ・各教科の指導法(小)の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，国際理解教育概説，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)8単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習(初等)Ⅰ，教職実践演習(小)7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究3単位
- ・選修指定科目の国際理解の授業科目のうち異文化体験実習，アジアの持続可能な開発，異文化学習論，インターカルチュラル・スタディーズⅠ，英語コミュニケーション，語学教授法演習11単位
- ・卒業研究5単位

(国際理解教育選修の選択必修科目10単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論，教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学，教育制度，教育法規)から2単位以上
- ・大学が独自に設定する科目及び選修指定科目の国際理解の授業科目(国際体験実習，国際理解教育論Ⅰ，国際理解教育論Ⅱ，国際理解教育演習)から2単位以上
- ・選修指定科目の国際理解の授業科目(インターカルチュラル・スタディーズⅡ，異文化学習演習)から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項(中・高)の英語コミュニケーションの授業科目(実践総合英語Ⅰ，実践総合英語Ⅱ，英語表現Ⅰ)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区分	専 門 科 目								卒業要件 総単位数	
	教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	選 修 指定科目 * 1	その他の 科目・ 自由選択 科目 * 2		卒業 研究
	教科に関する 専門的 事項	各教科 の指導 法	教育の基礎的 理解に関する 科目	道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	教育実践に関する 科目					
	92 以上									
	20 以上	20	12 以上	10 以上	7	3 以上	17 以上	0 以上	5	97

\* 1 「選修指定科目」：選修指定科目のうち国際理解の授業科目

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ◎幼児教育コース

幼稚園教諭一種免許状を取得するために必要な単位とコースで指定されている単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から96単位、合計127単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

#### II 専門科目

専門科目については、領域及び保育内容の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教職実践演習（幼）、大学が独自に設定する科目のうち共通、幼の授業科目、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち※1の授業科目、特別支援教育の基礎理論に関する科目のうち障害者福祉総論、選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち発達心理学、その他の科目のうち小学校歌唱伴奏法（入門）を除く共通の授業科目、幼の授業科目、自由選択科目、卒業研究から96単位（幼児教育コースの必修科目52単位及び選択必修科目7単位を含む。）以上を修得する。

(幼児教育コースの必修科目52単位 内訳)

- ・保育内容の指導法の授業科目18単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 幼児教育課程論 6 単位
- ・道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術, 幼児心理学, 保育カウンセリング 6 単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習 (初等) I, 教育実習 (初等) II, 教職実践演習 (幼) 9 単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち地域教育実践研究, 幼児教育基礎実習, 幼児教育概論, 保育実践論 8 単位
- ・卒業研究 5 単位

(幼児教育コースの選択必修科目 7 単位 内訳)

- ・領域に関する専門的事項の授業科目 (幼児と健康, 幼児と人間関係, 幼児と環境, 幼児と言葉, 幼児と表現) から 3 単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目 (教育原論, 教育哲学) から 2 単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目 (教育社会学, 教育制度, 教育法規) から 2 単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区分	専 門 科 目								卒業要件 総単位数	
	領域及び保育内容の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	関連科目 * 1	その他の科目・自由選択科目 * 2		卒業研究
	領域に関する専門的事項	保育内容の指導法	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目					
	91 以上								5	96
	59 以上					14 以上				
	3 以上	18	10 以上	6	9	8 以上	14 以上	0 以上		

\* 1 「関連科目」：教科及び教科の指導法に関する科目 (小) の授業科目, 教育の基礎的理解に関する科目のうち教育課程論 (カリキュラム・マネジメントを含む。), 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術, 幼児心理学, 保育カウンセリングを除く授業科目授業科目, 副免許状として小学校教諭免許状を取得するための教育実践に関する科目の教育実習 (初等) II, 教科に関する専門的事項 (中・高) のうち\*1の授業科目, 特別支援教育の基礎理論に関する科目のうち障害者福祉総論, 選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち発達心理学, その他の科目の幼の授業科目のうち臨床心理学概論

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

- ・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで
- ・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語 I」「初習外国語 II」の単位にかえることができる場合がある。

#### ◎特別支援教育コース

##### ○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状を合わせて取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位, 専門科目から107単位, 合計138単位を修得する。

##### I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目 6 単位を含め, 31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列 9 単位
- ・一般教養系列 (人文教養分野) 3 単位
- ・一般教養系列 (社会教養分野) 3 単位
- ・一般教養系列 (自然教養分野) 2 単位
- ・一般教養系列 (学際的教養分野) 5 単位
- ・教職基礎系列 (教職基礎分野) 3 単位

(選択必修科目 6 単位 内訳)

- ・英語系列から 6 単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか 2 単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか 2 単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか 1 単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか 1 単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)I、教職実践演習(小)、特別支援教育に関する科目、大学が独自に設定する科目の共通のうち地域教育実践研究、国際理解教育論I、人権教育、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から107単位(特別支援教育コース(小学校基礎)の必修科目77単位及び選択必修科目14単位を含む。)以上を修得する。

(特別支援教育コース(小学校基礎)の必修科目77単位 内訳)

- ・各教科の指導法(小)の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)I、教職実践演習(小)7単位
- ・特別支援教育の基礎理論に関する科目のうち特別支援教育総論2単位
- ・特別支援教育領域に関する科目のうち知的障害心理学、知的障害生理・病理学、運動障害心理・生理・病理学、病弱心理・生理・病理学、特別支援教育の心理アセスメント、特別支援教育心理学演習、知的障害教育、運動障害教育、病弱教育16単位
- ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目のうち視覚障害教育総論、聴覚障害教育総論、重複障害教育総論、LD等教育総論5単位
- ・特別支援教育に関する科目のうち教育実習3単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち地域教育実践研究、人権教育3単位
- ・卒業研究5単位

(特別支援教育コース(小学校基礎)の選択必修科目14単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(小)のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から10単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論、教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学、教育制度、教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

区 分	専 門 科 目										卒業要件総単位数	
	教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等					大学の独自に設定する科目	その他の科目・自由選択科目*	特別支援教育に関する科目		卒業研究
	教科に関する専門的事項	各教科の指導法	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目							
小学校教諭免許状を基礎資格とする者	76 以上										107	
	10 以上	20	10 以上	10 以上	7	3 以上	0 以上	26 以上	5			

\* 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

- ・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで
- ・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語I」「初習外国語II」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状を合わせて取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から107単位、合計138単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、教科に関する専門的事項(中・高)及び中学校指導法(中・高)から1教科を選択、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(中)、教職実践演習(中・高)、特別支援教育に関する科目、大学が独自に設定する科目の共通のうち地域教育実践研究、国際理解教育論Ⅰ、人権教育、その他の科目の共通のうち小学校歌唱伴奏法(入門)を除く授業科目、自由選択科目、卒業研究から107単位(特別支援教育コース(中学校基礎)の必修科目及び選択必修科目を含む。)以上を修得する。

(特別支援教育コース(中学校基礎)の必修科目 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(中・高)及び中学校指導法(中・高)から1教科を選択

国語

教科に関する専門的事項(中・高)のうち国語学の国語学概論(音声言語及び文章表現を含む。)、国文学の国文学概論(国文学史を含む。))4単位  
中学校指導法(中・高)のうち国語の授業科目8単位

社会

教科に関する専門的事項(中・高)のうち日本史・外国史の日本史Ⅰ、外国史Ⅰ、地理学の地理学概論、「法律学、政治学」の現代法(国際法を含む。))8単位  
中学校指導法(中・高)のうち社会の授業科目8単位

数学

教科に関する専門的事項(中・高)のうち代数学の代数学Ⅰ、幾何学の幾何学Ⅰ、解析学の解析学Ⅰ、「確率論、統計学」の確率・統計学、コンピュータの計算機概論10単位  
中学校指導法(中・高)のうち数学の授業科目8単位

理科

教科に関する専門的事項(中・高)のうち物理学の物理学実験、化学の化学概論Ⅰ、化学実験、生物学の生物学概論、生物学実験、地学の地学概論Ⅰ、地学実験10単位  
中学校指導法(中・高)のうち理科の授業科目8単位

音楽

教科に関する専門的事項(中・高)のうちソルフェージュのソルフェージュ、声楽の独唱Ⅰ、合唱Ⅰ(日本の伝統的な歌唱を含む。)、器楽のピアノⅠ、伴奏法、合奏Ⅰ(和楽器を含む。)、指揮法の指揮法演習、音楽理論・作曲法・音楽史の音楽理論、作・編曲法Ⅰ、音楽史概論(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。))16単位  
中学校指導法(中・高)のうち音楽の授業科目8単位

美術

教科に関する専門的事項(中・高)のうち絵画の絵画Ⅱ(映像メディア表現を含む。)、彫刻の彫刻Ⅰ、デザインのデザインⅡ(映像メディア表現を含む。)、工芸の工芸Ⅰ、工芸Ⅲ、美術理論・美術史の美術理論、美術史Ⅱ(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。))14単位  
中学校指導法(中・高)のうち美術の授業科目8単位

保健体育

教科に関する専門的事項(中・高)のうち「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学の運動学(運動方法学を含む。)、生理学の生理学(運動生理学を含む。)、衛生学・公衆衛生学の公衆衛生学、学校保健の学校保健(小児保健、精神保健、学校安全、救急処置を含む。))8単位  
中学校指導法(中・高)のうち保健体育の授業科目8単位

技術

教科に関する専門的事項(中・高)のうち材料加工の製図、材料加工Ⅰ(実習を含む。)、材料加工Ⅱ(実習を含む。)、機械・電気の応用機械(実習を含む。)、応用電気(実習を含む。)、生物育成の生物育成(実習を含む。)、情報とコンピュータの情報処理論(実習を含む。))14単位  
中学校指導法(中・高)のうち技術の授業科目8単位

家庭

教科に関する専門的事項(中・高)のうち家庭経営学の家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む。)、被服学の被服造形論(被服実習を含む。)、食物学の栄養学Ⅰ、調理学実習Ⅰ、食品科学、住居学の住居学(製図を含む。)、保育学の保育学(実習及び家庭看護を含む。))13単位  
中学校指導法(中・高)のうち家庭の授業科目8単位

英語

中学校指導法(中・高)の英語のうち英語科教育概論、実践英語科教育法、英語科教育法Ⅰ、英語科教育法Ⅱ8単位



- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（中），教職実践演習（中・高）7単位
- ・特別支援教育の基礎理論に関する科目のうち特別支援教育総論2単位
- ・特別支援教育領域に関する科目のうち知的障害心理学，知的障害生理・病理学，運動障害心理・生理・病理学，病弱心理・生理・病理学，特別支援教育の心理アセスメント，特別支援教育心理学演習，知的障害教育，運動障害教育，病弱教育16単位
- ・免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目のうち視覚障害教育総論，聴覚障害教育総論，重複障害教育総論，LD等教育総論5単位
- ・特別支援教育に関する科目のうち教育実習3単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち地域教育実践研究，人権教育3単位
- ・卒業研究5単位

（特別支援教育コース（中学校基礎）の選択必修科目 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）から1教科を選択
  - 国語
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち漢文学の授業科目（漢文学講読，漢文学概論，漢文学演習）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち書道の授業科目（書道Ⅰ，書道Ⅱ）から1単位以上
  - 社会
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち「社会学，経済学」の授業科目（社会学，経済概論，経済政策（国際経済を含む。））から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち「哲学，倫理学，宗教学」の授業科目（哲学倫理学Ⅰ，哲学倫理学Ⅱ）から2単位以上
  - 理科
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の授業科目（物理学概論Ⅰ，物理学概論Ⅱ）から2単位以上
  - 保健体育
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技の授業科目から1単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学の授業科目（体育原論，体育心理学，体育社会学，体育史，体育経営学，健康・体カトレーニング論）から2単位以上
  - 英語
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の授業科目（実践英語音声学，言語学概論Ⅰ，言語学概論Ⅱ，英語史Ⅰ，英語史Ⅱ）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語文学の授業科目（英語文学概論，英語文学講義，英語文学演習，英語文学の地域と文化）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（実践総合英語Ⅰ，実践総合英語Ⅱ，実践総合英語Ⅲ）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（英語表現Ⅰ，英語表現Ⅱ）から2単位以上
    - 教科に関する専門的事項（中・高）のうち異文化理解の授業科目（日本語の文化と英語の文化，異文化学習論，英語文化と言語）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

区 分	専 門 科 目								卒業要件総単位数	
	教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目等			大学が独自に設定する科目	その他の科目・自由選択科目*	特別支援教育に関する科目		卒業研究
	教科に関する専門的事項	各教科の指導法	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目					
中学校教諭免許状を基礎資格とする者	76 以上								107	
	60 以上						0 以上	26 以上		5
	20 以上	8 以上	10 以上	10 以上	7	3 以上	0 以上			

\* 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

- ・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで
- ・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎情報教育コース

○高等学校・中学校基礎

高等学校教諭一種免許状（情報）と中学校教諭二種免許状（数学）を取得するために必要な単位と当該コースが指定する単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から35単位、専門科目から91単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位、専門基礎系列（理系基礎分野）の数学Ⅰ、数学Ⅱ及び選択必修科目6単位を含め、35単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（情報教育コースの必修科目4単位 内訳）

- ・専門基礎系列（理系基礎分野）4単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピュータ、情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理、コンピュータ・情報処理、情報システム、情報通信ネットワーク、マルチメディア表現・マルチメディア技術の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち数学、情報の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（中）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通の授業科目、コース指定科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から91単位（情報教育コース（高等学校・中学校基礎）の必修科目87単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

（情報教育コース（高等学校・中学校基礎）の必修科目87単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学の代数学Ⅰ、幾何学の幾何学Ⅰ、集合論Ⅰ、集合論Ⅱ、解析学の解析学Ⅰ、「確率論、統計学」の確率・統計学、コンピュータの計算機概論、情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理の授業科目、コンピュータ・情報処理の授業科目、情報システムのデータベース概論（実習を含む。）、教育情報システム論、情報通信ネットワークの授業科目、マルチメディア表現・マルチメディア技術の授業科目44単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち数学の数学科教育法Ⅰ、情報の情報科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅱ6単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究3単位
- ・コース指定科目6単位
- ・卒業研究5単位

（情報教育コースの選択必修科目4単位 内訳）

- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		高等学校・中学校基礎	小学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	0 以上	
		中学校 (数学)	14 以上	
		高校 (情報)	30 以上	
	各教科の指導法	小学校	0 以上	20
		中学校 (数学)	6 以上	0 以上
		高校 (情報)		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上		
	教育実践に関する科目	7 以上		
	大学が独自に設定する科目	3 以上		
コース指定科目 * 1		6		
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上		
卒業研究		5		
卒業要件総単位数		91	91	

\* 1 「コース指定科目」：コースが開設・指定する授業科目

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ○小学校基礎

小学校教諭一種免許状を取得するために必要な単位と当該コースが指定する単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から35単位、専門科目から91単位、合計126単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位、専門基礎系列(理系基礎分野)の数学Ⅰ、数学Ⅱ及び選択必修科目6単位を含め、35単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(情報教育コースの必修科目4単位 内訳)

- ・専門基礎系列(理系基礎分野)4単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

#### II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目、教科に関する専門的事項(中・高)のうち代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピュータ、情報社会(職業に関する内容を含む。)\*情報倫理、コンピュータ・情報処理、情報システム、情報通信ネットワーク、マルチメディア表現・マルチメディア技術の授業科目、中学校指導法(中・高)のうち数学、情報の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)Ⅰ、教育実習(中)、教職実践演習(小)、教職実践演習(中・高)、大学が独自に設定する科目のうち共通の授業科目、コース指定科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から91単位(情報教育コース(小学校基礎)の必修科目75単位及び選択必修科目16単位を含む。)以上を修得する。

(情報教育コースの必修科目75単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち幾何学の集合論Ⅰ, コンピュータの計算機概論, 情報社会(職業に関する内容を含む。), 情報倫理の授業科目, コンピュータ・情報処理の情報科学概論(実習を含む。), 情報処理言語Ⅰ(実習を含む。), 情報通信ネットワークの情報通信ネットワーク論(実習を含む。), マルチメディア表現・マルチメディア技術のマルチメディア概論(実習を含む。)18単位
- ・各教科の指導法(小)の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち道徳教育, 総合的な学習の時間指導法, 特別活動, 教育方法学, 授業におけるICT活用, 生徒指導概論, 教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習(初等)Ⅰ, 教職実践演習(小)7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習, 地域教育実践研究3単位
- ・コース指定科目6単位
- ・卒業研究5単位

(情報教育コースの選択必修科目16単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(小)のうち初等科数学, 小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から10単位以上
- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうちコンピュータ・情報処理, 情報システム, 情報通信ネットワーク, マルチメディア表現・マルチメディア技術の授業科目(教育情報処理論(実習を含む。), データベース概論(実習を含む。), 教育情報システム論, 情報処理演習, グラフ・ネットワーク論, 視覚伝達デザイン)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		高等学校・中学校基礎		小学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	0以上	10以上
		中学校(数学)	14以上	4以上
		高校(情報)	30以上	16以上
	各教科の指導法	小学校	0以上	20
		中学校(数学)	6以上	0以上
		高校(情報)		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上	
	教育実践に関する科目		7以上	
大学が独自に設定する科目		3以上		
コース指定科目 *1		6		
その他の科目・自由選択科目 *2		0以上		
卒業研究		5		
卒業要件総単位数		91	91	

\*1「コース指定科目」: コースが開設・指定する科目

\*2「その他の科目・自由選択科目」: 学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ◎教科教育コース 国語教育選修

##### ○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状(入学の際に許可された各選修(教科))を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位, 専門科目から95単位, 合計126単位を修得する。

##### Ⅰ 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め, 31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa, 英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb, 英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa, 英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb, 英語会話Ⅱbからいずれか1単位

## II 専門科目

専門科目については、初等科国語を除く教科及び教科の指導法に関する科目(小)の授業科目、教科に関する専門的事項(中・高)のうち国語学、国文学、漢文学、書道の授業科目、中学校指導法(中・高)のうち国語の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(初等)Ⅰ, 教育実習(初等)Ⅱ, 教育実習(中), 教育実習(高), 教職実践演習(小), 教職実践演習(中・高), 大学が独自に設定する科目のうち共通、国語の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位(国語教育選修(小学校基礎)の必修科目65単位及び選択必修科目23単位を含む。)以上を修得する。

(国語教育選修(小学校基礎)の必修科目65単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち国語学の国語学概論(音声言語及び文章表現を含む。), 国文学の国文学概論(国文学史を含む。) 4単位
- ・各教科の指導法(小)の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。) 6単位
- ・道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち道徳教育, 総合的な学習の時間指導法, 特別活動, 教育方法学, 授業におけるICT活用, 生徒指導概論, 教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習(初等)Ⅰ, 教育実習(高), 教職実践演習(小) 9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習, 地域教育実践研究, 国語科授業実践基礎演習, 国語科内容開発研究 7単位
- ・その他の科目のうち初習外国語Ⅰ(中国語), 初習外国語Ⅱ(中国語) 4単位
- ・卒業研究 5単位

(国語教育選修(小学校基礎)の選択必修科目23単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(小)のうち初等科国語, 小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち漢文学の授業科目(漢文学講読, 漢文学概論, 漢文学演習)から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち書道の授業科目(書道Ⅰ, 書道Ⅱ)から1単位以上
- ・中学校指導法(中・高)のうち国語の授業科目(国語科教育法Ⅰ, 国語科教育法Ⅲ)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校	14以上	0以上
		中学校	14以上	30以上
	小計		28以上	30以上
	各教科の指導法	小学校	20	0以上
		中学校	2以上	8
小計		22以上	8以上	
合計			50以上	38以上
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	10以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上	10以上
	教育実践に関する科目		9以上	7以上
	大学が独自に設定する科目		7以上	7以上
その他の科目・自由選択科目 *			4以上	18以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

- ・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで
- ・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
- 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
- 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科国語を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち国語学、国文学、漢文学、書道の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち国語の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（初等）II、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、国語の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（国語教育選修（中学校基礎）の必修科目51単位及び選択必修科目7単位を含む。）以上を修得する。

（国語教育選修（中学校基礎）の必修科目51単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち国語学の国語学概論（音声言語及び文章表現を含む。）、国文学の国文学概論（国文学史を含む。）4単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち国語の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、国語科授業実践基礎演習、国語科内容開発研究7単位
- ・その他の科目のうち初習外国語 I（中国語）、初習外国語 II（中国語）4単位
- ・卒業研究5単位

（国語教育選修（中学校基礎）の選択必修科目7単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち漢文学の授業科目（漢文学講読、漢文学概論、漢文学演習）から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち書道の授業科目（書道 I、書道 II）から1単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校	14 以上
		中学校	14 以上
	小計	28 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20
		中学校	2 以上
	小計	22 以上	8 以上
合計		50 以上	38 以上
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び 生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上
その他の科目・自由選択科目 *		4 以上	18 以上
卒業研究		5	5
総合計		95	95

\* 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語 I」「初習外国語 II」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 社会科教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
- 英語 I a，英語 II aからいずれか2単位
- 英語 I b，英語 II bからいずれか2単位
- 英語会話 I a，英語会話 II aからいずれか1単位
- 英語会話 I b，英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科社会を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち日本史・外国史，地理学，「法学，政治学」，「社会学，経済学」，「哲学，倫理学，宗教学」の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち社会の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（初等）II，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，社会の授業科目，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（社会科教育選修（小学校基礎）の必修科目67単位及び選択必修科目26単位を含む。）以上を修得する。

（社会科教育選修（小学校基礎）の必修科目67単位 内訳）

・教科に関する専門的事項（中・高）のうち日本史・外国史の日本史 I，外国史 I，地理学の地理学概論，「法学，政治学」の日本国憲法，現代法（国際法を含む。）10単位

- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（高），教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，社会科授業実践基礎演習，社会科内容開発研究 I，社会科内容開発研究 II 7単位
- ・卒業研究5単位

（社会科教育選修（小学校基礎）の選択必修科目26単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科社会，小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち地理学の授業科目（自然地理学，人文地理学）から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち「社会学，経済学」の授業科目（社会学，経済概論，経済政策（国際経済を含む。））から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち「哲学，倫理学，宗教学」の授業科目（哲学倫理学 I，哲学倫理学 II）から2単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち社会の授業科目（中等地理歴史教育論 I，中等公民教育論 I）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
		小計	32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
		小計	22 以上	8 以上
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
その他の科目・自由選択科目 *			0 以上	18 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目のことです。

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科社会を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち日本史・外国史、地理学、「法学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち社会の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、社会の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（社会科教育選修（中学校基礎）の必修科目53単位及び選択必修科目10単位を含む。）以上を修得する。



(社会科教育選修(中学校基礎)の必修科目53単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち日本史・外国史の日本史Ⅰ、外国史Ⅰ、地理学の地理学概論、「法学、政治学」の日本国憲法、現代法(国際法を含む。)10単位
- ・中学校指導法(中・高)のうち社会の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(中)、教職実践演習(中・高)7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、社会科授業実践基礎演習、社会科内容開発研究Ⅰ、社会科内容開発研究Ⅱ7単位
- ・卒業研究5単位

(社会科教育選修(中学校基礎)の選択必修科目10単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち地理学の授業科目(自然地理学、人文地理学)から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち「社会学、経済学」の授業科目(社会学、経済概論、経済政策(国際経済を含む。))から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち「哲学、倫理学、宗教学」の授業科目(哲学倫理学Ⅰ、哲学倫理学Ⅱ)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論、教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学、教育制度、教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
中学校		2 以上	8	
小計		22 以上	8 以上	
合計		54 以上	38 以上	
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及 び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上	
その他の科目・自由選択科目 *		0 以上	18 以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\*「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

- ・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで
- ・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 数学教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から35単位、専門科目から91単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位、専門基礎系列（理系基礎分野）の数学Ⅰ、数学Ⅱ及び選択必修科目6単位を含め、35単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(数学教育選修の必修科目4単位 内訳)

- ・専門基礎系列（理系基礎分野）4単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科数学を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピューターの授業科目、中学校指導法（中・高）のうち数学の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、数学の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論Ⅰ、化学の化学概論Ⅰ、生物学の生物学概論、地学の地学概論Ⅰ、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から91単位（数学教育選修（小学校基礎）の必修科目69単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

(数学教育選修（小学校基礎）の必修科目69単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学の代数学Ⅰ、幾何学の幾何学Ⅰ、集合論Ⅰ、解析学の解析学Ⅰ、「確率論、統計学」の確率・統計学、コンピューターの計算機概論12単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（高）、教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、算数・数学科授業実践基礎演習、算数・数学科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(数学教育選修（小学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科数学、小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち数学の授業科目（数学科教育法Ⅰ、数学科教育法Ⅲ）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校 14 以上	0 以上
		中学校 14 以上	30 以上
小計		28 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校 20	0 以上
		中学校 2 以上	8
小計		22 以上	8 以上
合計		50 以上	38 以上
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及 び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上
関連科目 * 1		0 以上	2 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	12 以上
卒業研究		5	5
総合計		91	91

\* 1 「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論Ⅰ，化学の化学概論Ⅰ，生物学の生物学概論，地学の地学概論Ⅰ

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から35単位，専門科目から91単位，合計126単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位，専門基礎系列（理系基礎分野）の数学Ⅰ，数学Ⅱ及び選択必修科目6単位を含め，35単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(数学教育選修の必修科目4単位 内訳)

- ・専門基礎系列（理系基礎分野）4単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

#### II 専門科目

専門科目については、初等科数学を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち代数学，幾何学，解析学，「確率論，統計学」，コンピューターの授業科目，中学校指導法（中・高）のうち数学の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，数学の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論Ⅰ，化学の化学概論Ⅰ，生物学の生物学概論，地学の地学概論Ⅰ，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から91単位（数学教育選修（中学校基礎）の必修科目61単位及び選択必修科目6単位を含む。）以上を修得する。

- (数学教育選修(中学校基礎)の必修科目61単位 内訳)
- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうち代数学の代数学Ⅰ, 数学講究Ⅰ, 幾何学の幾何学Ⅰ, 集合論Ⅰ, 解析学の解析学Ⅰ, 数学講究Ⅱ, 「確率論, 統計学」の確率・統計学, 数学講究Ⅲ, コンピュータの計算機概論18単位
  - ・中学校指導法(中・高)のうち数学の授業科目8単位
  - ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論, 教育場面の心理学, 特別支援教育, 教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
  - ・道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち道徳教育, 総合的な学習の時間指導法, 特別活動, 教育方法学, 授業におけるICT活用, 生徒指導概論, 教育相談・進路指導10単位
  - ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導, 教育実習(中), 教職実践演習(中・高)7単位
  - ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習, 地域教育実践研究, 算数・数学科授業実践基礎演習, 算数・数学科内容開発研究7単位
  - ・卒業研究5単位

- (数学教育選修(中学校基礎)の選択必修科目6単位 内訳)
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上
  - ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上
  - ・教科に関する専門的事項(中・高)の物理学, 化学, 生物学, 地学の授業科目(物理学概論Ⅰ, 化学概論Ⅰ, 生物学概論, 地学概論Ⅰ)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の 指導法に関する 科目	教科に関する 専門的事項	小学校	14以上	0以上
		中学校	14以上	30以上
	小計		28以上	30以上
	各教科の指導法	小学校	20	0以上
		中学校	2以上	8
	小計		22以上	8以上
合計			50以上	38以上
教育の基礎的理解 に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	10以上
	道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及 び生徒指導, 教育相談等に関する科目		10以上	10以上
	教育実践に関する科目		9以上	7以上
大学が独自に設定する科目			7以上	7以上
関連科目 *1			0以上	2以上
その他の科目・自由選択科目 *2			0以上	12以上
卒業研究			5	5
総合計			91	91

\*1「関連科目」: 教科に関する専門的事項(中・高)のうち物理学の物理学概論Ⅰ, 化学の化学概論Ⅰ, 生物学の生物学概論, 地学の地学概論Ⅰ

\*2「その他の科目・自由選択科目」: 学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 理科教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科理科を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学、化学、生物、地学の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち理科の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（初等）II、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、理科の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論、その他の科目のうち共通、理科の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（理科教育選修（小学校基礎）の必修科目71単位及び選択必修科目22単位を含む。）以上を修得する。

（理科教育選修（小学校基礎）の必修科目71単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論 I、物理学実験、化学の化学概論 I、化学実験、生物学の生物学概論、生物学実験、地学の地学概論 I、地学実験12単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（高）、教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、理科授業実践基礎演習、理科内容開発研究7単位
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論2単位
- ・卒業研究5単位

（理科教育選修（小学校基礎）の選択必修科目22単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科理科、小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）の物理学、化学、生物学、地学の授業科目（物理学演習、化学演習、生物学演習、地学演習）から2単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち理科の授業科目（理科教育法 I、理科教育法 II）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	16 以上	30 以上
	小計		30 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
小計		22 以上	8 以上	
合計		52 以上	38 以上	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上	
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上	
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上	
関連科目 * 1		2	2	
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\* 1 「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

## II 専門科目

専門科目については、初等科理科を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学、化学、生物、地学の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち理科の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、理科の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論、その他の科目のうち共通、理科の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（理科教育選修（中学校基礎）の必修科目63単位及び選択必修科目8単位を含む。）以上を修得する。

（理科教育選修（中学校基礎）の必修科目63単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち物理学の物理学概論Ⅰ、物理学概論Ⅱ、物理学実験、化学の化学概論Ⅰ、化学概論Ⅱ、化学実験、生物学の生物学概論、生物学実験、地学の地学概論Ⅰ、地学概論Ⅱ、地学実験18単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち理科の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、理科授業実践基礎演習、理科内容開発研究7単位
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論2単位
- ・卒業研究5単位

（理科教育選修（中学校基礎）の選択必修科目8単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち生物学の授業科目（生化学、発生生物学、環境生物学）から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）の物理学、化学、生物学、地学の授業科目（物理学演習、化学演習、生物学演習、地学演習）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	16 以上	30 以上
	小計		30 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
中学校		2 以上	8	
小計		22 以上	8 以上	
合計		52 以上	38 以上	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上	
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上	
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上	
関連科目 * 1		2	2	
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\* 1 「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）のコンピュータの授業科目のうち計算機概論

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 音楽教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科音楽を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうちソルフェージュ、声楽、器楽、指揮法、音楽理論・作曲法・音楽史の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち音楽の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I, 教育実習（初等）II, 教育実習（中）, 教育実習（高）, 教職実践演習（小）, 教職実践演習（中・高）, 大学が独自に設定する科目のうち共通、音楽の授業科目、保育内容の指導法の授業科目のうち表現指導法 I（音楽表現）, その他の科目のうち共通、音楽の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（音楽教育選修（小学校基礎）の必修科目73単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

(音楽教育選修（小学校基礎）の必修科目73単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうちソルフェージュのソルフェージュ、声楽の独唱 I, 合唱 I（日本の伝統的な歌唱を含む。）、器楽のピアノ I, 伴奏法, 合奏 I（和楽器を含む。）、指揮法の指揮法演習、音楽理論・作曲法・音楽史の音楽理論、作・編曲法 I, 音楽史概論（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）16単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I, 教育実習（高）, 教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、音楽科授業実践基礎演習、音楽科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(音楽教育選修（小学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科音楽、小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち音楽の授業科目（音楽科教育法Ⅲ, 音楽科教育法Ⅳ）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論, 教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学, 教育制度, 教育法規）から2単位以上



(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する	小学校	14 以上	0 以上
	専門的事項	中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
中学校		2 以上	8	
小計		22 以上	8 以上	
合計		54 以上	38 以上	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
	大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上
関連科目 * 1		0 以上	0 以上	18 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\* 1 「関連科目」：保育内容の指導法の授業科目のうち表現指導法Ⅰ（音楽表現）

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合があります。

#### ○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

#### Ⅰ 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

#### Ⅱ 専門科目

専門科目については、初等科音楽を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうちソルフェージュ、声楽、器楽、指揮法、音楽理論・作曲法・音楽史の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち音楽の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、音楽の授業科目、保育内容の指導法の授業科目のうち表現指導法Ⅰ（音楽表現）、その他の科目のうち共通、音楽の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（音楽教育選修（中学校基礎）の必修科目62単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

(音楽教育選修(中学校基礎)の必修科目62単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項(中・高)のうちソルフェージュのソルフェージュ、声楽の独唱Ⅰ、独唱Ⅱ、合唱Ⅰ(日本の伝統的な歌唱を含む。)、器楽のピアノⅠ、伴奏法、管楽器Ⅰ、合奏Ⅰ(和楽器を含む。)、指揮法の指揮法演習、音楽理論・作曲法・音楽史の音楽理論、作・編曲法Ⅰ、音楽史概論(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。)19単位
- ・中学校指導法(中・高)のうち音楽の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論(カリキュラム・マネジメントを含む。)6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習(中)、教職実践演習(中・高)7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、音楽科授業実践基礎演習、音楽科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(音楽教育選修(中学校基礎)の選択必修科目4単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論、教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学、教育制度、教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎		中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14以上	0以上	
		中学校	18以上	30以上	
	小計		32以上	30以上	
	各教科の指導法	小学校	20	0以上	
		中学校	2以上	8	
小計		22以上	8以上		
合計		54以上	38以上		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	10以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上	10以上	
	教育実践に関する科目		9以上	7以上	
大学が独自に設定する科目		7以上	7以上		
関連科目 *1		0以上	0以上	18以上	
その他の科目・自由選択科目 *2		0以上	0以上		
卒業研究		5	5		
総合計		95	95		

\*1「関連科目」：保育内容の指導法の授業科目のうち表現指導法Ⅰ(音楽表現)

\*2「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 美術教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a, 英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b, 英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a, 英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b, 英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科図画工作を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち美術の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（初等）II、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、美術の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（美術教育選修（小学校基礎）の必修科目73単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

(美術教育選修（小学校基礎）の必修科目73単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち絵画の絵画II（映像メディア表現を含む。）、彫刻の彫刻I、デザインのデザインI、デザインII（映像メディア表現を含む。）、工芸の工芸I、工芸III、美術理論・美術史の美術理論、美術史II（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）16単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（高）、教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、美術授業実践基礎演習、美術内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(美術教育選修（小学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科図画工作、小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち美術の授業科目（美術科教育法III、美術科教育法IV）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する	小学校	0以上
	専門的事項	中学校	30以上
	小計	32以上	30以上
各教科の指導法	小学校	20	0以上
	中学校	2以上	8
	小計	22以上	8以上
合計		54以上	38以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10以上	10以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10以上	10以上
	教育実践に関する科目	9以上	7以上
大学が独自に設定する科目		7以上	7以上
その他の科目・自由選択科目 *		0以上	18以上
卒業研究		5	5
総合計		95	95

\*「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科図画工作を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち美術の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、美術の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（美術教育選修（中学校基礎）の必修科目61単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

(美術教育選修（中学校基礎）の必修科目61単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち絵画の絵画Ⅱ（映像メディア表現を含む。）、彫刻の彫刻Ⅰ、デザインのデザインⅠ、デザインⅡ（映像メディア表現を含む。）、工芸の工芸Ⅰ、工芸Ⅲ、美術理論・美術史の美術理論、美術史Ⅰ、美術史Ⅱ（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）8単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち美術の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、美術授業実践基礎演習、美術内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(美術教育選修（中学校基礎）の選択必修科目4単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する	小学校	0以上	
	専門的事項	中学校	30以上	
	小計		32以上	30以上
	各教科の指導法	小学校	20	0以上
中学校		2以上	8	
小計		22以上	8以上	
合計		54以上	38以上	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	10以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上	10以上
	教育実践に関する科目		9以上	7以上
大学が独自に設定する科目		7以上	7以上	
その他の科目・自由選択科目 *		0以上	18以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\*「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 保健体育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
- 英語 I a，英語 II aからいずれか2単位
- 英語 I b，英語 II bからいずれか2単位
- 英語会話 I a，英語会話 II aからいずれか1単位
- 英語会話 I b，英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については，初等科体育を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技，「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学，生理学，衛生学・公衆衛生学，学校保健の授業科目，中学校指導法（中・高）のうち保健体育の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，幼児心理学，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（初等）II，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，保健体育の授業科目，選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子どもと健康，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（保健体育選修（小学校基礎）の必修科目67単位及び選択必修科目24単位を含む。）以上を修得する。

（保健体育選修（小学校基礎）の必修科目67単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学，体育史」・運動学の体育心理学，運動学（運動方法学を含む。），生理学の生理学（運動生理学を含む。），衛生学・公衆衛生学の公衆衛生学，学校保健の学校保健（小児保健，精神保健，学校安全，救急処置を含む。）10単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）I，教育実習（高），教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，保健体育科授業実践基礎演習，保健体育科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

（保健体育選修（小学校基礎）の選択必修科目24単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科体育，小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技の授業科目から4単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち保健体育の授業科目（保健体育科教育法II，保健体育科教育法III）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論，教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学，教育制度，教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
中学校		2 以上	8	
小計		22 以上	8 以上	
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
関連科目 * 1			0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2			0 以上	0 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 1 「関連科目」：選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子どもと健康

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

Ⅰ 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科体育を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学、生理学、衛生学・公衆衛生学、学校保健の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち保健体育の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、保健体育の授業科目、選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子どもと健康、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（保健体育選修（中学校基礎）の必修科目63単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

（保健体育選修（中学校基礎）の必修科目62単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち体育実技の陸上競技、水泳、野外運動特習、体操・器械運動、球技Ⅰ、球技Ⅱ、武道、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学の体育心理学、運動学（運動方法学を含む。）、生理学の生理学（運動生理学を含む。）、運動生理学演習、衛生学・公衆衛生学の公衆衛生学、学校保健の学校保健（小児保健、精神保健、学校安全、救急処置を含む。）19単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち保健体育の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、保健体育科授業実践基礎演習、保健体育科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

（保健体育選修（中学校基礎）の選択必修科目4単位 内訳）

- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
中学校		2 以上	8	
小計		22 以上	8 以上	
合計		54 以上	38 以上	
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上	
関連科目 * 1		0 以上	0 以上	18 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\* 1 「関連科目」：選修指定科目の小学校総合の授業科目のうち子どもと健康

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 技術教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち材料加工、機械・電気、生物育成、情報とコンピュータの授業科目、中学校指導法（中・高）のうち技術の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、技術の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）の物理学の授業科目のうち物理学概論Ⅰ、物理学概論Ⅱ、化学の授業科目のうち化学概論Ⅱ、生物学の授業科目のうち生物学概論、家庭経営学の授業科目のうち生活科学論、住居学の授業科目のうち住居学（製図を含む。）、コンピュータの授業科目のうち計算機概論、情報システムの授業科目のうち教育情報システム論、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（技術教育選修（小学校基礎）の必修科目71単位及び選択必修科目22単位を含む。）以上を修得する。

（技術教育選修（小学校基礎）の必修科目71単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち材料加工の製図、材料加工Ⅰ（実習を含む。）、材料加工Ⅱ（実習を含む。）、機械・電気の応用機械（実習を含む。）、応用電気（実習を含む。）、生物育成の生物育成（実習を含む。）、情報とコンピュータの情報処理論（実習を含む。）14単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（高）、教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、技術科・ものづくり授業実践基礎演習、技術科ものづくり内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

（技術教育選修（小学校基礎）の選択必修科目22単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から16単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち技術の授業科目（技術科教育法Ⅰ、技術科教育法Ⅲ）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上



(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	16 以上	0 以上
		中学校	16 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8
小計		22 以上	8 以上	
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
関連科目 * 1			0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2			0 以上	0 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 1「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）の物理学の授業科目のうち物理学概論Ⅰ、物理学概論Ⅱ、化学の授業科目のうち化学概論Ⅱ、生物学の授業科目のうち生物学概論、家庭経営学の授業科目のうち生活科学論、住居学の授業科目のうち住居学（製図を含む。）、コンピュータの授業科目のうち計算機概論、情報システムの授業科目のうち教育情報システム論

\* 2「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

#### Ⅰ 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa、英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb、英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa、英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb、英語会話Ⅱbからいずれか1単位

## II 専門科目

専門科目については、教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち材料加工、機械・電気、生物育成、情報とコンピュータの授業科目、中学校指導法（中・高）のうち技術の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、技術の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）の物理学の授業科目のうち物理学概論Ⅰ、物理学概論Ⅱ、化学の授業科目のうち化学概論Ⅱ、生物学の授業科目のうち生物学概論、家庭経営学の授業科目のうち生活科学論、住居学の授業科目のうち住居学（製図を含む。）、コンピュータの授業科目のうち計算機概論、情報システムの授業科目のうち教育情報システム論、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（技術教育選修（中学校基礎）の必修科目67単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

（技術教育選修（中学校基礎）の必修科目67単位 内訳）

・教科に関する専門的事項（中・高）のうち材料加工の製図、材料加工Ⅰ（実習を含む。）、金属材料学、材料加工Ⅱ（実習を含む。）、機械・電気の機械工学Ⅰ、応用機械（実習を含む。）、電気回路学、応用電気（実習を含む。）、生物育成の生物育成（実習を含む。）、農業環境論、情報とコンピュータの情報処理論（実習を含む。）、情報基礎Ⅰ 24単位

・中学校指導法（中・高）のうち技術の授業科目8単位

・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。） 6単位

・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位

・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高） 7単位

・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、技術科・ものづくり授業実践基礎演習、技術科ものづくり内容開発研究 7単位

・卒業研究 5単位

（技術教育選修（中学校基礎）の選択必修科目 4単位 内訳）

・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から 2単位以上

・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から 2単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校 16 以上	0 以上
		中学校 16 以上	30 以上
	小計	32 以上	30 以上
	各教科の指導法	小学校 20	0 以上
		中学校 2 以上	8
	小計	22 以上	8 以上
合計		54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上
関連科目 * 1		0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上
卒業研究		5	5
総合計		95	95

\* 1 「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）の物理学の授業科目のうち物理学概論Ⅰ、物理学概論Ⅱ、化学の授業科目のうち化学概論Ⅱ、生物学の授業科目のうち生物学概論、家庭経営学の授業科目のうち生活科学論、住居学の授業科目のうち住居学（製図を含む。）、コンピュータの授業科目のうち計算機概論、情報システムの授業科目のうち教育情報システム論

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

◎教科教育コース 家政教育選修

○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

- (必修科目25単位 内訳)
- ・教養コア系列 9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
- 英語 I a、英語 II aからいずれか2単位
- 英語 I b、英語 II bからいずれか2単位
- 英語会話 I a、英語会話 II aからいずれか1単位
- 英語会話 I b、英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科家庭を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち家庭経営学、被服学、食物学、住居学、保育学の授業科目、デザインの授業科目のうちデザイン I、材料加工の授業科目のうち材料加工 I（実習を含む。）、中学校指導法（中・高）のうち家庭の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（初等）II、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、家庭の授業科目、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（家政教育選修（小学校基礎）の必修科目72単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

(家政教育選修（小学校基礎）の必修科目72単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち家庭経営学の家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）、被服学の衣料素材論 I、被服造形論（被服実習を含む。）、食物学の栄養学 I、調理学実習 I、食品科学、住居学の住居学（製図を含む。）、保育学の保育学（実習及び家庭看護を含む。）15単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（高）、教職実践演習（小）9単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、家庭科授業実践基礎演習、家庭科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(家政教育選修（小学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳)

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち初等科家庭、小学校歌唱伴奏法を除く授業科目から14単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち家庭の授業科目（家庭科教育法Ⅲ、家庭科教育法Ⅳ）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

		小学校基礎	中学校基礎	
教科及び教科の指 導法に関する科目	教科に関する	小学校	14 以上	0 以上
	専門的事項	中学校	15 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
各教科の指導法	小学校	20	0 以上	
	中学校	2 以上	8	
	小計	22 以上	8 以上	
合計		54 以上	38 以上	
教育の基礎的理解に 関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及 び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上	
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上	
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上	
関連科目 * 1		0 以上	0 以上	
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上	
卒業研究		5	5	
総合計		95	95	

\*1「関連科目」：教科に関する専門的事項（中・高）のデザインの授業科目のうちデザインⅠ，材料加工の授業科目のうち材料加工Ⅰ（実習を含む。），道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児心理学  
\*2「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

- ・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで
- ・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位，専門科目から95単位，合計126単位を修得する。

#### I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め，31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
- 英語Ⅰa，英語Ⅱaからいずれか2単位
- 英語Ⅰb，英語Ⅱbからいずれか2単位
- 英語会話Ⅰa，英語会話Ⅱaからいずれか1単位
- 英語会話Ⅰb，英語会話Ⅱbからいずれか1単位

#### II 専門科目

専門科目については，初等科家庭を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目，教科に関する専門的事項（中・高）のうち家庭経営学，被服学，食物学，住居学，保育学の授業科目，デザインの授業科目のうちデザインⅠ，材料加工の授業科目のうち材料加工Ⅰ（実習を含む。），中学校指導法（中・高）のうち家庭の授業科目，教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目，道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術，保育カウンセリングを除く授業科目，教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（初等）Ⅰ，教育実習（初等）Ⅱ，教育実習（中），教育実習（高），教職実践演習（小），教職実践演習（中・高），大学が独自に設定する科目のうち共通，家庭の授業科目，その他の科目のうち共通の授業科目，自由選択科目，卒業研究から95単位（家政教育選修（中学校基礎）の必修科目58単位及び選択必修科目4単位を含む。）以上を修得する。

（家政教育選修（中学校基礎）の必修科目58単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち家庭経営学の家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。），被服学の衣料素材論Ⅰ，被服造形論（被服実習を含む。），食物学の栄養学Ⅰ，調理学実習Ⅰ，食品科学，住居学の住居学（製図を含む。），保育学の保育学（実習及び家庭看護を含む。）15単位
- ・中学校指導法（中・高）のうち家庭の授業科目8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論，教育場面の心理学，特別支援教育，教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目のうち道徳教育，総合的な学習の時間指導法，特別活動，教育方法学，授業におけるICT活用，生徒指導概論，教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導，教育実習（中），教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習，地域教育実践研究，家庭科授業実践基礎演習，家庭科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

(家庭教育選修(中学校基礎)の選択必修科目4単位 内訳)

- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育原論, 教育哲学)から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目(教育社会学, 教育制度, 教育法規)から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14以上	0以上
		中学校	15以上	30以上
	小計		32以上	30以上
各教科の指導法	各教科の指導法	小学校	20	0以上
		中学校	2以上	8
	小計		22以上	8以上
合計			54以上	38以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10以上	10以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10以上	10以上
	教育実践に関する科目		9以上	7以上
大学が独自に設定する科目			7以上	7以上
関連科目 *1			0以上	0以上
その他の科目・自由選択科目 *2			0以上	0以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\*1「関連科目」:教科に関する専門的事項(中・高)のデザインの授業科目のうちデザインⅠ, 材料加工の授業科目のうち材料加工Ⅰ(実習を含む。), 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目のうち幼児心理学

\*2「その他の科目・自由選択科目」:学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

- ・自由選択科目として含めることができる他学部、協定校開設科目は10単位まで
- ・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

#### ◎教科教育コース 英語教育選修

##### ○小学校基礎

小学校教諭一種免許状と中学校教諭二種免許状(入学の際に許可された各選修(教科))を取得するために必要な単位を修得

[卒業要件]

共通教育科目から31単位, 専門科目から95単位, 合計126単位を修得する。

##### Ⅰ 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め, 31単位を修得する。

(必修科目25単位 内訳)

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列(人文教養分野)3単位
- ・一般教養系列(社会教養分野)3単位
- ・一般教養系列(自然教養分野)2単位
- ・一般教養系列(学際的教養分野)5単位
- ・教職基礎系列(教職基礎分野)3単位

(選択必修科目6単位 内訳)

- ・英語系列から6単位
  - 英語Ⅰa, 英語Ⅱaからいずれか2単位
  - 英語Ⅰb, 英語Ⅱbからいずれか2単位
  - 英語会話Ⅰa, 英語会話Ⅱaからいずれか1単位
  - 英語会話Ⅰb, 英語会話Ⅱbからいずれか1単位

## II 専門科目

専門科目については、初等科英語を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち英語の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（初等）Ⅱ、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、英語の授業科目、選修指定科目の国際理解の授業科目のうち異文化学習論、語学教授法演習、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（英語教育選修（小学校基礎）の必修科目61単位及び選択必修科目30単位を含む。）以上を修得する。

（英語教育選修（小学校基礎）の必修科目61単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の実践英語音声学、英語文学の英語文学概論 4 単位
- ・各教科の指導法（小）の授業科目20単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。） 6 単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）Ⅰ、教育実習（高）、教職実践演習（小） 9 単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、英語科授業実践基礎演習、英語科内容開発研究 7 単位
- ・卒業研究 5 単位

（英語教育選修（小学校基礎）の選択必修科目30単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（小）のうち小学校歌唱伴奏法、初等科英語を除く授業科目から14単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の授業科目（言語学概論Ⅰ、英文法演習）から 2 単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語文学の授業科目（英語文学講義、英語文学の地域と文化、英語文学演習）から 2 単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（実践総合英語Ⅰ、実践総合英語Ⅱ、実践総合英語Ⅲ）から 2 単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ）から 2 単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち異文化理解の授業科目（日本語の文化と英語の文化、英語文化と言語）及び選修指定科目の国際理解の授業科目（異文化学習論）から 2 単位以上
- ・中学校指導法（中・高）のうち英語の授業科目（英語科教育概論、実践英語科教育法）から 2 単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から 2 単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から 2 単位以上

（卒業に必要な単位の履修要件）

		小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上
		中学校	18 以上
	小計		32 以上
	各教科の指導法	小学校	20
中学校		2 以上	
小計		22 以上	
合計		54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目	9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目		7 以上	7 以上
関連科目 * 1		0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2		0 以上	0 以上
卒業研究		5	5
総合計		95	95

\* 1 「関連科目」：選修指定科目の国際理解の授業科目のうち語学教授法演習

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。

○中学校基礎

中学校教諭一種免許状（入学の際に許可された各選修（教科））を取得するために必要な単位を修得

〔卒業要件〕

共通教育科目から31単位、専門科目から95単位、合計126単位を修得する。

I 共通教育科目

必修科目25単位及び選択必修科目6単位を含め、31単位を修得する。

（必修科目25単位 内訳）

- ・教養コア系列9単位
- ・一般教養系列（人文教養分野）3単位
- ・一般教養系列（社会教養分野）3単位
- ・一般教養系列（自然教養分野）2単位
- ・一般教養系列（学際的教養分野）5単位
- ・教職基礎系列（教職基礎分野）3単位

（選択必修科目6単位 内訳）

- ・英語系列から6単位
  - 英語 I a、英語 II aからいずれか2単位
  - 英語 I b、英語 II bからいずれか2単位
  - 英語会話 I a、英語会話 II aからいずれか1単位
  - 英語会話 I b、英語会話 II bからいずれか1単位

II 専門科目

専門科目については、初等科英語を除く教科及び教科の指導法に関する科目（小）の授業科目、教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解の授業科目、中学校指導法（中・高）のうち英語の授業科目、教育の基礎的理解に関する科目のうち幼児教育課程論を除く授業科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち幼児教育方法技術、幼児心理学、保育カウンセリングを除く授業科目、教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（初等）I、教育実習（初等）II、教育実習（中）、教育実習（高）、教職実践演習（小）、教職実践演習（中・高）、大学が独自に設定する科目のうち共通、英語の授業科目、選修指定科目の国際理解の授業科目のうち異文化学習論、語学教授法演習、その他の科目のうち共通の授業科目、自由選択科目、卒業研究から95単位（英語教育選修（中学校基礎）の必修科目47単位及び選択必修科目20単位を含む。）以上を修得する。

（英語教育選修（中学校基礎）の必修科目47単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の実践英語音声学、英語文学の英語文学概論4単位
- ・中学校指導法（中・高）の英語のうち英語科教育概論、実践英語科教育法、英語科教育法 I、英語科教育法 II 8単位
- ・教育の基礎的理解に関する科目のうち教職概論、教育場面の心理学、特別支援教育、教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）6単位
- ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目のうち道徳教育、総合的な学習の時間指導法、特別活動、教育方法学、授業におけるICT活用、生徒指導概論、教育相談・進路指導10単位
- ・教育実践に関する科目のうち事前・事後指導、教育実習（中）、教職実践演習（中・高）7単位
- ・大学が独自に設定する科目のうち介護等体験実習、地域教育実践研究、英語科授業実践基礎演習、英語科内容開発研究7単位
- ・卒業研究5単位

（英語教育選修（中学校基礎）の選択必修科目20単位 内訳）

- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語学の授業科目（言語学概論 I、言語学概論 II、英語史 I、英語史 II、英文法演習、英語学演習）から4単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語文学の授業科目（英語文学講義、英語文学の地域と文化、英語文学演習）から4単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（実践総合英語 I、実践総合英語 II、実践総合英語 III）から4単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち英語コミュニケーションの授業科目（英語表現 I、英語表現 II）から2単位以上
- ・教科に関する専門的事項（中・高）のうち異文化理解の授業科目（日本語の文化と英語の文化、英語文化と言語）及び選修指定科目の国際理解の授業科目（異文化学習論）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育原論、教育哲学）から2単位以上
- ・教育の基礎的理解に関する科目（教育社会学、教育制度、教育法規）から2単位以上

(卒業に必要な単位の履修要件)

			小学校基礎	中学校基礎
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	小学校	14 以上	0 以上
		中学校	18 以上	30 以上
	小計		32 以上	30 以上
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法	小学校	20	0 以上
		中学校	2 以上	8 以上
	小計		22 以上	8 以上
合計			54 以上	38 以上
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目		10 以上	10 以上
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		10 以上	10 以上
	教育実践に関する科目		9 以上	7 以上
大学が独自に設定する科目			7 以上	7 以上
関連科目 * 1			0 以上	0 以上
その他の科目・自由選択科目 * 2			0 以上	0 以上
卒業研究			5	5
総合計			95	95

\* 1 「関連科目」：選修指定科目の国際理解の授業科目のうち語学教授法演習

\* 2 「その他の科目・自由選択科目」：学生が自らの専攻に関わりなく自由に選択できる授業科目

・自由選択科目として含める事ができる他学部、協定校開設科目は10単位まで

・外国人留学生の場合、教育支援センター長が開講する日本語の修得単位をその他の科目「初習外国語Ⅰ」「初習外国語Ⅱ」の単位にかえることができる場合がある。



教育課程等の概要																		
連係協力学部（経済学部経済学科）																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員			
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1前	○	2			○			2	5	2			7		
		データ科学と社会Ⅰ	1前		1			○								1		
		データ科学と社会Ⅱ	1前		1			○								1		
		知的財産入門	1後		1			○								1		
		運動健康科学	1前		1			○								1		
		山口と世界	1後		1			○								1		
		知の広場	1前		1			○								1		
		キャリア教育	3前		1			○								1		
	小計（8科目）				9						2	5	2			13	-	
	英語	英語Ⅰa	1前			2			○								1	
		英語Ⅱa	1前			2			○								1	
		英語Ⅰb	1後			2			○								1	
		英語Ⅱb	1後			2			○								1	
		英語会話Ⅰa	1前			1			○								1	
		英語会話Ⅱa	1前			1			○								1	
		英語会話Ⅰb	1後			1			○								1	
		英語会話Ⅱb	1後			1			○								1	
	小計（8科目）				12											2	-	
	人文教養	哲学	1前			1			○								1	
		歴史学	1前			1			○								1	
社会学		1後			1			○								1		
小計（3科目）				3											3	-		
社会教養	経済と法1	1後	○		1			○			4	1	1			3		
	経済と法2	1後	○		1			○								9		
	経済と法3	1前	○		1			○			1					7		
小計（3科目）				3						5	1	1			19	-		
自然教養	自然科学1	1後			1			○								1		
	自然科学2	1後			1			○								1		
小計（2科目）				2											2	-		
学際的教養	人間の発達と育成1	1前			1			○								1		
	人間の発達と育成2	1後			1			○								1		
	文化の継承と創造1	1後			1			○								1		
	文化の継承と創造2	1後			1			○								1		
	社会と医療	1後			1			○								1		
	環境と人間	1前			1			○								1		
	食と生命	1前			1			○								1		
小計（7科目）				7											6	-		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)	
専門科目	基盤科目	ミクロ経済学Ⅰ	1前	○	4			○				1					
		マクロ経済学Ⅰ	1後	○	2			○				1					
		簿記	1前	○	2			○								1	
		法学Ⅰ	1前	○	2			○								1	
		法学Ⅱ	1後	○	2			○								2	
		小計(5科目)			12	0	0				2					5	-
経済学系列	理論経済	ミクロ経済学Ⅱ	2・3・4後		2			○			1						※1, ※4, ※6
		マクロ経済学Ⅱ	2・3・4前		2			○			1						※1, ※4, ※6
		政治経済学Ⅰ	1・2・3・4後		2			○				1					※1, ※4, ※6
		政治経済学Ⅱ	2・3・4前		2			○									※1, ※5, ※6
		経済学の歴史	1・2・3・4後		2			○					1				※1, ※5, ※6
	計量経済	経済統計学Ⅰ	1・2・3・4前		2			○				1					※1, ※4, ※6
		経済統計学Ⅱ	2・3・4後		2			○				1					※1, ※5, ※6
		計量経済学	2・3・4後		2			○				1					隔年※1, ※5, ※6
	経教理	経済数学Ⅰ	1・2・3・4後		2			○							1		※1, ※5, ※6
		数理経済学	2・3・4前		2			○							1		※1, ※5, ※6
		産業連関論	2・3・4後		2			○				1					※1, ※5, ※6
	経動学	景気循環論	2・3・4後		2			○							1		※1, ※5, ※6
		経済成長論	2・3・4前		2			○							1		※1, ※5, ※6
	経政策	経済政策総論	1・2・3・4後	○	2			○							1		
	経金融	金融経済論	1・2・3・4前		4			○			1						※1, ※4, ※6
		金融システム論	2・3・4後		2			○			1						※1, ※5, ※6
	経公共	財政学	1・2・3・4後		4			○				1					※1, ※4, ※6
		国際公共管理論	1・2・3・4前	○	2			○							1		※1, ※4
		公共政策論	2・3・4前		2			○				1					※1, ※5, ※6
		公共管理論	2・3・4前	○	2			○			1						※3, ※4
	経地域	公共経営論	2・3・4後		2			○			1						※3, ※4, ※6
		地域経済論	1・2・3・4前		2			○				1					※1, ※5, ※6
	経社会	地方財政論	2・3・4後		2			○					1				※1, ※5, ※6
		地域福祉社会学	2・3・4前		2			○			1						※1, ※5, ※6
		社会政策論	1・2・3・4前		4			○			1						※1, ※5, ※6
	経政治	労働経済論	2・3・4前		2			○			1						隔年※1, ※4, ※6
		ジェンダー論	2・3・4後		2			○			1						※1, ※5, ※6
		医療福祉経済論	2・3・4前		2			○			1						※1, ※5, ※6
		医療福祉事情と経済	2・3・4後		2			○			1						※1, ※5, ※6
		情報法Ⅰ	2・3・4前		2			○						1			※1, ※5, ※6
		情報法Ⅱ	2・3・4後		2			○						1			※1, ※5, ※6
	経政治	政治学	1・2・3・4後		2			○			1						※1, ※4, ※6
経経済史	日本経済史総論	1・2・3・4前		2			○			1						※1, ※5, ※6	
	西洋経済史総論	1・2・3・4後		2			○			1						※1, ※4, ※6	
	日本経済史各論	2・3・4後		2			○			1						※1, ※5, ※6	
	西洋経済史各論	2・3・4後		2			○			1						※1, ※5, ※6	
国際経済学	国際経済学	1・2・3・4後	○	2			○				1					※1, ※4, ※6	
	国際マクロ経済学	1・2・3・4前	○	2			○				1					※3, ※4, ※8	
	国際政治経済学	1・2・3・4前		2			○				1						
	貿易論	2・3・4前		2			○				1						
経国際	国際金融論	1・2・3・4後		2			○				1					※1, ※4, ※6	
国際関係	国際関係論	1・2・3・4後		2			○				1					※1, ※4, ※6	
	現代世界経済論	1・2・3・4前		2			○						1			※1, ※4, ※6	
	アメリカ経済論	2・3・4後		2			○						1			※1, ※4, ※6	
	ヨーロッパ経済論	2・3・4後		2			○				1					※1, ※4, ※6	
協国際	国際協力論	1・2・3・4後		2			○							1		※1, ※4, ※6	
	国際地域統合論	2・3・4前		2			○				1					※3, ※4, ※8	
	国際人権法	2・3・4前		2			○						1			※1, ※5, ※6	
経発展	経済発展論	1・2・3・4前		2			○					1				※1, ※4, ※6	
	国際環境保全論	2・3・4前		2			○						1			隔年※3, ※4, ※6	
	開発とジェンダー	2・3・4後		2			○						1			※3, ※4, ※6	
経東アジア	日本経済論	2・3・4後		2			○				1					隔年※1, ※4, ※6	
	東アジア経済論	1・2・3・4後		2			○						1			※1, ※4, ※6	
	アジア社会経済論	2・3・4後		2			○					1				※3, ※4, ※6	
経中国社会	中国経済論	1・2・3・4前		2			○			1						※1, ※4, ※6	
	中国経済史	2・3・4後		2			○						1			※1, ※4, ※6	
	中国経済事情	2・3・4後		2			○			1						※3, ※4, ※6	

経営学系列	経営管理	経営学総論	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※4, ※6
		経営組織論	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※5, ※6
		経営管理論	1・2・3・4後		2	○							1	※1, ※5, ※6
		労務管理論	2・3・4後		2	○							1	※1, ※5, ※6
		財務管理論	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※5, ※6
		生産管理論	2・3・4後		2	○							1	※1, ※5, ※6
		国際経営論	1・2・3・4後		2	○							1	※1, ※4, ※6
		経営戦略論	2・3・4前		2	○							1	※1, ※5, ※6
		投資論	2・3・4後		2	○							1	※1, ※5, ※6
		地域企業経営論	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※5, ※6
中小企業経営論	2・3・4後		2	○							1	※1, ※5, ※6		
行企 動業	企業論	1・2・3・4後		2	○							1	※1, ※5, ※6	
	多国籍企業論	1・2・3・4前		2	○							1	※3, ※4, ※6	
教経 理営	経営数学	1・2・3・4後		2	○							1	※1, ※5, ※8	
	経営統計学	2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
財務 会計	会計学1	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※5, ※8	
	会計学2	2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	財務会計論	2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	財務諸表分析	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	会計監査	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	会計学特論	2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
簿記	応用簿記	1・2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	株式会社簿記	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	企業結合会計論	2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	商業簿記特論	2・3・4前		4	○						2	共同、メディア※3, ※5, ※8		
	財務会計特論	2・3・4後		4	○						2	共同、メディア※3, ※5, ※8		
	税法特論	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	法人税法1	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
法人税法2	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8		
管理 会計	工業簿記	1・2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	原価計算論	2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	管理会計論	2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	管理会計特論	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	医療マネジメント	2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
流 通	流通論Ⅰ	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※4, ※6	
	流通論Ⅱ	1・2・3・4後		2	○							1	※1, ※5, ※6	
テ ィ ン グ	マーケティング論	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※4, ※6	
	マーケティング戦略論	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
商 品	商品学	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※4, ※6	
	商品開発論	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
保 険	保険論Ⅰ	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※5, ※6	
	保険論Ⅱ	2・3・4後		2	○							1	隔年※3, ※5, ※8	
	医療リスクマネジメント	2・3・4後		2	○							1	隔年※3, ※5, ※8	
経 済 基 本 法	法理学	1・2・3・4前		2	○				1			1	※2, ※5, ※7	
	憲法Ⅰ	1・2・3・4前		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	憲法Ⅱ	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	民法Ⅰ	1・2・3・4前		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	民法Ⅱ	1・2・3・4前		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	民法Ⅲ	2・3・4後		2	○							1	隔年※2, ※5, ※7	
	民法Ⅳ	1・2・3・4前		2	○							1	隔年※2, ※5, ※7	
	民法Ⅴ	1・2・3・4後		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	刑法総論	1・2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	刑法各論	1・2・3・4後		2	○							1	隔年※3, ※5, ※8	
刑事訴訟法	2・3・4後		2	○							1	隔年※3, ※5, ※8		
現 代 企 業 法	商法Ⅰ	1・2・3・4後		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	商法Ⅱ	1・2・3・4前		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	商法Ⅳ	2・3・4前		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	経済法	1・2・3・4前		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	知的財産権法	2・3・4後		2	○						3	オムニバス、※2, ※5, ※7		
社 会 生 活 法	社会法Ⅰ	1・2・3・4前		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	社会法Ⅱ	1・2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※8	
	民事訴訟法	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	
行 政 シ ス テ ム 法	行政法Ⅰ	1・2・3・4前		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	行政法Ⅱ	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※7	
	税法Ⅰ	1・2・3・4前		2	○							1	※2, ※5, ※7	
	税法Ⅱ	2・3・4後		2	○							1	※3, ※5, ※8	

観光政策学系列	観光経済	観光政策概論	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		観光経済学	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		観光統計学	2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		観光地域経済論	2・3・4後		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		観光政策評価論	2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※8	
	観光ビジネス	観光産業総論	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※4, ※6	
		観光マーケティング論	2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		ヘルスツーリズム論	2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※8	
		ホスピタリティマネジメント	2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※8	
		旅行契約と約款	2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※8	
	観光と環境	環境経済学	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※4, ※6	
		エコ・ツーリズム論	2・3・4前		2	○						1	隔年※3, ※5, ※8	
		観光地理学	2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※8	
	観光文化交流	観光コミュニケーション	1・2・3・4後		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		異文化コミュニケーション論	1・2・3・4前		2	○						2	共同※1, ※4, ※6	
国際メディア論		1・2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※8		
観光文化心理学		1・2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※8		
日本文化・宗教論		2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※8		
山口の歴史と文化		2・3・4前		2	○		1				1	※1, ※5, ※8		
民俗学・文化人類学特殊講義 (現代民俗)		2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※8		
民俗学・文化人類学特殊講義 (生活文化)		2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※8		
宗教学概論		2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※8		
食文化論		2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※8		
美術史II (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※8			
英語	観光英語	1・2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※8		
学部科目共	外国書講読	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※6		
	特殊講義I	1・2・3・4前後		2	○		1				2	※1, ※5, ※6		
	課題解決型インターンシップ	1・2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10		
学部共通科目(外国語)	英語	リーディング	1・2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※8	
		ライティング	1・2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※8	
		リスニング	1・2・3・4前後		2	○						1	※3, ※5, ※8	
		英文法	1・2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※8	
		英会話	1・2・3・4前後		2	○						2	※3, ※5, ※6	
		ビジネス英語	1・2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※6	
		ビジネス英語会話	1・2・3・4前		2	○						1	※3, ※5, ※6	
		ビジネス・ライティング	1・2・3・4後		2	○						1	※3, ※5, ※6	
		TOEIC標準コース	1・2・3・4前後		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		TOEIC発展コース	1・2・3・4前後		2	○						1	※1, ※5, ※6	
	TOEFL STUDY	1・2・3・4前後		2	○						1	メディア※1, ※5, ※6		
	時事英語	1・2・3・4後		2	○						1	※1, ※5, ※6		
	韓国語	韓国語I	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		韓国語II	1・2・3・4後		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		韓国語会話I	1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		韓国語会話II	1・2・3・4後		2	○						1	※1, ※5, ※6	
		ビジネス韓国語I	1・2・3・4前		2	○						1	隔年※1, ※5, ※6	
		ビジネス韓国語II	1・2・3・4後		2	○						1	隔年※1, ※5, ※6	
	中国語	中国語(口語I)	1・2・3・4前		2	○						1	メディア※1, ※5, ※6	
		中国語(口語II)	1・2・3・4後		2	○						1	メディア※1, ※5, ※6	
中国語(読読I)		1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※6		
中国語(読読II)		1・2・3・4後		2	○						1	※1, ※5, ※6		
中国語(聴力I)		1・2・3・4前		2	○						1	隔年※1, ※5, ※6		
中国語(聴力II)		1・2・3・4後		2	○						1	隔年※1, ※5, ※6		
中国語(作文I)		1・2・3・4前		2	○						1	隔年※1, ※4, ※6		
中国語(作文II)		1・2・3・4後		2	○						1	隔年※1, ※4, ※6		
ビジネス中国語I		1・2・3・4前		2	○						1	※1, ※5, ※6		
ビジネス中国語II		1・2・3・4後		2	○						1	※1, ※5, ※6		
時事中国語I	1・2・3・4前		2	○						1	隔年※1, ※5, ※6			
時事中国語II	1・2・3・4後		2	○						1	隔年※1, ※5, ※6			
小計(181科目)				6	368	0			10	8	3		72	-
目等(演習)	通学(科目共)	演習I	2通	○	4				8	3			19	
		演習II	3通	○	4				8	6	3		20	
		卒業論文演習	4通	○	4				8	5			17	
		小計(3科目)			12	0	0		10	7	3		26	-
合計(220科目)				54	380	0		10	8	3		90		

学位又は称号	学士（経済学）	学位又は学科の分野	経済学関係	
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等	
<p>〔卒業要件〕            共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。            (履修科目の登録の上限：52単位(年間))</p>			1学年の学期区分	2期
<p>I 共通教育科目            必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。</p> <p>(必修科目24単位 内訳)            ・教養コア系列 9単位            ・一般教養系列(人文教養分野) 3単位            ・一般教養系列(社会教養分野) 3単位            ・一般教養系列(自然教養分野) 2単位            ・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位</p> <p>(選択必修科目6単位 内訳)            ・英語系列から6単位</p>			1学期の授業期間	15週
<p>II 専門科目            ○経済学科 本科 経済履修            経済学科本科経済履修の専門科目から94単位(必修科目30単位及び選択必修科目64単位を含む。)以上を修得する。            (必修科目30単位 内訳)            ・基盤科目 12単位            ・経済政策総論 2単位、国際経済学 2単位、国際マクロ経済学 2単位            ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位            (選択必修科目64単位 内訳)            ・A科目(※1)の科目の中から46単位            (その内、科目区分が経済学系列の科目から12単位以上修得すること。)            ・B科目(※2)の科目の中から4単位            ・自由科目(※3)の科目の中から14単位            (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○経済学科 本科 国際経済履修            経済学科本科国際経済履修の専門科目から94単位(必修科目30単位及び選択必修科目64単位を含む。)以上を修得する。            (必修科目30単位 内訳)            ・基盤科目12単位            ・経済政策総論 2単位、国際経済学 2単位、国際マクロ経済学 2単位            ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位            (選択必修科目64単位 内訳)            ・A科目(※4)の科目の中から38単位            (その内、科目区分が経済学系列の理論経済、計量経済、数理経済、動学経済、経済政策、金融経済、公共経済、地域経済、社会経済、政治経済、経済史の分野の科目から8単位以上、かつ国際経済学、国際金融、国際関係、国際協力、経済発展、東アジア経済社会、中国経済社会の分野の科目から12単位以上修得すること。)            ・自由科目(※5)の科目の中から26単位            (A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○経済学科 公共管理コース            経済学科公共管理コースの専門科目から94単位(必修科目34単位及び選択必修科目60単位を含む。)以上を修得する。            (必修科目34単位 内訳)            ・基盤科目12単位            ・経済政策総論 2単位、国際公共管理論 2単位、公共管理論 2単位、国際経済学 2単位、国際マクロ経済学 2単位            ・演習 I 4単位、演習 II 4単位、卒業論文演習 4単位            (選択必修科目60単位 内訳)            ・A科目(※6)の科目の中から44単位            (その内、科目区分が経済学系列の科目から12単位以上修得すること。)            ・B科目(※7)の科目の中から4単位            ・自由科目(※8)の科目の中から12単位            (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>III TOEICスコア            ・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。</p>			1時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要																		
連係協力学部（経済学部経営学科）																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員		
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1前	○	2			○			1				15			
		データ科学と社会 I	1前		1			○							1			
		データ科学と社会 II	1前		1			○							1			
		知的財産入門	1後		1			○							1			
		運動健康科学	1前		1			○							1			
		山口と世界	1後		1			○							1			
		知の広場	1前		1			○							1			
		キャリア教育	3前		1			○							1			
		小計（8科目）				9	0	0				1				21	-	
	英語	英語 I a	1前			2			○							1		
		英語 II a	1前			2			○							1		
		英語 I b	1後			2			○							1		
		英語 II b	1後			2			○							1		
		英語会話 I a	1前			1			○							1		
		英語会話 II a	1前			1			○							1		
		英語会話 I b	1後			1			○							1		
		英語会話 II b	1後			1			○							1		
		小計（8科目）				0	12	0								2	-	
	一般教養	人文教養	哲学	1前		1			○								1	
			歴史学	1前		1			○								1	
社会学			1後		1			○								1		
小計（3科目）						3	0	0								3	-	
社会教養		経済と法1	1後	○	1			○								9		
		経済と法2	1後	○	1			○			2	6				1		
		経済と法3	1前	○	1			○			3	1				4		
		小計（3科目）				3	0	0			5	7				15	-	
自然教養		自然科学1	1後		1			○								1		
		自然科学2	1後		1			○								1		
		小計（2科目）				2	0	0								2	-	
学際的教養	人間の発達と育成1	1前		1			○								1			
	人間の発達と育成2	1後		1			○								1			
	文化の継承と創造1	1後		1			○								1			
	文化の継承と創造2	1後		1			○								1			
	社会と医療	1後		1			○								1			
	環境と人間	1前		1			○								1			
	食と生命	1前		1			○								1			
小計（7科目）				7	0	0								6	-			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員
専門科目	基盤科目	ミクロ経済学Ⅰ	1前	○	4			○							1	
		マクロ経済学Ⅰ	1後	○	2			○							1	
		簿記	1前	○	2			○							1	
		法学Ⅰ	1前	○	2			○			1					
		法学Ⅱ	1後	○	2			○			1	1				
		小計(5科目)			12	0	0				2	1			3	-
経済学系列	理論経済	ミクロ経済学Ⅱ	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		マクロ経済学Ⅱ	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
	政治経済	政治経済学Ⅰ	1・2・3・4後		2			○							1	※1, ※5, ※7, ※8
		政治経済学Ⅱ	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
	経済学Ⅰ	経済学の歴史	1・2・3・4後		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		経済統計学Ⅰ	1・2・3・4前		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
	経済学Ⅱ	経済統計学Ⅱ	2・3・4後		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※10
		計量経済学	2・3・4後		2			○							1	隔年※3, ※5, ※7, ※10
	経済学Ⅲ	経済数学Ⅰ	1・2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		数理経済学	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
	産業経済	産業連関論	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		景気循環論	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
	経済学Ⅳ	経済成長論	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		経済成長論	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
	政策経済	経済政策総論	1・2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		金融経済論	1・2・3・4前		4			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
	金融経済	金融システム論	2・3・4後		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		財政学	1・2・3・4後		4			○							1	※1, ※5, ※7, ※8
	経済学Ⅴ	国際公共管理論	1・2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		公共政策論	2・3・4前		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		公共管理論	2・3・4前		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		公共経営論	2・3・4後		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
	地域経済	地域経済論	1・2・3・4前		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		地方財政論	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
	地域経済	地域福祉社会学	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		社会政策論	1・2・3・4前		4			○							1	※1, ※5, ※7, ※8
	社会経済	労働経済論	2・3・4前		2			○							1	隔年※1, ※5, ※7, ※8
		ジェンダー論	2・3・4後		2			○							1	※1, ※5, ※7, ※8
		医療福祉経済論	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※8
		医療福祉事情と経済	2・3・4後		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		情報法Ⅰ	2・3・4前		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		情報法Ⅱ	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※8
	経済政治	政治学	1・2・3・4後		2			○							1	※1, ※5, ※7, ※8
		日本経済史総論	1・2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
	経済史	西洋経済史総論	1・2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		日本経済史各論	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
	経済史	西洋経済史各論	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		国際経済学	1・2・3・4後		2			○							1	※1, ※5, ※7, ※8
	国際経済学	国際マクロ経済学	1・2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※8
		国際政治経済学	1・2・3・4前		2			○							1	※1, ※5, ※7, ※8
		貿易論	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		国際金融論	1・2・3・4後		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
	国際関係	国際関係論	1・2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※8
		現代世界経済論	1・2・3・4前		2			○							1	※1, ※5, ※7, ※8
		アメリカ経済論	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		ヨーロッパ経済論	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
	協国際	国際協力論	1・2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※8
		国際地域統合論	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
		国際人権法	2・3・4前		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※8
	発展経済	経済発展論	1・2・3・4前		2			○							1	※1, ※5, ※7, ※10
		国際環境保全論	2・3・4前		2			○							1	隔年※3, ※5, ※7, ※10
		開発とジェンダー	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10
東アジア経済	社会経済	日本経済論	2・3・4後		2			○							1	隔年※1, ※4, ※6, ※8
		東アジア経済論	1・2・3・4後		2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		アジア社会経済論	2・3・4後		2			○							1	※3, ※5, ※7, ※10

	济中	中国経済論	1・2・3・4前			2		○							1	※1, ※5, ※7, ※8	
	社国	中国経済史	2・3・4後			2		○							1	※3, ※5, ※7, ※10	
	会經	中国経済事情	2・3・4後			2		○							1	※3, ※5, ※7, ※10	
経営学系列	経営管理	経営学総論	1・2・3・4前	○	2			○			1				1		
		経営組織論	1・2・3・4前	○	2			○							1		
		経営管理論	1・2・3・4後			2			○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8
		労務管理論	2・3・4後			2			○							1	※1, ※5, ※7, ※8
		財務管理論	1・2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		生産管理論	2・3・4後			2			○		1					1	※1, ※5, ※7, ※8
		国際経営論	1・2・3・4後			2			○		1					1	※1, ※4, ※6, ※8
		経営戦略論	2・3・4前			2			○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8
		投資論	2・3・4後			2			○				1			1	※1, ※4, ※6, ※8
		地域企業経営論	1・2・3・4前			2			○		1					1	※1, ※4, ※6, ※8
		中小企業経営論	2・3・4後			2			○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8
	行企	企業論	1・2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		多国籍企業論	1・2・3・4前			2			○		1					1	※1, ※4, ※6, ※8
	教經	経営数学	1・2・3・4後			2			○		1					1	※1, ※4, ※6, ※8
		経営統計学	2・3・4前			2			○		1					1	※1, ※5, ※7, ※8
	財務会計	会計学1	1・2・3・4前			2			○		1					1	※1, ※4, ※6, ※8
		会計学2	2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		財務会計論	2・3・4前			2			○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8
		財務諸表分析	2・3・4後			2			○		1					1	※1, ※4, ※6, ※8
		会計監査	2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		会計学特論	2・3・4前	○		2			○		1					1	※1, ※8
	簿記	応用簿記	1・2・3・4前			2			○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8
		株式会社簿記	2・3・4後			2			○		1					1	※1, ※4, ※6, ※8
		企業結合会計論	2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		商業簿記特論	2・3・4前			4			○							2	共同、メディア※1, ※4, ※6, ※8
		財務会計特論	2・3・4後			4			○							2	共同、メディア※1, ※4, ※6, ※8
税法特論		2・3・4後			2			○							1	※3, ※5, ※6, ※10	
法人税法1		2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
法人税法2		2・3・4後			2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
管理会計	工業簿記	1・2・3・4後			2			○							1	※3, ※5, ※8	
	原価計算論	2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
	管理会計論	2・3・4前			2			○				1			1	※1, ※4, ※6, ※8	
	管理会計特論	2・3・4後	○		2			○				1			1	※1, ※8	
	医療マネジメント	2・3・4前			2			○							1	※1, ※4, ※6, ※8	
流通	流通論Ⅰ	1・2・3・4前			2			○		1					1	※1, ※4, ※6, ※8	
	流通論Ⅱ	1・2・3・4後			2			○		1					1	※1, ※5, ※7, ※8	
マーケティング	マーケティング論	1・2・3・4前	○		2			○			1				1	※4, ※6, ※8	
	マーケティング戦略論	2・3・4後			2			○			1				1	※1, ※5, ※7, ※8	
商品	商品学	1・2・3・4前			2			○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8	
	商品開発論	2・3・4後			2			○			1				1	※1, ※5, ※7, ※8	
保険	保険論Ⅰ	1・2・3・4前			2			○			1				1	※1, ※4, ※6, ※8	
	保険論Ⅱ	2・3・4後			2			○			1				1	隔年※1, ※5, ※7, ※8	
	医療リスクマネジメント	2・3・4後			2			○			1				1	隔年※1, ※4, ※6, ※8	
経済基本法	法理学	1・2・3・4前			2			○							1	※2, ※5, ※7, ※9	
	憲法Ⅰ	1・2・3・4前	○		2			○						1	1	※2, ※5, ※7	
	憲法Ⅱ	2・3・4後			2			○							1	※3, ※5, ※7, ※9	
	民法Ⅰ	1・2・3・4前	○		2			○		1					1	※2, ※4, ※6	
	民法Ⅱ	1・2・3・4前			2			○							1	※2, ※4, ※6, ※9	
	民法Ⅲ	2・3・4後			2			○			1				1	隔年※3, ※5, ※7, ※9	
	民法Ⅳ	1・2・3・4前			2			○			1				1	隔年※3, ※5, ※7, ※9	
	民法Ⅴ	1・2・3・4後			2			○							1	※3, ※5, ※7, ※9	
	刑法総論	1・2・3・4前			2			○		1					1	※3, ※5, ※7, ※9	
	刑法各論	1・2・3・4後			2			○		1					1	隔年※3, ※5, ※7, ※9	
刑事訴訟法	2・3・4後			2			○		1					1	隔年※3, ※5, ※7, ※9		
現代企業法	商法Ⅰ	1・2・3・4後			2			○							1	※2, ※4, ※6, ※9	
	商法Ⅱ	1・2・3・4前			2			○							1	※2, ※4, ※6, ※9	
	商法Ⅳ	2・3・4前			2			○							1	※3, ※5, ※7, ※9	
	経済法	1・2・3・4前			2			○							1	※2, ※5, ※7, ※9	
	知的財産権法	2・3・4後			2			○							3	オムニバス、※2, ※5, ※7	



活法生	社会法Ⅰ	1・2・3・4前			2	○							1	※2, ※5, ※7, ※9
	社会法Ⅱ	1・2・3・4前			2	○							1	※2, ※5, ※7, ※9
	民事訴訟法	2・3・4後			2	○							1	※3, ※5, ※7, ※9
テーマシス	行政法Ⅰ	1・2・3・4前			2	○			1					※3, ※5, ※7, ※9
	行政法Ⅱ	2・3・4後			2	○			1					※3, ※5, ※7, ※9
	税法Ⅰ	1・2・3・4前			2	○			1					※2, ※4, ※6, ※9
	税法Ⅱ	2・3・4後			2	○			1					※2, ※5, ※7, ※9
観光政策学系列	観光経済	観光政策概論	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※5, ※7, ※8
		観光経済学	1・2・3・4前		2	○							1	※1, ※5, ※7, ※8
		観光統計学	2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10
		観光地域経済論	2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
		観光政策評価論	2・3・4後			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10
	観光ビジネス	観光産業総論	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8
		観光マーケティング論	2・3・4前			2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8
		ヘルスツーリズム論	2・3・4後			2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8
		ホスピタリティマネジメント	2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
		旅行契約と約款	2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※8
	観光と環境	環境経済学	1・2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10
		エコ・ツーリズム論	2・3・4前			2	○						1	隔年※3, ※5, ※7, ※10
		観光地理学	2・3・4後			2	○						1	※1, ※5, ※7, ※10
	観光文化交流	観光コミュニケーション	1・2・3・4後			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10
		異文化コミュニケーション論	1・2・3・4前			2	○						2	共同※3, ※5, ※7, ※10
国際メディア論		1・2・3・4後			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
観光文化心理学		1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※5, ※7, ※10	
日本文化・宗教論		2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
山口の歴史と文化		2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
民俗学・文化人類学特殊講義 (現代民俗)		2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
民俗学・文化人類学特殊講義 (生活文化)		2・3・4後			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
宗教学概論		2・3・4後			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
食文化論		2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
美術史Ⅱ (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	2・3・4後			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10		
英語	観光英語	1・2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※10	
通学科目共	外国書講読	1・2・3・4前			2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8
	特殊講義Ⅰ	1・2・3・4前後			2	○			1				2	※1, ※5, ※7, ※8
	課題解決型インターンシップ	1・2・3・4後			2	○							1	※3, ※5, ※7, ※10
学部共通科目(外国語)	英語	リーディング	1・2・3・4前		2	○							1	※3, ※5, ※7, ※8
		ライティング	1・2・3・4後		2	○							1	※1, ※4, ※6, ※8
		リスニング	1・2・3・4前後			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※8
		英文法	1・2・3・4前			2	○						1	※3, ※5, ※7, ※8
		英会話	1・2・3・4前後			2	○						2	※1, ※4, ※6, ※8
		ビジネス英語	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
		ビジネス英語会話	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
		ビジネス・ライティング	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
		TOEIC標準コース	1・2・3・4前後			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
		TOEIC発展コース	1・2・3・4前後			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
		TOEFL STUDY	1・2・3・4前後			2	○						1	メディア※1, ※4, ※6, ※8
		時事英語	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
	韓国語	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8
		韓国語Ⅱ	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8
		韓国語会話Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8
		韓国語会話Ⅱ	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※5, ※7, ※8
		ビジネス韓国語Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	隔年※1, ※5, ※7, ※8
		ビジネス韓国語Ⅱ	1・2・3・4後			2	○						1	隔年※1, ※5, ※7, ※8
	中国語	中国語(口語Ⅰ)	1・2・3・4前			2	○						1	メディア※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(口語Ⅱ)	1・2・3・4後			2	○						1	メディア※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(閲読Ⅰ)	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(閲読Ⅱ)	1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(聴力Ⅰ)	1・2・3・4前			2	○						1	隔年※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(聴力Ⅱ)	1・2・3・4後			2	○						1	隔年※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(作文Ⅰ)	1・2・3・4前			2	○						1	隔年※1, ※4, ※6, ※8
		中国語(作文Ⅱ)	1・2・3・4後			2	○						1	隔年※1, ※4, ※6, ※8
		ビジネス中国語Ⅰ	1・2・3・4前			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8
ビジネス中国語Ⅱ		1・2・3・4後			2	○						1	※1, ※4, ※6, ※8	
時事中国語Ⅰ		1・2・3・4前			2	○						1	隔年※1, ※4, ※6, ※8	
時事中国語Ⅱ		1・2・3・4後			2	○						1	隔年※1, ※4, ※6, ※8	
小計(181科目)				4	370	0			8	8	2		74	-

目 等 科 目	演習Ⅰ	2通	○	4					8	3			19
	演習Ⅱ	3通	○	4					4	7	1		25
	卒業論文演習	4通	○	4					5	5	1		19
	小計(3科目)			12	0	0			8	7	1		30
合計(220科目)						52	382	0					93
学位又は称号		学士(経済学)			学位又は学科の分野			経済学関係					
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等						
<p>〔卒業要件〕 共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。 (履修科目の登録の上限：52単位(年間))</p> <p>I 共通教育科目 必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。</p> <p>(必修科目24単位 内訳) ・教養コア系列 9単位 ・一般教養系列(人文教養分野) 3単位 ・一般教養系列(社会教養分野) 3単位 ・一般教養系列(自然教養分野) 2単位 ・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位</p> <p>(選択必修科目6単位 内訳) ・英語系列から6単位</p> <p>II 専門科目 ○経営学科本科 経営学科本科の専門科目から94単位(必修科目30単位及び選択必修科目64単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目30単位 内訳) ・基盤科目 12単位 ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、マーケティング論 2単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目64単位 内訳) ・A科目(※1)の科目の中から40単位 (その内、科目区分が経営学系列の科目から24単位以上修得すること。) ・B科目(※2)の科目の中から4単位 ・自由科目(※3)の科目の中から20単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○経営学科職業会計人コース(会計専攻) 経営学科職業会計人コース(会計専攻)の専門科目から94単位(必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目32単位 内訳) ・基盤科目12単位 ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、会計学特論 2単位、管理会計特論 2単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目62単位 内訳) ・A科目(※4)の科目の中から40単位 ・自由科目(※5)の科目の中から22単位 (A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○経営学科職業会計人コース(税務専攻) 経営学科職業会計人コース(税務専攻)の専門科目から94単位(必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目32単位 内訳) ・基盤科目12単位 ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、会計学特論 2単位、管理会計特論 2単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目62単位 内訳) ・A科目(※6)の科目の中から40単位 ・自由科目(※7)の科目の中から22単位 (A科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○経営学科企業法務コース 経営学科企業法務コースの専門科目から94単位(必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目32単位 内訳) ・基盤科目12単位 ・経営学総論 2単位、経営組織論 2単位、憲法Ⅰ 2単位、民法Ⅰ 2単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目62単位 内訳) ・A科目(※8)の科目の中から20単位 (その内、科目区分が経営学系列の科目から8単位以上修得すること。) ・B科目(※9)の科目の中から20単位 ・自由科目(※10)の科目の中から22単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>III TOEICスコア ・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。</p>							1学年の学期区分		2期				
							1学期の授業期間		15週				
							1時限の授業の標準時間		90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																		
連係協力学部 (経済学部観光政策学科)																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員		
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1前	○	2			○			2	3	1			10		
		データ科学と社会 I	1前		1			○								1		
		データ科学と社会 II	1前		1			○								1		
		知的財産入門	1後		1			○								1		
		運動健康科学	1前		1			○								1		
		山口と世界	1後		1			○								1		
		知の広場	1前		1			○								1		
		キャリア教育	1前		1			○								1		
	小計 (8科目)				9	0	0				2	3	1			16	-	
	英語	英語 I a	1前			2			○								1	
		英語 II a	1前			2			○								1	
		英語 I b	1後			2			○								1	
		英語 II b	1後			2			○								1	
		英語会話 I a	1前			1			○								1	
		英語会話 II a	1前			1			○								1	
		英語会話 I b	1後			1			○								1	
		英語会話 II b	1後			1			○								1	
	小計 (8科目)				0	12	0									2	-	
	人文教養	哲学	1前			1			○								1	
		歴史学	1前			1			○								1	
社会学		1後			1			○								1		
小計 (3科目)				3	0	0									3	-		
社会教養	経済と法1	1後	○		1			○								9		
	経済と法2	1後	○		1			○			1					8		
	経済と法3	1前	○		1			○				1				7		
小計 (3科目)				3	0	0				1	1				24	-		
自然教養	自然科学1	1後			1			○								1		
	自然科学2	1後			1			○								1		
小計 (2科目)				2	0	0									2	-		
学際的教養	人間の発達と育成1	1前			1			○								1		
	人間の発達と育成2	1後			1			○								1		
	文化の継承と創造1	1後			1			○								1		
	文化の継承と創造2	1後			1			○								1		
	社会と医療	1後			1			○								1		
	環境と人間	1前			1			○								1		
	食と生命	1前			1			○								1		
小計 (7科目)				7	0	0									6	-		

科目 区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員
専門科目	基盤科目	ミクロ経済学Ⅰ	1前	○	4										1	
		マクロ経済学Ⅰ	1後	○	2											1
		簿記	1前	○	2										1	
		法学Ⅰ	1前	○	2										1	
		法学Ⅱ	1後	○	2										2	
		小計(5科目)			12	0	0								6	-
経済学系列	理論経済	ミクロ経済学Ⅱ	2・3・4後		2										1	※1, ※4, ※9
		マクロ経済学Ⅱ	2・3・4前		2										1	※3, ※6, ※9
		政治経済学Ⅰ	1・2・3・4後		2										1	※1, ※4, ※7
		政治経済学Ⅱ	2・3・4前		2										1	※3, ※6, ※9
		経済学の歴史	1・2・3・4後		2										1	※3, ※6, ※9
	経計	経済統計Ⅰ	1・2・3・4前		2										1	※1, ※4, ※7
		経済統計Ⅱ	2・3・4後		2										1	※1, ※4, ※9
		計量経済学	2・3・4後		2										1	隔年※1, ※4, ※9
	経数	経済数学Ⅰ	1・2・3・4後		2										1	※3, ※6, ※9
		数理経済学	2・3・4前		2										1	※3, ※6, ※9
		産業連関論	2・3・4後		2										1	※1, ※4, ※9
	経動	景気循環論	2・3・4後		2										1	※3, ※6, ※9
		経済成長論	2・3・4前		2										1	※3, ※6, ※9
	政経	経済政策総論	1・2・3・4後		2										1	※3, ※6, ※9
		金融経済	金融経済論	1・2・3・4前		4									1	※1, ※4, ※9
			金融システム論	2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9
	経公	経公共	財政学	1・2・3・4後		4									1	※1, ※4, ※9
			国際公共管理論	1・2・3・4前		2									1	※1, ※4, ※7
			公共政策論	2・3・4前		2									1	※1, ※4, ※9
			公共管理論	2・3・4前		2									1	※1, ※4, ※7
			公共経営論	2・3・4後		2								1	※3, ※6, ※9	
	経地	経地	地域経済論	1・2・3・4前		2									1	※1, ※4, ※9
			地方財政論	2・3・4後		2									1	※1, ※4, ※9
			地域福祉社会学	2・3・4前		2									1	※3, ※6, ※9
	社会	社会	社会政策論	1・2・3・4前		4									1	※3, ※6, ※9
			労働経済論	2・3・4前		2									1	隔年※3, ※6, ※9
ジェンダー論			2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9	
医療福祉経済論			2・3・4前		2									1	※3, ※6, ※9	
医療福祉事情と経済			2・3・4後		2									1	※1, ※4, ※9	
情報法Ⅰ			2・3・4前		2									1	※3, ※6, ※9	
	情報法Ⅱ	2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9		
経政	経政	政治学	1・2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9	
		日本経済史総論	1・2・3・4前		2									1	※3, ※6, ※9	
		西洋経済史総論	1・2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9	
		日本経済史各論	2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9	
	西洋経済史各論	2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※7		
国際	国際	国際経済学	1・2・3・4後		2									1	※1, ※4, ※9	
		国際マクロ経済学	1・2・3・4前		2									1	※3, ※6, ※9	
		国際政治経済学	1・2・3・4前		2									1	※1, ※4, ※7	
		貿易論	2・3・4前		2									1	※3, ※6, ※9	
国際	国際	国際金融論	1・2・3・4後		2									1	※1, ※4, ※9	
		国際関係論	1・2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9	
		現代世界経済論	1・2・3・4前		2									1	※1, ※4, ※9	
		アメリカ経済論	2・3・4後		2									1	※1, ※4, ※9	
	ヨーロッパ経済論	2・3・4後		2									1	※1, ※4, ※9		
協国	協国	国際協力論	1・2・3・4後		2									1	※1, ※6, ※7	
		国際地域統合論	2・3・4前		2									1	※3, ※6, ※9	
		国際人権法	2・3・4前		2									1	※3, ※6, ※9	
発経	発経	経済発展論	1・2・3・4前		2									1	※1, ※4, ※9	
		国際環境保全論	2・3・4前		2					1				1	隔年※1, ※4, ※7	
		開発とジェンダー	2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9	
経東	経東	日本経済論	2・3・4後		2									1	隔年※3, ※6, ※9	
		東アジア経済論	1・2・3・4後		2									1	※1, ※4, ※7	
		アジア社会経済論	2・3・4後		2									1	※1, ※6, ※7	
済中	済中	中国経済論	1・2・3・4前		2									1	※1, ※4, ※7	
		中国経済史	2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9	
		中国経済事情	2・3・4後		2									1	※3, ※6, ※9	

経営学系列	経営管理	経営学総論	1・2・3・4前		2	○											1	※1, ※4, ※7	
		経営組織論	1・2・3・4前		2	○												1	※1, ※4, ※7
		経営管理論	1・2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9
		労務管理論	2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9
		財務管理論	1・2・3・4前		2	○												1	※1, ※4, ※9
		生産管理論	2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9
		国際経営論	1・2・3・4後		2	○												1	※1, ※4, ※7
		経営戦略論	2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9
		投資論	2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9
		地域企業経営論	1・2・3・4前		2	○												1	※3, ※4, ※9
		中小企業経営論	2・3・4後		2	○												1	※1, ※4, ※7
	行企業	企業論	1・2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9
		多国籍企業論	1・2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9
	数経営	経営数学	1・2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9
		経営統計学	2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9
	財務会計	会計学1	1・2・3・4前		2	○												1	※3, ※4, ※9
		会計学2	2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9
		財務会計論	2・3・4前		2	○												1	※3, ※4, ※9
		財務諸表分析	2・3・4後		2	○												1	※3, ※4, ※9
会計監査		2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9	
会計学特論		2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
簿記	応用簿記	1・2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	株式会社簿記	2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	企業結合会計論	2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	商業簿記特論	2・3・4前		4	○												2	共同、メディア※3, ※6, ※9	
	財務会計特論	2・3・4後		4	○												2	共同、メディア※3, ※6, ※9	
	税法特論	2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	法人税法1	2・3・4後		2	○												1	※3, ※4, ※9	
法人税法2	2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9		
管理会計	工業簿記	1・2・3・4後		2	○												1	※3, ※5, ※8	
	原価計算論	2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	管理会計論	2・3・4前		2	○												1	※1, ※4, ※7	
	管理会計特論	2・3・4後		2	○												1	※3, ※4, ※9	
	医療マネジメント	2・3・4前		2	○												1	※1, ※4, ※9	
流通	流通論 I	1・2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	流通論 II	1・2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9	
マーケティング	マーケティング論	1・2・3・4前		2	○												1	※1, ※4, ※7	
	マーケティング戦略論	2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9	
商品	商品学	1・2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	商品開発論	2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9	
保険	保険論 I	1・2・3・4前		2	○												1	※1, ※4, ※9	
	保険論 II	2・3・4後		2	○												1	隔年※3, ※6, ※9	
	医療リスクマネジメント	2・3・4後		2	○												1	隔年※1, ※4, ※9	
経済基本法	法理学	1・2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	憲法 I	1・2・3・4前		2	○												1	※2, ※5, ※8	
	憲法 II	2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	民法 I	1・2・3・4前		2	○												1	※2, ※5, ※8	
	民法 II	1・2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	民法 III	2・3・4後		2	○												1	隔年※3, ※6, ※9	
	民法 IV	1・2・3・4前		2	○												1	隔年※2, ※5, ※8	
	民法 V	1・2・3・4後		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	刑法総論	1・2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	刑法各論	1・2・3・4後		2	○												1	隔年※3, ※6, ※9	
刑事訴訟法	2・3・4後		2	○												1	隔年※3, ※6, ※9		
現代企業法	商法 I	1・2・3・4後		2	○												1	※2, ※5, ※8	
	商法 II	1・2・3・4前		2	○												1	※2, ※5, ※8	
	商法 IV	2・3・4前		2	○												1	※3, ※6, ※9	
	経済法	1・2・3・4前		2	○												1	※2, ※5, ※8	
	知的財産権法	2・3・4後		2	○												3	オムニバス、※2, ※5, ※7	



目 等 学 科 目 共	演習Ⅰ	2通	○	4				○		4	3	1		22
	演習Ⅱ	3通	○	4				○		4	3	1		29
	卒業論文演習	4通	○	4				○		3	3			24
	小計(3科目)			12	0	0				5	4	1		36
合計(228科目)		—	—	56	386	0		—		5	4	1		101
学位又は称号		学士(経済学)			学位又は学科の分野			経済学関係						
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等				
<p>〔卒業要件〕 共通教育科目から30単位、専門科目から94単位、合計124単位を修得する。 (履修科目の登録の上限：52単位(年間))</p> <p>I 共通教育科目 必修科目24単位及び選択必修科目6単位を含め、30単位を修得する。 (必修科目24単位 内訳) ・教養コア系列 9単位 ・一般教養系列(人文教養分野) 3単位 ・一般教養系列(社会教養分野) 3単位 ・一般教養系列(自然教養分野) 2単位 ・一般教養系列(学際的教養分野) 7単位 (選択必修科目6単位 内訳) ・英語系列から6単位</p> <p>II 専門科目 ○観光政策学科 本科 観光政策学科本科の専門科目から94単位(必修科目32単位及び選択必修科目62単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目32単位 内訳) ・基盤科目12単位 ・観光政策概論 2単位、観光経済学 2単位、観光コミュニケーション 2単位、異文化コミュニケーション論 2単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目62単位 内訳) ・A科目(※1)の科目の中から48単位 (その内、科目区分が観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。) ・B科目(※2)の科目の中から2単位 ・自由科目(※3)の科目の中から12単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。)</p> <p>○観光政策学科 観光経済分析コース 観光政策学科観光経済分析コースの専門科目から94単位(必修科目38単位及び選択必修科目56単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目38単位 内訳) ・基盤科目12単位 ・観光政策概論 2単位、観光経済学 2単位、観光産業総論 2単位、環境経済学 2単位、観光コミュニケーション 2単位、異文化コミュニケーション論 2単位、プロジェクト演習Ⅰa 1単位、プロジェクト演習Ⅰb 1単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目56単位 内訳) ・A科目(※4)の科目の中から42単位 (その内、科目区分が観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。) ・B科目(※5)の科目の中から2単位 ・自由科目(※6)の科目の中から12単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。) ・語学評価認定を取得すること。</p> <p>○観光政策学科 観光コミュニケーションコース 観光政策学科観光コミュニケーションコースの専門科目から94単位(必修科目38単位及び選択必修科目56単位を含む。)以上を修得する。 (必修科目38単位 内訳) ・基盤科目12単位 ・観光政策概論 2単位、観光経済学 2単位、観光コミュニケーション 2単位、異文化コミュニケーション論 2単位、海外プロジェクト演習Ⅰa 1単位、海外プロジェクト演習Ⅰb 1単位、観光英語 2単位、プロジェクト演習Ⅰa 1単位、プロジェクト演習Ⅰb 1単位 ・演習Ⅰ 4単位、演習Ⅱ 4単位、卒業論文演習 4単位 (選択必修科目56単位 内訳) ・A科目(※7)の科目の中から42単位 (その内、科目区分が観光政策学系列の科目から12単位以上修得すること。) ・B科目(※8)の科目の中から2単位 ・自由科目(※9)の科目の中から12単位 (A科目、B科目の所定の単位数を超えて修得した科目の単位数も充てることができる。) ・語学評価認定を取得すること。</p> <p>III TOEICスコア ・山口大学が定める英語の試験においてTOEIC400点以上を取得したとみなされること。</p>										1学年の学期区分	2期			
										1学期の授業期間	15週			
										1時限の授業の標準時間	90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

連係協力学部(理学部数理科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員				
共通教育科目	基礎セミナー	1前		2			○			1									
	データ科学と社会 I	1前		1			○					1							
	データ科学と社会 II	1前		1			○						1				4		
	知的財産入門	1前		1			○										1		
	運動健康科学	1後		1			○										1		
	山口と世界	1後		1			○										1		
	知の広場	1後		1			○										1		
	キャリア教育	3前		1			○											1	
	小計(8科目)				9	0	0				1	0	1	0	0			9	—
	英語	英語 I a	1前			2		○											1
		英語 II a	1前			2		○											1
		英語 I b	1後			2		○											1
		英語 II b	1後			2		○											1
		英語会話 I a	1前			1		○											1
		英語会話 II a	1前			1		○											1
		英語会話 I b	1後			1		○											1
		英語会話 II b	1後			1		○											1
	小計(8科目)				0	12	0				0	0	0	0	0			2	—
	人文教養	哲学	1後			1		○											1
		歴史学	1後			1		○											1
		社会学	1後			1		○											1
		小計(3科目)				3	0	0				0	0	0	0	0			3
	社会教養	経済と法1	1後			1		○											1
		経済と法2	1後			1		○											1
		経済と法3	1後			1		○											1
小計(3科目)					3	0	0				0	0	0	0	0			3	—
学際的教養	人間の発達と育成1	1前			1		○											1	
	人間の発達と育成2	1前			1		○											1	
	文化の継承と創造1	1後			1		○											1	
	文化の継承と創造2	1後			1		○											1	
	社会と医療	1前			1		○											1	
	環境と人間	1前			1		○											1	
	食と生命	1前			1		○											1	
小計(7科目)				7	0	0				0	0	0	0	0			6	—	
専門基礎	数学 I	1前			2		○											1	
	数学 II	1後			2		○											1	
	小計(2科目)				4	0	0				0	0	0	0	0			2	—



科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員				
専門科目	数理科学入門	1前①	○	2			○				1	1							
	微分積分学Ⅰ	1後	○	4			○				1								
	線型代数学基礎Ⅰ	1後③	○	2			○						1						
	線型代数学基礎Ⅱ	1後	○	2			○						1						
	数理科学入門セミナー	1後	○	2				○			1	1	2						
	微分積分学Ⅱ	2前	○	4			○							1					
	微分積分学Ⅲ	2後	○	4			○					1							
	集合と位相Ⅰ	2前	○	4			○						1						
	集合と位相Ⅱ	2後	○	4			○							1				1	
	線型代数学Ⅰ	2前	○	4			○							1					
	線型代数学Ⅱ	2後	○	4			○					1							
	現代数学展望	3前	○	2			○				3	3	2					2	オムニバス
	数理科学基礎セミナー	2前	○	2					○		1	1	2	1					
	数理科学発展セミナー	3後	○	4					○		3	3	4	1				2	
	解析学	3前			4			○										1	※2
	幾何学	3前			4			○						1					※2
	代数学	3前			4			○				1							※2
	応用数理	3前			2			○			1								※2
	情報数理	3前			2			○				1							※2
	代数学展開Ⅰ	3・4後			2			○										1	隔年
	代数学展開Ⅱ	3・4後			2			○										1	隔年
	幾何学展開Ⅰ	3・4後			2			○										1	隔年
	幾何学展開Ⅱ	3・4後			2			○										1	隔年
	解析学展開Ⅰ	3・4後			2			○										1	隔年
	解析学展開Ⅱ	3・4後			2			○					1					1	隔年
	応用・情報数理展開Ⅰ	3・4後			2			○										1	隔年
	応用・情報数理展開Ⅱ	3・4後			2			○										1	隔年
	確率・統計	3・4後③			2			○										1	隔年
	特殊講義Ⅰ	2・3・4前後			1			○			1								
	特殊講義Ⅱ	2・3・4前後			2			○										3	
	専門英語Ⅰ	2・3・4前後			2			○										1	
	専門英語Ⅱ	2・3・4前後			2			○										1	
小計(32科目)				44	41	0					4	3	4	1	0		12	—	
理学部 基礎科目	物理学概論	1後			2		○										1	※1	
	化学概論	2前			2		○										1	※1	
	生物学概論	1前			2		○										1	※1	
	地学概論	2前			2		○										2	※1	
	小計(4科目)				0	8	0					0	0	0	0	0		5	—
データ 教育サイ エンス	データサイエンス技術Ⅰ	2前①	○	1			○				1								
	データサイエンス技術Ⅱ	2前②	○	1			○				1								
	データサイエンス応用	2前	○	2			○						1						
	数理データサイエンス技術演習	2後	○	2				○					1						
	数理データサイエンス発展	2後	○	4			○				1								
小計(5科目)				10	0	0					2	0	2	0	0		0	—	
課題 解決型 教育科 目	数理科学企画研究	1・2・3・4通			2		○					1		1					
	数理科学トピック	1・2・3・4通			1		○					1		1					
	学外実習Ⅰa	2・3前後			1												1		
	学外実習Ⅰb	2・3前後			2												1		
	学外実習Ⅱ	3・4前後			1												1		
	特別研究	4通	○	10					○		3	3	4						
小計(6科目)				10	7	0					4	3	4	1	0		1	—	
実習学 科格芸 目関員	博物館実習	3～4通				3			○								1		
	小計(1科目)				0	0	3					0	0	0	0		1	—	
合計(81科目)		—	—	90	68	3			—		3	3	4	1	0		41		
学位又は称号		学士(理学)			学位又は学科の分野				理学関係										

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>[卒業要件]            共通教育科目から32単位以上、専門科目から92単位以上、合計124単位以上を修得する。            (履修科目の登録の上限：60単位(年間))</p> <p>I 共通教育科目            必修科目26単位及び選択必修科目6単位を含め、32単位以上を修得する。</p> <p>(必修科目26単位 内訳)            ・教養コア系列9単位            ・一般教養系列(人文教養領域)3単位            ・一般教養系列(社会教養領域)3単位            ・一般教養系列(学際的教養領域)7単位            ・専門基礎系列(理系基礎分野)4単位</p> <p>(選択必修科目6単位 内訳)            ・英語系列から6単位</p> <p>II 専門科目            必修科目64単位及び選択必修科目(※1及び※2)12単位以上を含め、本学部の専門科目の中から92単位以上を修得する。</p> <p>1 選択必修科目については、理学部共通基礎科目(※1)から4単位以上、理学部共通基礎科目以外の選択必修科目(※2)から8単位以上を修得すること。            2 「専門英語1」及び「専門英語2」は、いずれか1科目しか履修できない。            3 「データサイエンス技術Ⅰ」及び「データサイエンス技術Ⅱ」は、自学科開設の授業科目しか履修できない。            4 「学外実習Ⅰb」の単位を修得した者は、「学外実習Ⅱ」を履修できない。            5 他学科開設の「物理化学基礎」及び「計算機ソフトウェア及び演習」の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。            6 以下の物理・情報科学科の授業科目の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。            物理・情報科学科：「プログラミング言語Ⅰ」、「プログラミング言語Ⅱ」、「グラフ理論」、「数値解析」            7 「特殊講義Ⅰ」、「特殊講義Ⅱ」及び「数理科学トピック」の講義題目は、その都度これを定め、講義題目が異なるものは別単位として認定する。            8 他学部及び放送大学の授業科目は、別に定めるところにより履修することができ、卒業に必要な単位に含まれることがある。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

教育課程等の概要																	
連係協力学部（理学部 物理・情報科学科）																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）以外の教員	
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1前		2			○			2	1		2			オムニバス
		データ科学と社会Ⅰ	1前		1			○						1			
		データ科学と社会Ⅱ	1前		1			○			1						3
		知的財産入門	2前		1			○						1			1
		運動健康科学	1後		1			○									1
		山口と世界	2後		1			○									1
		知の広場	1後		1			○									1
		キャリア教育	3前		1			○									1
	小計（8科目）				9	0	0				3	1	1	2	0	8	—
	英語	英語Ⅰa	1前			2			○								1
		英語Ⅱa	1前			2			○								1
		英語Ⅰb	1後			2			○								1
		英語Ⅱb	1後			2			○								1
		英語会話Ⅰa	1前			1			○								1
		英語会話Ⅱa	1前			1			○								1
		英語会話Ⅰb	1後			1			○								1
		英語会話Ⅱb	1後			1			○								1
	小計（8科目）				0	12	0				0	0	0	0	0	2	—
	一般教養	人文教養	哲学	2後			1			○							1
			歴史学	2後			1			○							1
社会学			2後			1			○							1	
小計（3科目）						3	0	0				0	0	0	0	3	—
社会教養		経済と法1	2前			1			○								1
		経済と法2	1前			1			○								1
		経済と法3	1前			1			○								1
		小計（3科目）				3	0	0				0	0	0	0	3	—
学際的教養		人間の発達と育成1	2後			1			○								1
		人間の発達と育成2	2後			1			○								1
		文化の継承と創造1	2前			1			○								1
		文化の継承と創造2	2前			1			○								1
	社会と医療	1後			1			○								1	
環境と人間	2前			1			○								1		
食と生命	1前			1			○								1		
小計（7科目）				7	0	0				0	0	0	0	0	6	—	
専門基礎	理系基礎	数学Ⅰ	1前			2			○							1	
		数学Ⅱ	1後			2			○							1	
		化学実験A	1前				2			○						7	
		生物学実験	1前				2			○						7	
		地球科学実験	1前				2			○						2	
小計（5科目）				4	6	0				0	0	0	0	0	18	共同 共同 オムニバス —	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員		
専門科目	学科共通科目	物理と情報のための基礎数学Ⅰ	○	2			○									2	※1※6 ※演習
		物理と情報のための基礎数学Ⅱ	○	2			○			1						1	※1※6 ※演習
		物理と情報のための基礎数学Ⅲ	○	4			○					2	1			1	※1※6 ※演習
		力学Ⅰ	○	3			○									2	※1※6 ※演習
		電磁気学Ⅰ	○	3			○			1							※1※6 ※演習
		物理・情報科学序論	○	2			○			1			1				※1※6 オムニバス
		力学Ⅱ			3			○		1							※2 ※演習
		電磁気学Ⅱ			3			○		1							※2 ※演習
		物理と情報のための応用数学Ⅰ			2			○			1						※2
		物理と情報のための応用数学Ⅱ			2			○			1						※2
		物理と情報のための応用数学Ⅲ			2			○								1	※2
		回路理論			2			○			1						※2
		物理と情報のための応用数学Ⅳ			2			○				1					※2
		情報応用物理学			2			○			1					1	※2 オムニバス
		物理・情報英語			2			○			7	4	3	3			※2
		無機化学Ⅰ			2			○								1	
		有機化学Ⅰ			2			○								1	
		地球科学入門Ⅰ			2			○								2	オムニバス
		地球科学入門Ⅱ			2			○								3	オムニバス
		化学基礎実験			1					○						2	共同
		生物学基礎実験			1											4	オムニバス
		地学基礎実験			1											2	オムニバス
		特殊講義Ⅰ			1					○						1	
		特殊講義Ⅱ			2					○	1						
		専門英語1			2					○						1	
		専門英語2			2					○						1	
小計(26科目)				16	38	0				7	4	3	3	0	23	—	
専門科目	コース専門科目	量子力学Ⅰ	○	3			○						2			※1 ※演習 オムニバス	
		統計力学Ⅰ	○	3			○				1		1			※1 ※演習 オムニバス	
		熱力学	○	2			○			1						※1	
		統計力学Ⅱ		3			○			1			1			※3 ※演習 オムニバス	
		量子力学Ⅱ		3			○						1			※3 ※演習 オムニバス	
		力学Ⅲ		1			○			1						※3	
		電磁気学Ⅲ		1			○			1						※3	
		量子力学Ⅲ		1			○						1			※3	
		統計力学Ⅲ		1			○						1			※3	
		物性物理学Ⅰ		2			○							1		※3	
		連続体物理学		2			○			1						※3	
		宇宙物理学		2			○							1		※3	
		相対論		2			○			1						※3	
		物性物理学Ⅱ		2			○							1		※3	
		素粒子物理学概論		2			○							1		※3	
		形式言語とオートマトン		2			○					1				※7	
		情報倫理		2			○							1			
		情報と職業		2			○							1			
		物理学基礎実験		1					○			1		1			共同
小計(19科目)				0	37	0				3	3	2	1	0	6	—	
基礎科目	理学部共通	物理学概論		2			○								1	※8	
		化学概論		2			○								1	※4※8	
		生物学概論		2			○								1	※4※8	
		地学概論		2			○								1	※4※8	
小計(4科目)				0	8	0				0	0	0	0	0	4	—	

専門科目	データサイエンス教育科目	学科共通科目	データサイエンス技術Ⅰ	2前①	○	1			○		1							※1※6	
			データサイエンス技術Ⅱ	2前②	○	1			○		2								※1※6 オムニバス
			情報科学概論	1前	○	2			○			1							※1※6
			プログラミング言語Ⅰ	1後	○	2			○			1							※1※6
			プログラミング演習Ⅰ	1後	○	2				○			1		1				※1※6
			基礎物理学実験	1後	○	3					○		1	1		1			※1※6 共同
			ロジカルシンキング	2前			2			○		4		1	1				※5 共同
			確率論	1後④			1			○		1							※5
			プログラミング言語Ⅱ	2前			2			○		1							※5
			プログラミング演習Ⅱ	2前			2				○	1				1			※5 共同
			論理学	2後			2			○			1						※5
			数値解析	3前			2			○		1							※5
	小計 (12科目)				11	11	0				6	2	2	3	0	0		—	
	データサイエンス教育科目	コース専門科目	物理データサイエンス技術演習	2後	○	2				○		1	1					共同	
			物理学実験Ⅰ	3前	○	2				○		1				1		共同	
			物理学実験Ⅱ	3後	○	2				○		1	1					共同	
			情報理論	2後			2			○			1						
			データ構造とアルゴリズム	3前			2			○			1						
			グラフ理論	2後			2			○						1			※9
			信号画像処理	3前			2			○		1							※9
			情報ネットワーク	3前			2			○			1						※9
			データベース論	3前			2			○						1			※9
			多変量解析	3前②			1			○		1							
シミュレーション技法			3前①			1			○		1								
最適化理論			3後③			1			○		1								
機械学習	3前②			1			○						1						
パターン認識	3前①			1			○						1						
分光情報解析学	3・4前			2			○						1						
データサイエンス技術演習	2後	○	2					○		1		1				共同			
データサイエンスプログラミング	3前	○	2					○		1									
マルチメディア処理演習	3前	○	2					○		2						オムニバス			
データサイエンス実践	3後	○	2					○		1				2		オムニバス			
小計 (19科目)				14	19	0				5	4	1	1	0	7		—		
課題解決型教育科目	学科共通科目	学外実習Ⅰa	2・3前後			1			○	1									
		学外実習Ⅰb	2・3前後			2			○	1									
		学外実習Ⅱ	3・4前後			1			○	1									
		サイエンス実習Ⅰ	1・2・3・4通			1			○	1									
		サイエンス実習Ⅱ	1・2・3・4通			1			○	1									
		特別研究	4通	○	10					○	7	4	3	1				※1※6	
小計 (6科目)				10	6	0			7	4	3	1	0	0		—			
係属学科格芸目関係	博物館実習	3～4通				3		○	1								—		
小計 (1科目)				0	0	3			1								—		
合計 (123科目)			—	—	73	131	3	—		7	4	3	3	0	67				
学位又は称号		学士 (理学)			学位又は学科の分野				理学関係										

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
<p>[卒業要件] 共通教育科目から34単位以上、専門科目から90単位以上、合計124単位以上を修得する。 (履修科目の登録の上限：60単位(年間))</p> <p>I 共通教育科目 必修科目26単位及び選択必修科目8単位以上を含め、34単位以上を修得する。</p> <p>(必修科目26単位 内訳) ・教養コア系列9単位 ・一般教養系列(人文教養領域)3単位 ・一般教養系列(社会教養領域)3単位 ・一般教養系列(学際的教養領域)7単位 ・専門基礎系列(理系基礎分野)4単位</p> <p>(選択必修科目8単位以上 内訳) ・英語系列から6単位 ・専門基礎系列(理系基礎分野)の必修科目以外から2単位</p> <p>II 専門科目</p> <p>&lt;物理学コース&gt; 必修科目(※1)51単位及び選択必修科目(※2, ※5, ※7, ※8及び※9)31単位以上を含め、本学部の専門科目の中から90単位以上を修得する。</p> <p>1 選択必修科目については、学科専門教育科目の学科共通科目(※2)又はデータサイエンス教育科目の学科共通科目(※5)から17単位以上、学科専門教育科目のコース専門科目(※3)から10単位、理学部共通基礎科目の学科共通科目(※4)から4単位以上を修得すること。</p> <p>2 「専門英語1」及び「専門英語2」は、いずれか1科目しか履修できない。</p> <p>3 「データサイエンス技術Ⅰ」及び「データサイエンス技術Ⅱ」は、自学科開設の授業科目しか履修できない。</p> <p>4 「学外実習Ⅰb」の単位を修得した者は、「学外実習Ⅱ」を履修できない。</p> <p>5 「物理学概論」、「物理学基礎実験」、他学科開設の「物理化学基礎」及び「計算機ソフトウェア及び演習」の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。</p> <p>6 以下の数理科学科の授業科目の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。 数理科学科：「データサイエンス応用」、「数理データサイエンス技術演習」、「数理データサイエンス発展」、「応用・情報数理展開Ⅰ」、「応用・情報数理展開Ⅱ」</p> <p>7 「特殊講義Ⅰ」及び「特殊講義Ⅱ」の講義題目は、その都度これを定め、講義題目が異なるものは別単位として認定する。</p> <p>8 他学部及び放送大学の授業科目は、別に定めるところにより履修することができ、卒業に必要な単位に含まれることがある。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分
<p>&lt;情報科学コース&gt; 必修科目(※6)54単位及び選択必修科目(※2, ※5※7及び※8)27単位以上を含め、本学部の専門科目の中から90単位以上を修得する。</p> <p>1 選択必修科目については、学科専門教育科目の学科共通科目(※2)又はデータサイエンス教育科目の学科共通科目(※5)から17単位以上、学科専門教育科目のコース専門科目(※7)又はデータサイエンス教育科目のコース専門科目(※9)から6単位以上、理学部共通基礎科目の学科共通科目(※8)から4単位以上を修得すること。</p> <p>2 「専門英語1」及び「専門英語2」は、いずれか1科目しか履修できない。</p> <p>3 「データサイエンス技術Ⅰ」及び「データサイエンス技術Ⅱ」は、自学科開設の授業科目しか履修できない。</p> <p>4 「学外実習Ⅰb」の単位を修得した者は、「学外実習Ⅱ」を履修できない。</p> <p>5 他学科開設の「物理化学基礎」及び「計算機ソフトウェア及び演習」の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。</p> <p>6 以下の数理科学科の授業科目の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。 数理科学科：「データサイエンス応用」、「数理データサイエンス技術演習」、「数理データサイエンス発展」、「応用・情報数理展開Ⅰ」、「応用・情報数理展開Ⅱ」</p> <p>7 「特殊講義Ⅰ」及び「特殊講義Ⅱ」の講義題目は、その都度これを定め、講義題目が異なるものは別単位として認定する。</p> <p>8 他学部及び放送大学の授業科目は、別に定めるところにより履修することができ、卒業に必要な単位に含まれることがある。</p>		

教 育 課 程 等 の 概 要

連係協力学部(理学部 化学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員		
共通教育科目	基礎セミナー	1前		2			○			4	5		1		1	オムニバス	
	データ科学と社会 I	1前		1			○			1						オムニバス	
	データ科学と社会 II	1前		1			○								5	オムニバス	
	知的財産入門	1前		1			○								1		
	運動健康科学	1後		1			○								1		
	山口と世界	1後		1			○								1		
	知の広場	1後		1			○								1		
	キャリア教育	3前		1			○								1		
	小計(8科目)			9	0	0				4	5	0	1	0	11	—	
	英語	英語 I a	1前		2			○								1	
		英語 II a	1前		2			○								1	
		英語 I b	1後		2			○								1	
		英語 II b	1後		2			○								1	
		英語会話 I a	1前		1			○								1	
		英語会話 II a	1前		1			○								1	
		英語会話 I b	1後		1			○								1	
		英語会話 II b	1後		1			○								1	
	小計(8科目)			0	12	0				0	0	0	0	0	2	—	
	人文教養	哲学	1後		1			○								1	
		歴史学	1後		1			○								1	
		社会学	1前		1			○								1	
	小計(3科目)			3	0	0				0	0	0	0	0	3	—	
	社会教養	経済と法1	1前		1			○								1	
		経済と法2	1前		1			○								1	
		経済と法3	1前		1			○								1	
		小計(3科目)			3	0	0				0	0	0	0	0	3	—
	学際的教養	人間の発達と育成1	1前		1			○								1	
		人間の発達と育成2	1前		1			○								1	
文化の継承と創造1		1後		1			○								1		
文化の継承と創造2		1後		1			○								1		
社会と医療		1後		1			○								1		
環境と人間		1前		1			○								1		
食と生命		1後		1			○								1		
小計(7科目)			7	0	0				0	0	0	0	0	6	—		
専門基礎	数学 I	1前		2			○								1		
	数学 II	1後		2			○								1		
	物理学実験A	1前			2					○					1		
	化学実験A	1後		2						○	1				2	共同	
	生物学実験	1前			2					○					7	共同	
小計(5科目)			6	4	0				1	0	0	0	0	11	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員			
専門科目	有機化学Ⅰ	1前	○	2			○			1								
	無機化学Ⅰ	1後	○	2			○			1								
	有機化学実験	2前	○	4					○	1	1					1		共同
	分析化学実験	2後	○	4					○	1	1		1					共同
	物理化学実験	3前	○	4					○	1	2							オムニバス
	創成化学実験及び演習	3後	○	6					○	4	5		1				1	
	有機化学Ⅱ	1前			2			○		1								※2
	無機化学Ⅱ	2前			2			○			1							※2
	物理化学基礎	1後			2			○		1								※2
	物理化学Ⅰ	2前			2			○		1								※2
	物理化学Ⅱ	2後			2			○		1								※2
	分析化学Ⅰ	2前			2			○			1							※2
	分析化学Ⅱ	2後			2			○			1							※2
	化学英語及び演習Ⅰ	2後			2			○		1								※2
	化学英語及び演習Ⅱ	3後			2			○		4	5		1			1		
	量子化学及び演習	2後			2			○			1							※2
	有機化学Ⅲ	2前			2			○									1	
	無機化学Ⅲ	2後			2			○			1							
	物理化学Ⅲ	3前			2			○		1								
	天然物有機化学	2前			2			○									1	
	高分子化学	3後			2			○									1	
	先端化学入門Ⅰ	3前			2			○		4	5		1			1		オムニバス
	先端化学入門Ⅱ	3後			2			○		4	5		1			1		
	分子生物学	2前			2			○									1	
	生物化学	2前			2			○									1	
	物性物理学Ⅰ	3前			2			○									1	
	物性物理学Ⅱ	3後			2			○									1	
	地球科学入門Ⅰ	1前			2			○									2	
	地球科学入門Ⅱ	1前			2			○									3	
	専門英語Ⅰ	2・3・4前後			2			○									1	
	専門英語Ⅱ	2・3・4前後			2			○									1	
	特殊講義	2・3・4前後			2			○									1	
	物理学基礎実験	3・4前後			1												2	
	生物学基礎実験	3・4前後			1												4	
	地学基礎実験	3・4前後			1												2	
小計(35科目)				22	55	0				4	5	0	1	0		23		—
理学部共通 基礎科目	物理学概論	2後			2		○									1		※1
	生物学概論	1前			2		○									2		※1 オムニバス
	地学概論	2前			2		○									1		※1
	小計(3科目)				0	6	0				0	0	0	0	0		4	
データサイエンス 教育科目	データサイエンス技術Ⅰ	2前①	○	1			○				1							
	データサイエンス技術Ⅱ	2前②	○	1			○				1							
	化学データサイエンス技術演習	2後			2			○								1		※2
	有機反応解析	2後			2			○			1							
	分光情報解析学	3前			2			○		1								
	計算化学	3前			2			○			1							
小計(6科目)				2	8	0				1	2	0	0	0		1		
課題解決型 教育科目	学外実習Ⅰa	2・3前後			1											1		
	学外実習Ⅰb	2・3前後			2											1		
	学外実習Ⅱ	3・4前後			1											1		
	サイエンス実習Ⅰ	1・2・3・4通			1											1		
	サイエンス実習Ⅱ	1・2・3・4通			1											1		
	文献講義	4通	○	4					○	4	5		1			1		
	特別研究	4通	○	10					○	4	5		1			1		
小計(7科目)				14	6	0				4	5	0	1	0		2		—
資力養成 科目	博物館実習	3~4通				3										1		
	小計(1科目)				0	0	3				0	0	0	0	0		1	
合計(88科目)						66	91	3			4	5	0	1	0		56	



学位又は称号	学士（理学）	学位又は学科の分野	理学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>[卒業要件]            共通教育科目から36単位以上、専門科目から88単位以上、合計124単位以上を修得するとともに、本学が定める英語の試験（TOEIC又はTOEFL）において所定の基準点を満たさなければならない。            （履修科目の登録の上限：60単位（年間））</p> <p>I 共通教育科目            必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上を含め、36単位以上を修得する。</p> <p>（必修科目28単位 内訳）            ・教養コア系列9単位            ・一般教養系列（人文教養領域）3単位            ・一般教養系列（社会教養領域）3単位            ・一般教養系列（学際的教養領域）7単位            ・専門基礎系列（理系基礎分野）6単位</p> <p>（選択必修科目8単位以上 内訳）            ・英語系列から6単位            ・専門基礎系列（理系基礎分野）の必修科目以外から2単位</p> <p>II 専門科目            必修科目38単位及び選択必修科目（※1及び※2）20単位以上を修得し、化学科の専門科目の中から76単位以上を含め、本学部の専門科目の中から88単位以上を修得する。</p> <p>1 選択必修科目については、理学部共通基礎科目（※1）から4単位以上、理学部共通基礎科目以外の選択必修科目（※2）から16単位以上を修得すること。            2 「専門英語1」及び「専門英語2」は、いずれか1科目しか履修できない。            3 「データサイエンス技術Ⅰ」及び「データサイエンス技術Ⅱ」は、自学科開設の授業科目しか履修できない。            4 「学外実習Ⅰb」の単位を修得した者は、「学外実習Ⅱ」を履修できない。            5 「化学基礎実験」及び他学科開設の「生物物理化学」の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。            6 以下の両学科の授業科目は、いずれか一方の学科に限定した上で履修しなければならない。            数理科学科：「データサイエンス応用」、「数理データサイエンス技術演習」、            「数理データサイエンス発展」、「応用・情報数理展開Ⅰ」、            「応用・情報数理展開Ⅱ」            物理・情報科学科：「プログラミング言語Ⅰ」、「プログラミング言語Ⅱ」、            「グラフ理論」、「数値解析」            7 「特殊講義」の講義題目は、その都度これを定め、講義題目が異なるものは別単位として認定する。            8 他学部及び放送大学の授業科目は、別に定めるところにより履修することができ、卒業に必要な単位に含まれることがある。</p>		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業の標準時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

連係協力学部(理学部 生物学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員			
共通教育科目	教養コア	基礎セミナー	1前		2			○			4	4		3				オムニバス
		データ科学と社会 I	1前		1			○			1	1						オムニバス
		データ科学と社会 II	1前		1			○						1				オムニバス
		知的財産入門	1前		1			○										1
		運動健康科学	1後		1			○										1
		山口と世界	1後		1			○										1
		知の広場	1後		1			○										1
		キャリア教育	3前		1			○										1
	小計(8科目)				9	0	0				4	4	0	3	0	9		—
	英語	英語 I a	1前			2			○									1
		英語 II a	1前			2			○									1
		英語 I b	1後			2			○									1
		英語 II b	1後			2			○									1
		英語会話 I a	1前			1			○									1
		英語会話 II a	1前			1			○									1
		英語会話 I b	1後			1			○									1
		英語会話 II b	1後			1			○									1
	小計(8科目)				0	12	0				0	0	0	0	0	2		—
	人文教養	哲学	1後			1			○									1
		歴史学	1後			1			○									1
		社会学	1前			1			○									1
	小計(3科目)				3	0	0				0	0	0	0	0	3		—
	社会教養	経済と法1	1前			1			○									1
		経済と法2	1前			1			○									1
		経済と法3	1前			1			○									1
	小計(3科目)				3	0	0				0	0	0	0	0	3		—
	学際的教養	人間の発達と育成1	1前			1			○									1
人間の発達と育成2		1前			1			○									1	
文化の継承と創造1		1後			1			○									1	
文化の継承と創造2		1後			1			○									1	
社会と医療		1後			1			○									1	
環境と人間		1前			1			○									1	
食と生命		1後			1			○									1	
小計(7科目)				7	0	0				0	0	0	0	0	6		—	
専門基礎	理学基礎	1前			2			○									1	
	物理学実験 A	1前				2											1	
	化学実験 A	1後				2											3	
	生物学実験	1前			2						4		3				共同	
小計(4科目)				4	4	0				0	4	0	3	0	5		—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
専門科目	生物学セミナー	1後	○	2			○			4	4		3			オムニバス
	基礎生物学Ⅰ	1後	○	2			○			1						
	基礎生物学Ⅱ	1後	○	2			○			1						
	細胞生物学	2前	○	2			○			2	3					オムニバス
	生物科学	3前	○	2			○			4	4		3			オムニバス
	生物学演習Ⅰ	2後	○	2				○		1	1				1	
	生物学演習Ⅱ	3前	○	2				○		1	2					
	生物学演習Ⅲ	3後	○	2				○		4	4		3			
	生物学実験Ⅰ	2後	○	6					○	1	2		3			オムニバス
	生物学実験Ⅱ	3前	○	6					○	3	2					オムニバス
	生物学実験Ⅲ	3後	○	4					○	4	4		3			
	生物化学	2前			2			○		1						※2
	分子生物学	2前			2			○			1					※2
	分子遺伝学	2前			2			○		1						※2
	遺伝子工学	2前			2			○			1					※2
	植物生理学	2前			2			○			1					※2
	生物物理学	2後			2			○		1						※2
	動物生理学	2後			2			○		1						※2
	発生生物学	2後			2			○			1					※2
	植物科学	2後			2			○		1						※2
	動物生態学	3前			2			○			1					※2
	進化生物学	3前			2			○		1						※2
	昆虫生理学	3前			2			○		1						※2
	時間生物学	3前			2			○						1		※2
	植物分子生理学	3前			2			○			1					※2
	力学Ⅰ	1前			3			○							2	
	電磁気学Ⅰ	1後			3			○							1	
	熱力学	2後			2			○							1	
	有機化学Ⅰ	2前			2			○							1	
	無機化学Ⅰ	2後			2			○							1	
	生物物理化学	2後			2			○							1	
	地球科学入門Ⅰ	1前			2			○							2	オムニバス
	地球科学入門Ⅱ	1前			2			○							3	オムニバス
	専門英語Ⅰ	2・3・4前後			2			○							1	
	専門英語Ⅱ	2・3・4前後			2			○							1	
	特殊講義Ⅰ	2・3・4前後			1			○							2	
	特殊講義Ⅱ	2・3・4前後			2			○			1					
	物理学基礎実験	3・4後			1				○						2	共同
	化学基礎実験	3・4前			1				○						2	共同
	地学基礎実験	3・4前			1				○						2	オムニバス
	特別実験	2・3通			1				○		1					
小計(41科目)				32	57	0				4	4	0	3	0	23	—
理学部 基礎科目 共通	物理学概論	2後			2			○							1	※1
	化学概論	1前			2			○							1	※1
	地学概論	2前			2			○							2	※1
小計(3科目)				0	6	0				0	0	0	0	0	4	—
データサイエンス 教育科目	データサイエンス技術Ⅰ	2前①	○	1				○								
	データサイエンス技術Ⅱ	2前	○	1				○			1				1	
	生物データサイエンス技術演習	2後	○	2					○		1					
	細胞解析学	2前			2			○		1						※2
	定量生物学	2後			2			○		1						※2
	バイオ数理技術	3前①			1			○				1			2	オムニバス
小計(7科目)	—			4	6	0			1	2	0	1	0	4	—	

専門科目	学外実習Ia	2・3前後			1			○							1	
	学外実習Ib	2・3前後			2			○							1	
	学外実習II	3・4前後			1			○							1	
	サイエンス実習I	1・2・3・4通			1			○							1	
	サイエンス実習II	1・2・3・4通			1			○							1	
	文献講読	4通	○	4				○	4	4		3			1	
	特別研究	4通	○	10				○	4	4		3			1	
	小計(7科目)	—		14	6	0			4	4	0	3	0	2	—	
係学 科格芸 目関員	博物館実習	3～4通			3		○							1		
	小計(1科目)			0	0	3			0	0	0	0	0	1	—	
合計(94科目)			—	—	72	85	3	—	4	4	0	3	0	55		
学位又は称号		学士(理学)			学位又は学科の分野			理学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
<p>卒業要件)            共通教育科目から34単位以上、専門科目から90単位以上、合計124単位以上を修得するとともに、本学が定める英語の試験(TOEIC又はTOEFL)において所定の基準点を満たさなければならない。            (履修科目の登録の上限:60単位(年間))</p> <p>I 共通教育科目            必修科目26単位及び選択必修科目8単位以上を含め、34単位以上を修得する。</p> <p>(必修科目26単位 内訳)            ・教養コア系列9単位            ・一般教養系列(人文教養領域)3単位            ・一般教養系列(社会教養領域)3単位            ・一般教養系列(学際的教養領域)7単位            ・専門基礎系列(理系基礎分野)4単位</p> <p>(選択必修科目8単位以上 内訳)            ・英語系列から6単位            ・専門基礎系列(理系基礎分野)の必修科目以外から2単位</p> <p>II 専門科目            必修科目50単位及び選択必修科目(※1及び※2)30単位以上を含め、本学部の専門科目の中から90単位以上を修得する。</p> <p>1 選択必修科目については、理学部共通基礎科目(※1)から4単位以上、理学部共通基礎科目以外の選択必修科目(※2)から26単位以上を修得すること。            2 「専門英語1」及び「専門英語2」は、いずれか1科目しか履修できない。            3 「データサイエンス技術I」及び「データサイエンス技術II」は、自学科開設の授業科目しか履修できない。            4 「学外実習Ib」の単位を修得した者は、「学外実習II」を履修できない。            5 「生物学基礎実験」及び他学科開設の「物理化学基礎」の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。            6 以下の両学科の授業科目は、いずれか一方の学科に限定した上で履修しなければならない。            数理科学科:「データサイエンス応用」、「数理データサイエンス技術演習」、「数理データサイエンス発展」、「応用・情報数理展開I」、「応用・情報数理展開II」            物理・情報科学科:「プログラミング言語I」、「プログラミング言語II」、「グラフ理論」、「数値解析」            7 「特殊講義I」及び「特殊講義II」の講義題目は、その都度これを定め、講義題目が異なるものは別単位として認定する。            8 他学部及び放送大学の授業科目は、別に定めるところにより履修することができ、卒業に必要な単位に含まれることがある。</p>								1 学年の学期区分			2期					
								1 学期の授業期間			15週					
								1 時限の授業の標準時間			90分					

教育課程等の概要																		
連係協力学部 (理学部 地球圏システム科学科)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員		
教養コア	基礎セミナー	1前		2			○			1							オムニバス	
	データ科学と社会 I	1前		1			○					1					オムニバス	
	データ科学と社会 II	1前		1			○					1				4	オムニバス	
	知的財産入門	1前		1			○									1		
	運動健康科学	1後		1			○									1		
	山口と世界	1後		1			○									1		
	知の広場	1後		1			○									1		
	キャリア教育	3前		1			○									1		
	小計 (8科目)			9	0	0				1	0	2	0	0	0	9		—
	英語	英語 I a	1前			2		○									1	
英語 II a		1前			2		○									1		
英語 I b		1後			2		○									1		
英語 II b		1後			2		○									1		
英語会話 I a		1前			1		○									1		
英語会話 II a		1前			1		○									1		
英語会話 I b		1後			1		○									1		
英語会話 II b		1後			1		○									1		
小計 (8科目)			0	12	0				0	0	0	0	0	0	2		—	
共通教育科目	人文教養	哲学	1後		1			○								1		
		歴史学	1後		1			○								1		
		社会学	1前		1			○								1		
		小計 (3科目)			3	0	0				0	0	0	0	0	3		—
	社会教養	経済と法1	1前		1			○								1		
		経済と法2	1後		1			○								1		
		経済と法3	1後		1			○								1		
		小計 (3科目)			3	0	0				0	0	0	0	0	3		—
	自然教養	自然科学1	1後		1			○			1					2		オムニバス
		自然科学2	1後		1			○								2		オムニバス
		小計 (2科目)			2	0	0				1	0	0	0	0	4		—
	学際的教養	人間の発達と育成1	2後		1			○								1		
人間の発達と育成2		2後		1			○								1			
文化の継承と創造1		1後		1			○								1			
文化の継承と創造2		1後		1			○								1			
社会と医療		1後		1			○								1			
環境と人間		1前		1			○								1			
食と生命		1後		1			○								1			
小計 (7科目)			7	0	0				0	0	0	0	0	6		—		
専門基礎	理系基礎	数学 I	1前			2		○								1		
		数学 II	1後			2		○								1		
		地球科学 I	1前			2		○								1		
		地球科学 II	1後		2						1					1		
		物理学実験 A	1前			2										7		
		化学実験 A	1前			2				○						1		
		地球科学実験	1後			2				○	2			1		0		
		小計 (7科目)			4	10	0				2	0	0	1	0	10		共同 オムニバス

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹へ助手を除く教員		
専門科目	学科共通科目	地学概論	1前	○	2			○			2						※1※2	
		地球科学入門Ⅰ	1前	○	2			○			1						※1※2 オムニバス	
		地球科学入門Ⅱ	1前	○	2			○			2	1					※1※2 オムニバス	
		鉱物学Ⅰ	2前	○	2			○			1						※1※2	
		鉱物学Ⅱ	2後	○	2			○			1						※1※2	
		地球資源学Ⅰ	2前	○	2			○									※1※2 メディア授業	
		地球変動学Ⅰ	2前	○	2			○			1						※1※2	
		地球変動学Ⅱ	2後	○	2			○				1					※1※2	
		岩石学Ⅰ	2前	○	2			○			1						※1※2	
		岩石学Ⅱ	2後	○	2			○			1						※1※2	
		地球環境学Ⅰ	2前	○	2			○								1	※1※2	
		地学英語	3前	○	2			○			1		1				※1※2	
		地史学	3前	○	2			○				1	1				※1※2	
		先端地球科学	3前	○	2			○			4	1	3				※1※2 オムニバス	
		地球科学実験ⅠA	2前	○	2					○	1		1	1			※1※2 オムニバス	
		地球科学実験ⅠB	2前	○	2					○	2						※1※2 オムニバス	
		地球科学実験ⅡA	2後	○	2					○	2	1	1				※1※2 オムニバス	
		地球科学実験ⅡB	2後	○	2					○	2						※1※2 オムニバス	
		野外巡検	2通	○	2					○	2		2				※1※2 共同	
		地球科学演習	3後	○	3					○	1						※1※2	
		地球環境学Ⅱ	3前				2			○			1			1	オムニバス	
		情報科学概論	3前				2			○						1		
		特殊講義Ⅰ	2・3・4前後				1			○			1					
		特殊講義Ⅱ	2・3・4前後				2			○			1					
	力学Ⅰ	1前				3			○									
	電磁気学Ⅰ	2後				3			○							1		
	熱力学	2後				2			○							1		
	無機化学Ⅰ	2後				2			○							1		
	有機化学Ⅰ	2前				2			○							1		
	物理学基礎実験	3・4後				1					○					2	共同	
	化学基礎実験	3・4前				1					○					2	共同	
	生物学基礎実験	3・4後				1					○					4	オムニバス	
	専門英語1	2・3・4前後				2			○							1		
	専門英語2	2・3・4前後				2			○							1		
	小計(34科目)					41	26	0				5	1	3	1	0	19	—
	コース専門科目	地球資源学Ⅱ	3前	○		2			○			1					1	※1 オムニバス
		火山学	3前	○		2			○								1	※1
		土木地質学	3後	○		2			○			1					1	※1
		自然災害科学	3後	○		2			○			1					1	※1
		技術者倫理	2後	○		2			○			1					1	※1
		野外実習	3通	○		6					○	1	1	1	1		1	※1
		基礎土壌学	3前				2			○							1	
		生物気象環境学	3後				2			○							1	
	小計(8科目)				0	20	0					2	1	2	1	0	3	—
	理学部共通基礎科目	物理学概論	1後			2			○								1	※3
		化学概論	2前			2			○								1	※3
		生物学概論	2前			2			○								1	※3
小計(3科目)					0	6	0					0	0	0	0	0	3	—
工学部共通科目	データサイエンス技術Ⅰ	2前①	○	1				○			2		1	1			オムニバス	
	データサイエンス技術Ⅱ	2前②	○	1				○			2		1	1			オムニバス	
	地球データサイエンス技術演習	3前	○	3					○		2	1	1	1			オムニバス	
	計算機ソフトウェア及び演習	3前			2				○							1		
小計(4科目)				5	2	0					3	1	2	1	0	1	—	
課題解決型教育科目	学外実習Ⅰa	2・3前後			1					○						1		
	学外実習Ⅰb	2・3前後			2					○						1		
	学外実習Ⅱ	3・4前後			1					○						1		
	サイエンス実習Ⅰ	1・2・3・4通			1					○						1		
	サイエンス実習Ⅱ	1・2・3・4通			1					○						1		
	文献講読	4通	○	4							5	1	3	1			※1※2	
	特別研究	4通	○	10							5	1	3	1			※1※2	
小計(7科目)				14	6	0					5	1	3	1	0	1	—	
資格法科目	博物館実習	3~4通							○							1		
	小計(1科目)				0	0	3				0	0	0	0	0	1	—	
合計(97科目)		—	—	88	82	3		—			5	1	3	1	0	56		

学位又は称号	学士(理学)	学位又は学科の分野	理学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>[卒業要件] 共通教育科目から36単位以上、専門科目から88単位以上、合計124単位以上を修得する。 (履修科目の登録の上限：60単位(年間))</p> <p>I 共通教育科目 必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上を含め、36単位以上を修得する。</p> <p>(必修科目28単位 内訳) ・教養コア系列9単位 ・一般教養系列(人文教養領域)3単位 ・一般教養系列(社会教養領域)3単位 ・一般教養系列(自然教養領域)2単位 ・一般教養系列(学際的教養領域)7単位 ・専門基礎系列(理系基礎分野)4単位</p> <p>(選択必修科目8単位以上 内訳) ・英語系列から6単位 ・専門基礎系列(理系基礎分野)の必修科目以外から2単位</p> <p>II 専門科目 (地域環境科学コース) 必修科目(※1)76単位及び選択必修科目(※3)4単位以上を含め、本学部の専門科目の中から88単位以上を修得する。</p> <p>1 選択必修科目については、理学部共通基礎科目の学科共通科目(※3)から4単位以上を修得すること。 2 「専門英語1」及び「専門英語2」は、いずれか1科目しか履修できない。 3 「データサイエンス技術I」及び「データサイエンス技術II」は、自学科開設の授業科目しか履修できない。 4 「学外実習Ib」の単位を修得した者は、「学外実習II」を履修できない。 5 「地学基礎実験」及び他学科開設の「物理化学基礎」の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。 6 以下の両学科の授業科目は、いずれか一方の学科に限定した上で履修しなければならない。 数理科学科：「データサイエンス応用」、「数理データサイエンス技術演習」、 「数理データサイエンス発展」、「応用・情報数理展開I」、「応用・情報数理展開II」 物理・情報科学科：「プログラミング言語I」、「プログラミング言語II」、「グラフ理論」、「数値解析」 7 「特殊講義I」及び「特殊講義II」の講義題目は、その都度これを定め、講義題目が異なるものは別単位として認定する。 8 他学部及び放送大学の授業科目は、別に定めるところにより履修することができ、卒業に必要な単位に含まれることがある。</p> <p>III その他 本学が定める英語の試験(TOEIC又はTOEFL)における基準については別に定める。</p>		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業の標準時間	90分
<p>(環境物質科学コース) 必修科目(※2)60単位及び選択必修科目(※3)4単位以上を含め、本学部の専門科目の中から88単位以上を修得する。</p> <p>1 選択必修科目については、理学部共通基礎科目の学科共通科目(※3)から4単位以上を修得すること。 2 「専門英語1」及び「専門英語2」は、いずれか1科目しか履修できない。 3 「データサイエンス技術I」及び「データサイエンス技術II」は、自学科開設の授業科目しか履修できない。 4 「学外実習Ib」の単位を修得した者は、「学外実習II」を履修できない。 5 「地学基礎実験」及び他学科開設の「物理化学基礎」の単位は、卒業に必要な単位に含まれない。 6 以下の両学科の授業科目は、いずれか一方の学科に限定した上で履修しなければならない。 数理科学科：「データサイエンス応用」、「数理データサイエンス技術演習」、 「数理データサイエンス発展」、「応用・情報数理展開I」、「応用・情報数理展開II」 物理・情報科学科：「プログラミング言語I」、「プログラミング言語II」、「グラフ理論」、「数値解析」 7 「特殊講義I」及び「特殊講義II」の講義題目は、その都度これを定め、講義題目が異なるものは別単位として認定する。 8 他学部及び放送大学の授業科目は、別に定めるところにより履修することができ、卒業に必要な単位に含まれることがある。</p> <p>III その他 本学が定める英語の試験(TOEIC又はTOEFL)における基準については別に定める。</p>			

教育課程等の概要																
連係協力学部 (国際総合科学部国際総合科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(教助手を除く)以外の教員
基盤科目	国際総合科学総論	1前①	○	1			○			2	3	2				オムニバス
	STEAM総論	1前①	○	1			○			1	1					
	コミュニケーション総論	1前①	○	1			○			1	5	2				オムニバス
	ダイバーシティ総論	1前①	○	1			○			6	1	1				オムニバス
	アカデミック・スキル入門	1前①②	○	2				○		10	5	4				
	アカデミック・ツールとしての数学	1前①②	○	2			○			1	1	1				※演習
	データサイエンスと社会 I	1前②	○	1			○			1						
	データサイエンスと社会 II	1後③	○	1			○			1						
	ロジカル&クリティカルシンキング	1前①②	○	2			○			1	1	1				※演習
	日本語論述の理論と実践	1前②	○	1			○			1	1					※演習
	哲学思考	1前②	○	1			○			1						
	統計学入門 I	1後③	○	1			○					1				※演習
	統計学入門 II	1後④	○	1			○					1				※演習
	統計学演習 I	1後③	○	1			○					1				※演習
	統計学演習 II	1後④	○	1			○					1				※演習
	社会調査法 I (質的調査)	1後③	○	1			○			1	1					※演習
	社会調査法 II (量的調査)	1後④	○	1			○					1				※演習
	ICT演習 I	1後④	○	1			○			2						※演習
	ICT演習 II	2前①	○	1			○			2						※演習
	AI・ビッグデータ系科目	3後③	○	2			○				1					※演習
	科学技術史	1後③	○	1			○			1						
	科学技術哲学	1後④	○	1			○					1				
	科学技術と社会	2前①	○	1			○				1					
	食と生命	1前②	○	1			○								1	
	社会と医療	1前①	○	1			○								7	メディア・オムニバス
	運動健康科学	1後③	○	1			○			1						
	物質・エネルギー・環境 I	2前①	○	1			○			1						
	物質・エネルギー・環境 II	2前②	○	1			○			1						
	バイオテクノロジー	2前①	○	1			○			1						
	生物多様性	2前②	○	1			○			1						
	デザイン概論	1後③④	○	2			○				1	2				オムニバス
	デザイン演習	2前①②	○		2		○				1	2				オムニバス
	知的財産入門	1前①	○	1			○				1					
	知的財産法	2前②	○	1			○				1					
	グローバル・ヒストリー概論	1前①	○	1			○			1		1				
	法学概論	1前①	○	1			○					1				
	文化人類学概論	2前①	○	1			○			1						
	経済学概論	1後④	○	1			○			1						
	宗教学概論	2前②	○	1			○				1					
	社会学概論	1後③	○	1			○				1					
	言語学概論	2前④	○	1			○			1						
	経営学概論	2前②	○	1			○				1					
	表象文化論概論	2前①	○	1			○			1						
	文学概論	1前③	○	1			○				1					
小計 (44科目)				48	2	0				10	10	8	0	0	8	
展開科目	科学技術論演習 I	2後③			2			○		2	1	1				
	科学技術論演習 II	2後④			2			○		2		2				
	科学技術論演習 III	3前①			2			○		1	1	1			1	
	科学技術論演習 IV	3前②			2			○			1					
	サービスデザイン	3後③			2			○			1					※演習
	インクルーシブデザイン	3後④			2			○				1				※演習
	ビジュアルコミュニケーションデザイン	3後④			2			○				1				※演習
	著作権法 I	3前			1			○			1					
	特許法	3前			1			○							1	
	種苗法	3前			1			○							1	
	技術経営と知的財産	3前			1			○							1	
	農業と知的財産	2後			1			○							1	
	情報法と知的財産	2後			1			○							1	
	商標法	2後			1			○							1	
	標準化と知的財産	2後			1			○							2	
	意匠法	2後			1			○							1	
	不正競争防止法	2後			1			○							1	
	知的財産管理論	2後			1			○							1	
	著作権法 II	2後			1			○							1	
	文化社会論演習 I	2後③			2			○		2	1	2				
文化社会論演習 II	2後④			2			○		5							
文化社会論演習 III	3前①			2			○		1	1						
文化社会論演習 IV	3前②			2			○		4	1						
小計 (23科目)				0	34	0				10	6	7	0	0	5	





学位又は称号	学士(学術)	学位又は学科の分野	学際領域
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>[卒業要件] 以下の必修科目、選択科目の条件を満たし124単位以上を修得する。 (履修科目の登録の上限：28単位(1年次～3年次各学期)、4年次制限なし)</p> <p>1 基盤科目 48単位必修 2 展開科目 8単位選択必修(内訳は下記のとおり)</p> <p>(1) 下記の科目から4単位以上修得すること。 科学技術論演習Ⅰ, 科学技術論演習Ⅱ, 科学技術論演習Ⅲ, 科学技術論演習Ⅳ (2) 下記の科目から4単位以上修得すること。 文化社会論演習Ⅰ, 文化社会論演習Ⅱ, 文化社会論演習Ⅲ, 文化社会論演習Ⅳ 3 コミュニケーション科目 3単位必修 9単位選択必修(内訳は下記のとおり)</p> <p>(1) 下記の科目のうち, Elementary, Pre-Intermediate, いずれかのレベルから4単位以上修得すること。 (Elementaryレベル) Elementary English Speaking, Elementary English Listening, Elementary English Reading, Elementary English Writing, (Pre-Intermediateレベル) Pre-Intermediate English Speaking, Pre-Intermediate English Listening, Pre-Intermediate English Writing, Pre-Intermediate English Reading (2) 下記の科目から4単位以上修得すること。 Intermediate English Speaking, Intermediate English Listening, Intermediate English Reading, Intermediate English Writing, Upper-Intermediate English Speaking, Upper-Intermediate English Listening, Upper-Intermediate English Reading, Upper-Intermediate English Writing, English Academic Writing I, English Academic Writing II, English Academic Reading, English Presentation, English in Culture and Society I, English in Culture and Society II, English for Design and Technology I, English for Design and Technology II, Research English, Business English (3) 下記の科目から1単位以上修得すること。 中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ, 中国語Ⅲ, 韓国語Ⅰ, 韓国語Ⅱ, 韓国語Ⅲ 4 キャリア・デザイン科目 3単位必修 5 課題解決科目 13単位必修</p>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分

授 業 科 目 の 概 要					
(ひと・まち未来共創学環)					
区科 分目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教養 コア	基礎セミナー	<p>&lt;概要&gt; この授業では、高等学校から大学への円滑な移行を図るため、大学での学修や生活に必要なスキルを学ぶとともに、自ら考え、判断・表現・行動・発言する基礎的な能力を身に付けます。 具体的には、まず、ひと・まち未来共創学環の理念や養成する人材像を理解したうえで、履修モデルなどを参考に学生が自身の興味・関心に基づいて履修計画を立てる。また、本学環の特徴である分野横断・文理融合的な学び(STEAM)を理解するために、多様な分野を専門とする教員が自身の専門分野について本学環の教育課程の観点から解説する。さらにロジカル&amp;クリティカルシンキングのスキルを学修し、その成果をレポートやプレゼンテーションの形で表現する方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 北西 第1回 オリエンテーション ひと・まち未来共創学環の理念や養成する人材像の説明</li> <li>・1 北西 第2回 履修モデルを参考に4年間の履修計画を立てる</li> <li>・7 春日 第3回 ひと・まち未来共創学環における分野横断的な学び①心理学</li> <li>・8 春日 第4回 ひと・まち未来共創学環における分野横断的な学び②社会科学</li> <li>・4 野村 第5回 ひと・まち未来共創学環における分野横断的な学び③情報学</li> <li>・1 北西 第6回 ロジカル&amp;クリティカルシンキングを学ぶ①</li> <li>・1 北西 第7回 ロジカル&amp;クリティカルシンキングを学ぶ②</li> <li>・1 北西 第8～11回 レポートの書き方</li> <li>・1 北西 第12～15回 プレゼンテーションのやり方</li> </ul> <p>&lt;目標&gt; ひと・まち未来共創学環の教育課程を理解したうえで、履修計画を立てる。大学での学修で必要となる基礎的なスキル(ロジカル&amp;クリティカルシンキングやレポート作成、プレゼンテーション能力など)を身に付ける。</p>	オムニバス方式	
		データ科学と社会Ⅰ		<p>&lt;概要&gt; 現代ではICTを用いた様々なサービスが生み出され、「超スマート社会」が現実になりつつある。この礎は、広範囲かつ目的に整合したデータの取得と、これらのデータをもとにした問題解決を行う科学的な方法論、すなわちデータサイエンスにある。 この授業では、社会の発展のためにデータサイエンスを学ぶ意義を理解するとともに、その基礎となるデータリテラシー(データを的確に理解し、解釈し、分析する能力)を身に付けることを目標とする。</p> <p>&lt;目標&gt; ・データサイエンスの概要とそれを学ぶ意義を理解する。 ・データサイエンスの基礎となるデータリテラシーを身に付ける。 ・大学における学習に必要な基本的なツール(ネットワーク、パソコン、各種のソフトウェア(文書作成、表計算、プレゼンテーションのためのソフトウェアを含む))の使い方を習得する。 ・身近な情報源であるネットワーク(学内LAN、インターネット)や図書館による情報検索サービスの利用方法を習得する。</p>	
		データ科学と社会Ⅱ		<p>&lt;概要&gt; この講義では、データサイエンスについての理解を深めるため、数理・情報系の研究者によるデータから新しい知識や事実を得る方法論の解説、情報系企業の技術者やマネージャーによる事業へのデータサイエンス活用事例の紹介、学生自身の専攻分野を専門とする教員によるデータに基づく研究事例の解説を行う。さらに、情報セキュリティ、情報倫理や法規など、超スマート社会に適用するために必要な事項を説明する。</p> <p>&lt;目標&gt; ・データサイエンスが社会の発展に役立つこと認識し、その基本的な原理を知る。 ・情報セキュリティや情報倫理、法規を学ぶ重要性を知り、超スマート社会に適用するために必要な作法を会得する。</p>	
		知的財産入門		<p>&lt;概要&gt; 知的財産は権利の獲得、保護、活用の各局面で無体物としての特性に応じた権利者側のコントロールが必要になります。また、知的財産の受け手側も、何処に知的財産が存在しどこまで利用できるのかという適切な判断が必要とされています。本講義では、受講者が知的財産の全体概要を理解するとともに、レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマに概念の理解や初歩的な知的財産対応力の形成を図るものとします。 企業で情報機器・システム開発経験を持ち、国際特許を含む多数の登録特許の発明者である教員が、知的財産を活用した企業戦略の考え方について講義します。</p> <p>&lt;目標&gt; 知的財産についての全体概要と科学技術の役割を理解し、将来あるべき姿について多角的な視点から考察する力を養う。</p>	
		運動健康科学		<p>&lt;概要&gt; この授業では、生活習慣病(成人病)や要介護に影響を及ぼす生活習慣の中で、主に身体活動(運動)を取り上げ、生活習慣病や要介護と身体活動(運動)との関わりや生活習慣病や介護予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)の具体的な実践方法、留意点について解説する。また、健康の維持増進のための身体活動(運動)の具体的な実践方法を身につける。さらに、健康の維持増進のために運動を行う際の留意点についての知識を身につける。</p> <p>&lt;目標&gt; 生活習慣病や介護予防のための身体活動(運動)の意義、重要性について理解する。また、生活習慣病、介護予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)の具体的な実践方法を身につける。また、生活習慣病や介護予防を中心とした健康の維持増進のための身体活動(運動)の具体的な実践方法を身につける。さらに、健康の維持増進のために運動を行う際の留意点についての知識を身につける。</p>	
		山口と世界		<p>&lt;概要&gt; 本授業はSTEAM教育の最初の段階として、前半は山口について大きく理系と文系の視点からそれぞれの所属の学部に合わせて情報を収集する。後半はいろんな専門分野にまたがってグループを再編成し、そのグループで山口の自然と文化・社会の両方を活かした観光プランを作成する。授業ではグループでの情報収集、討論、まとめ、発表に重点を置く。</p> <p>&lt;目標&gt; 山口県の文化・社会、自然など地域の特色を知り、地域社会に貢献する能力や態度を身につけるとともに、それらを将来実際に地域や国際的環境で活かす力を養う。</p>	
		知の広場		<p>&lt;概要&gt; 大学での学問、社会、地域のかかわり、グローバルマインドを育むことを通して、社会での働き方のほか、大学生活を有意義に過ごすための考え方や方法論を学ぶ。また、本学の学生が学内外の講師の職業・学問分野の概要を知ることにより、本学で学ぶ意義を理解し、本学の学生としての誇りと自覚を培う。この授業を契機として、自身の課題を主体的に発見し、解決する姿勢を培う。また卒業までに達成すべき自らの目的、目標を立てるとともに、大学生活の中で、一つでも多くのこと発見し、はぐくみ、かたちにすることが望まれる。</p> <p>&lt;目標&gt; 自己の在り方・生き方を考え、卒業後に社会的・職業的自立を図るために既も含めた必要な基礎的な知識や態度を身につけるとともに、学内外の講師が語るそれぞれの専門領域の社会的立場づけや講師の人間としての生き方を参考に、これからの大学生活の在り方を含めた自らのキャリアデザインを考える。</p>	
		キャリア教育		<p>&lt;概要&gt; キャリアを学ぶことにより、将来への希望を見出すとともに、学業への意欲を高めることを目的とする。卒業後の進路を意識し、就職活動の準備に役立つ内容を含む。</p> <p>&lt;目標&gt; 自分のキャリアを考えることの重要性を理解し、その方法論を習得する 働く前に知っておくべき経済・社会・企業に関する基礎知識を習得する 社会人基礎力の重要性を理解し、高めるための方法を学び、実践への意欲を高める キャリア意識を高め、学業ならびに就職活動への意欲を増す</p>	
英語	英語Ⅰa		<p>&lt;概要&gt; この授業では、英語の基礎的なリーディング能力とライティング能力を身につけます。</p> <p>&lt;目標&gt; ・生活、趣味、スポーツなどの日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。 ・聞いたり読んだりした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを書くことができる</p>		
	英語Ⅱa		<p>&lt;概要&gt; この授業では、中・上級レベルのリーディング能力とライティング能力を身につけます。</p> <p>&lt;目標&gt; ・学習を目的に書かれた新聞や雑誌の記事を1分間に150語程度以上の速さで読み、内容の要点を理解することができる。 ・馴染みのある話題、または個人的興味のある話題であれば、経験、出来事などを簡単な英語で記述したり、意見や計画に対して、説明や理由を述べることができる。</p>		

区 科 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
	英語 I b		<p>&lt;概要&gt; この授業では、英語の基礎的なリーディング能力とライティング能力を身につけます。</p> <p>&lt;目標&gt; ・生活、趣味、スポーツなどの日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。</p> <p>・聞いたり読んだりした内容（生活や文化の紹介などの説明や物語）であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを書くことができる。</p>		
	英語 II b		<p>&lt;概要&gt; この授業では、中・上級レベルのリーディング能力とライティング能力を身につけます。</p> <p>&lt;目標&gt; ・学習を目的に書かれた新聞や雑誌の記事を1分間に150語程度以上の速さで読み、内容の要点を理解することができる。</p> <p>・馴染みのある話題、または個人的興味のある話題であれば、経験、出来事などを簡単な英語で記述したり、意見や計画に対して、説明や理由を述べることができる。</p>		
	英語会話 I a		<p>&lt;概要&gt; 英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身につけます。この授業は知識より英語で実際に話し、聞いて理解する能力（スピーキング&amp;リスニング）の養成を重視します。また、より正確で流ちょうな言語使用を重視します。</p> <p>&lt;目標&gt; ・「英語会話 I」の目標に加え、以下のことができる。</p> <p>・個人的に関心のある具体的なトピックについて、会話を数分間続けることができる。</p> <p>・関係詞を用いて、多様な質問をしたり、知らない語をパラフレーズすることができる。</p> <p>・鍵となる重要な情報（When, Where, Who, What, Why, Howなど）に関し、比較的スムーズに英語を使って情報交換することができる。</p> <p>・相手の発言に対して、質問したり、コメントを述べたり、相づちなどの反応を行うことができる。</p>		
	英語会話 II a		<p>&lt;概要&gt; 英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身につけます。この授業は知識より英語で実際に話し、聞いて理解する能力（スピーキング&amp;リスニング）の養成を重視します。また、「英語会話 I」に比べ、より正確で流ちょうな言語使用を重視します。</p> <p>&lt;目標&gt; ・「英語会話 I」の目標に加え、以下のことができる。</p> <p>・個人的に関心のある具体的なトピックについて、会話を数分間続けることができる。</p> <p>・関係詞を用いて、多様な質問をしたり、知らない語をパラフレーズすることができる。</p> <p>・鍵となる重要な情報（When, Where, Who, What, Why, Howなど）に関し、比較的スムーズに英語を使って情報交換することができる。</p> <p>・相手の発言に対して、質問したり、コメントを述べたり、相づちなどの反応を行うことができる。</p>		
	英語会話 I b		<p>&lt;概要&gt; 英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身につけます。この授業は知識より英語で実際に話し、聞いて理解する能力（スピーキング&amp;リスニング）の養成を重視します。</p> <p>&lt;目標&gt; ・鍵となる重要な情報（When, Where, Who, What, Why, Howなど）に関し、簡単な英語を使って情報交換することができる。</p> <p>・簡単な英語で意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対など自分の意見を理由とともに伝えることができる。</p> <p>・文法的な誤りが多くても、提案・助言・依頼・拒絶など日常会話で必要となる基本的な言語機能表現を使うことができる。</p> <p>・予定や計画について簡単な英語で話すことができる。</p>		
	英語会話 II b		<p>&lt;概要&gt; 英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身につけます。この授業は知識より英語で実際に話し、聞いて理解する能力（スピーキング&amp;リスニング）の養成を重視します。また、「英語会話 I」に比べ、より正確で流ちょうな言語使用を重視します。</p> <p>&lt;目標&gt; ・「英語会話 I」の目標に加え、以下のことができる。</p> <p>・個人的に関心のある具体的なトピックについて、会話を数分間続けることができる。</p> <p>・関係詞を用いて、多様な質問をしたり、知らない語をパラフレーズすることができる。</p> <p>・鍵となる重要な情報（When, Where, Who, What, Why, Howなど）に関し、比較的スムーズに英語を使って情報交換することができる。</p> <p>・相手の発言に対して、質問したり、コメントを述べたり、相づちなどの反応を行うことができる。</p>		
	一般 教養	人文 教養	哲学	<p>&lt;概要&gt; 哲学とは、私たちの物の見方・考え方の「そもそも」を問う学問です。この授業では、価値や道徳に関係する哲学的な問題をいくつか取り上げ、哲学とはどのような学問か、どんな問題があるのかという点について、思想家の言葉をもとに考えてゆきます。</p> <p>&lt;目標&gt; 哲学・思想・宗教・芸術について基本的知識を身につけ、諸課題を発見・分析・考察する力を養います。</p>	
			歴史学	<p>社会と文化およびそれらと人間の関わりに関する基礎的知識を習得するとともに、多文化・異文化を積極的に理解し、地域・社会に貢献する態度を身につける。</p> <p>歴史上の諸事象がどのように説明され、どのような歴史的意義を有するかについて、時代や地域の固有性や普遍性を踏まえたうえで理解する力を養う。</p>	
			社会学	<p>&lt;概要&gt; 文化人類学は、「文化」を手がかりに人間の理解を深めようとする学問分野である。グローバル化する社会においては、「普遍的」とされる論理や価値観(universal)と民族又は地域特有の論理や価値観(local)との間で多くの問題が生じている。文化人類学的な視点、つまり文化を相対化する視点は、このような問題に取り組むにあたって重要な示唆を与えてくれる。本授業では具体的なには親子、結婚、交換、農業と食文化、死生観などを取り上げて比較することで人間の多様性と普遍性について考える。</p> <p>&lt;目標&gt; 文化相対主義的な考え方で社会を見ることができるようになる。社会は様々な要素が複雑に絡み合っていて成立していることを知る。</p>	
		社会 教養	経済と法1	<p>&lt;概要&gt; 経済学全般に関する基礎について学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; 現代社会について基礎的な知識を習得し、良識ある市民として地域・社会に貢献する態度を身につける。経済に関する基本的な知識を身につけ、現代社会の諸問題を自ら発見・分析・考察する力を養う。</p>	
			経済と法2	<p>&lt;概要&gt; 経済学全般に関する基礎について学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; 現代社会について基礎的な知識を習得し、良識ある市民として地域・社会に貢献する態度を身につける。経済に関する基本的な知識を身につけ、現代社会の諸問題を自ら発見・分析・考察する力を養う。</p>	
			経済と法3	<p>&lt;概要&gt; 観光政策、法律全般に関する基礎について学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; 現代社会について基礎的な知識を習得し、良識ある市民として地域・社会に貢献する態度を身につける。経済に関する基本的な知識を身につけ、現代社会の諸問題を自ら発見・分析・考察する力を養う。</p>	
自然 教養	自然科学1	<p>&lt;概要&gt; 自然科学は、観察や実験を通して自然に関する知識を蓄積し、それらを体系化し、自然の中にひそむ法則を明らかにしようとするものです。また、現代社会を支える技術は自然科学に基づいています。したがって、自然が関係するさまざまな問題について自分なりに判断するためには、自然科学の基礎知識や考え方を身につけておくことが不可欠です。この授業では、自然科学の中でも主に物理学、数学、地球科学の3分野の基礎知識や考え方をわかりやすく講義します。</p> <p>&lt;目標&gt; 自然科学（主として物理学、数学、地球科学）の基礎を学ぶことを通じて、論理的思考力や合理的判断力を身につけ、自らの生活や学習に活かす力を養う。</p>			
	自然科学2	<p>&lt;概要&gt; 自然科学は、観察や実験を通して自然に関する知識を蓄積し、それらを体系化し、自然の中にひそむ法則を明らかにしようとするものです。また、現代社会を支える技術は自然科学に基づいています。したがって、自然が関係するさまざまな問題について自分なりに判断するためには、自然科学の基礎知識や考え方を身につけておくことが不可欠です。この授業では、自然科学の中でも主に情報科学と化学の2分野の基礎知識や考え方をわかりやすく講義します。</p> <p>&lt;目標&gt; 自然科学（主として情報科学、化学）の基礎を学ぶことを通じて、論理的思考力や合理的判断力を身につけ、自らの生活や学習に活かす力を養う。</p>			

区 科 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考		
学 際 的 教 養	人間の発達と育成1		<p>&lt;概要&gt; 自己や人間関係について心理学のうち、特に発達心理学や臨床心理学の視点から概説する。発達心理学では、乳幼児期から成人期までの人間の生涯発達について概観する。また心の健康についてワークも行いながら学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; 人の生涯発達について理解を深め、自分の連続性や、他者との繋がりについて考える。また心の健康や適応的な人間関係の築き方について理解する。</p>			
	人間の発達と育成2		<p>&lt;概要&gt; 自己や人間関係について心理学的視点(特に臨床心理学)から概説します。人間関係では、一般的な人間関係の他、友人や家族等の親密な人間関係についても触れます。また心理的適応や、良好な人間関係につながる内容を含めます。自分や他者とのワークも用いながら学ぶことで、過去、現在、将来の自分や人間関係、自分の心の健康と繋げて理解していくことができるようにしたいと思います。特に1年前期でもありますので、皆さんが他の学生と学部をこえて交流する機会をできるだけ持ちたいと思っています。</p> <p>&lt;目標&gt; 自己理解や人間関係への理解を深める。それにより、自分らしく生きることや、他者との良好な関係とはどのようなものかについて考えることができるようになる。</p>			
	文化の継承と創造1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸問題と、その解決のための取り組みや課題などについて、情報ツールや数量的スキルなどを用いて論理的に説明する力を養う。</li> <li>・伝統の継承や変容、異文化間の交流、情報化など現代文化の動きを理解することを通して、前世代から学ぶもの、次世代に伝えるものに関して考察する力を養う。</li> </ul>			
	文化の継承と創造2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸問題と、その解決のための取り組みや課題などについて、情報ツールや数量的スキルなどを用いて論理的に説明する力を養う。</li> <li>・伝統の継承や変容、異文化間の交流、情報化など現代文化の動きを理解することを通して、前世代から学ぶもの、次世代に伝えるものに関して考察する力を養う。</li> </ul>			
	社会と医療		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸問題と、その解決のための取り組みや課題などについて、情報ツールや数量的スキルなどを用いて論理的に説明する力を養う。</li> <li>・保健・医療・福祉の観点から健康問題を総合的に捉え、その将来あるべき姿について考察する力を養う。</li> </ul>			
	環境と人間		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸問題と、その解決のための取り組みや課題などについて、情報ツールや数量的スキルなどを用いて論理的に説明する力を養う。</li> <li>・自然の中で生きる人間と環境の問題・課題を理解し、環境・エネルギーの将来あるべき姿について考察する力を養う。</li> </ul>			
	食と生命		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸問題と、その解決のための取り組みや課題などについて、情報ツールや数量的スキルなどを用いて論理的に説明する力を養う。</li> <li>・人間が生きるために必要な食資源について関心を払い、生命に関して多角的な視点から考察する力を養う。</li> </ul>			
専 門 科 目	学 際 基 礎 科 目	数 理 的 素 養	データ科学のための基礎数学	○	<p>&lt;概要&gt; データ科学の基本技術である統計解析や人工知能などを学び、活用するためには、その背景にあるモデリングなどの数学的な考え方になじんでおくことが重要である。</p> <p>この講義では、データ科学に関する知識・技能として、これからデータ科学の学習を深めていく上で、基礎(共通言語)となる数学の基礎を学ぶ。具体的には、様々な関数のおおよその性質やグラフの概念、集合の考え方や順列、組み合わせ、ベクトルや行列が表す幾何学的な意味など、数学的な概念を理解することを目的としている。</p> <p>&lt;目標&gt; ・一次不等式、連立不等式を図形的にとらえることができる。 ・2次、3次関数、分母関数、指数・対数関数など様々な関数について、おおよその性質やグラフの概形を知る。 ・ベクトルの内積・外積、行列が表す線形変換について幾何学的な意味を理解する。 ・数列や関数の極限を理解する。 ・微分と積分の関係を関数のグラフを通じて把握する。 ・集合の考え方や記号の意味を理解する。 ・順列、組み合わせの簡単な計算ができる。 ・二項分布などの離散的な確率分布を理解し、正規分布との関係を把握する。</p>	
			統計学概論	○	<p>&lt;概要&gt; データサイエンスに関する知識・技能として、データ科学を学ぶ上で基礎となる統計学の基本的な考え方や統計処理(分析・解析・推定)の方法を学ぶ。具体的には、データの種類の収集・整理の方法、統計的諸量の数学的な意味、統計的推定や検定の考え方を理解し、記述統計と推測統計、回帰モデルを、対象の性質に注意しながら学び、それらを、コンピュータ等のツールを用いて具体的にどのように、統計的な処理を行っていくかについても理解する。</p> <p>&lt;目標&gt; ・データの種類の収集・整理の方法を理解し、調査・観測の目的・対象に応じて選択できる。 ・統計的諸量の数学的な意味を理解し、統計処理において適切に活用できる。 ・統計的推定や検定の考え方を理解し、適切な方法を選択して活用できる。 ・コンピュータ等のツールを用いて基本的な統計処理を行うことができる。</p>	
			心理統計学演習(心理学統計学)	○	<p>&lt;概要&gt; 心理学は目に見えない「心」を実験や調査を通じて科学的に研究する学問である。こうした研究や調査で得られたデータの分析には統計学的分析が欠かせない。本科目では、講義だけでなく、実際に電卓やHADと呼ばれる統計分析ツールを用いて手を動かしながら心理統計の基礎について理解することを目的とする。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 心理測定の方法について基本的な知識を習得する。 2. 統計的仮説検定の考え方を理解する。 3. 実験や調査から得られたデータに基づいて客観的な知見を提供する過程について理解する。 4. 統計学的分析によって得られた結果を視覚的に表現する方法について理解する。</p>	
			データ科学のための発展数学		<p>&lt;概要&gt; データ科学の基礎的技術である統計解析や人工知能は、数学的記述に基づいてモデリングされる。本講義では、統計解析や人工知能でよく使われる数学的概念を学ぶことにより、データ科学をさらに一歩踏み込んで理解するために基礎をより深めることを目的とする。線形代数、確率論および最適化のそれぞれに関連するトピックスを中心に講義を行う。</p> <p>&lt;目標&gt; ・ベクトル空間について理解する。 ・固有値および固有ベクトルを理解する。 ・条件付き確率および周辺化確率について理解する。 ・大数の法則および中心極限定理を理解する。 ・凸関数の性質を理解する。 ・大域的最適解と局所的最適解の違いを理解する。</p>	
			統計学演習	○	<p>&lt;概要&gt; 統計学概論で取り上げられた文系以人材に必要な統計学の基礎的知識を足掛かりに、より実践的なデータに向き合いながら高度な統計処理の方法を学んでいく。具体的には、クラスター解析や主成分分析、因子分析、対応分析、テキスト解析、ネットワーク解析について、実際の統計ソフトウェアを動かしながら演習形式で学ぶ講義を行う。また、講義後半では目的とデータの種類に応じて適切な手法を選択するための演習を行う。</p> <p>&lt;目標&gt; ・様々な多変量データに対する統計処理の方法を理解する。 ・目的とデータの種類に応じて、適切な手法を選択し活用できる。 ・実際に統計ソフトウェアを動かして、応用的な統計処理を行うことができる。</p>	

区 科 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
デザイン 思考 ・ コミュニケーション	コミュニケーション概論		<p>&lt;概要&gt; 本科目ではコミュニケーションの基礎について学ぶ。バーバル/ノンバーバルコミュニケーション、対人コミュニケーション、スモールグループコミュニケーション、異文化コミュニケーション等について実例を参照しながら学習する中で、思想・文化をコミュニケーションと関連付けて理解し、多文化理解能力、コミュニケーション能力、自己省察能力、共働力の基礎知識を修得する。国内外での多様な背景を持つ人々のコミュニケーションを円滑に進めるためのコミュニケーション能力開発に対応する。本科目では各回においてコミュニケーションの基礎知識を学ぶ講義部分と、ケーススタディを用いた学んだ知識を実感する演習部分を双方実施する。</p> <p>&lt;目標&gt; 自らを含む多文化を理解し、その場に応じたコミュニケーションについての知識・理解を得る。またグループ内での自己の位置づけを見定め、多文化社会で円滑なコミュニケーションを行うための基礎を習得する。</p>	講義 12時間 演習 4時間
	デザイン思考論	○	<p>&lt;概要&gt; デザイン思考についての理解と関心を深め、新しい時代においてモノ・コト・サービスなどのプロセスや仕組みのデザインに必要な知識と技能を身につけることを目的とする。暮らしの中のデザインの意義や理念を理解させるとともに、サービスデザインやリビングラボ等の具体的な課題解決のための手法について講義を行う。柔軟な発想力と知的的好奇心を持って、地域文化やビジネスなどの諸課題に対応することができる態度を養うことを目指す。</p> <p>&lt;目標&gt; ・デザイン思考についての理解を深め、地域文化やビジネスなどの諸課題について考察するために必要な能力を身につけている。 ・デザイン思考を用いた柔軟で新しい発想から、暮らしや社会を見つめ直す態度を身につけている。</p>	
	デザイン演習		<p>&lt;概要&gt; デザイン思考は共感を起点として問題解決や新たな価値創造へとつながる思考法であり、DX（デジタル・トランスフォーメーション）における戦略形成や推進上のツールとしても有用である。本講義ではデザイン思考についてDXの文脈から焦点をあてながら、その実践的な手法を演習形式で学ぶ。また今後デザイン思考の手法をDXの様々な局面で応用していくために、DXとデザイン思考の背景にある経緯や動向、そして関連する思考法・フレームワーク等についても講義形式と演習形式で学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; ・デザイン思考の手法の考え方を理解している。 ・デザイン思考の手法を用いた議論をファシリテートできる。 ・DXとデザイン思考の背景にある経緯や動向について理解している。 ・関連する思考法（論理思考等）・フレームワークについて理解している。</p>	授業全体で 演習 20時間 講義 10時間
	カウンセリングマインド論		<p>&lt;概要&gt; 本講義では、カウンセリングの発想に基づいた他者の理解と関わり、つまり、カウンセリングマインドの基本的な理論や技法について、臨床心理学の立場から講義します。ここでいう臨床心理学は、対象者の個別性について関わりを通して深く理解するアプローチのことで、そのプロセスでは、他者の語る言葉、表情、およびそれらの背後にある対象者の思いや願いを相互作用をしながら汲み取っていきます。もちろんこのような相互作用の前提として、お互いの関係構築も重要です。この講義を通して、地域社会に生きる市民が求めていることを深く理解し、この理解に基づいて自分自身に何ができるかを考え、他者とともに問題解決にあたるための基本的な観点について、講義を踏まえてロールプレイも活用しながら体験的に学んでいきます。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. カウンセリングマインドに関わる基本的な理論や技法について説明できる。 2. 対象者との関係を構築する際に必要な関わり方を判断できる。 3. 広く人間の営みについて関心を持つことができる。 4. 他者との関わりに際して、相手の価値観を否定することなく敬意を持った配慮のある態度で接するよう努力することができる。（受容的・共感的な態度） 5. 対象者について理解したことを、適切な言葉で表現することができる。また必要な場合には、対象者の承諾も得た上で、理解したこと適切な言葉で第三者に対しても表現することができる。</p>	
	多文化共生とコミュニケーション		<p>&lt;概要&gt; 地域の課題として外国人住民を取り巻く環境を改善するために、地域住民と外国人住民が円滑なコミュニケーションをとるために必要な日本語教育や「やさしい日本語」の普及といったテーマを中心に、その実態の調査や解決方法を実践的に学ぶ授業である。また、ケーススタディを通して、多文化共生社会に必要なコミュニケーション能力について考察する。</p> <p>&lt;目標&gt; ・多文化共生社会に対応できるコミュニケーション能力を身につける。 ・地域の外国人住民の抱える問題の実態を調べ、解決方法を提案することができる。</p>	
	心理学的支援法		<p>&lt;概要&gt; 本講義では、「ひと・まち」のwell-beingを維持・促進するために必要な心理学的支援法として、代表的な心理療法やカウンセリングの基礎的知識及び技能について理解する。また、心理学的支援の方法として個人カウンセリングだけでなく、保健・医療、教育、福祉、司法・犯罪、労働・産業の各分野で必要となる訪問による支援や地域支援、心理教育等についても理解する。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について理解する。 2. 訪問による支援や地域支援について理解する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について理解する。 4. プライバシーへの配慮の必要性を理解する。 5. 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の方法を理解する。 6. 心の健康教育について理解する。</p>	
心理学 ・ 行動科学	ウェルビーイング学	○	<p>&lt;概要&gt; ウェルビーイングに関する種々の指標や考え方をともに、ウェルビーイングをどのように捉えたらよいかを概説する。そして、「ひと・まち」におけるウェルビーイング指標であるLIV指標（Livable Well-being City 指標）を例に、ウェルビーイングの評価やその評価により見出される課題の解決につなげるプロセス等について、事例なども踏まえて学ぶ。加えて、ウェルビーイングに係る学問領域についての理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) ・24 長谷和久/1回 のウェルビーイングに関する種々の指標や考え方 等 ・88 南雲岳彦/6回 ウェルビーイングの評価やその評価により見出される課題の解決につなげるプロセス 等 ・24 長谷和久・88 南雲岳彦/1回（共同） まとめ</p> <p>&lt;目標&gt; ・ウェルビーイングの捉え方について理解できる。 ・ウェルビーイング指標について理解し、活用をイメージできる。 ・ウェルビーイング指標をもとにした評価により見出される地域課題の解決につなげるプロセスを理解し、考えること、あるいは考える意欲を身につける。 ・ウェルビーイングに係る学問領域について考えることができる。</p>	オムニバス方式
	人間行動科学入門（心理学概論）	○	<p>&lt;概要&gt; 人間の心の働きを科学的な視点から概観する。特に人間の認知と行動の側面に焦点を当て、我々の生活場面における心的メカニズムを論ずる。）</p> <p>(オムニバス形式/全8回) ・12 小野史典/4回 知覚や認知の観点から論ずる。 ・13 井林洋平/4回 発達や学習の観点から論ずる。</p> <p>&lt;目標&gt; 心理学の基礎的な知識と共に、日常生活における様々な認知と行動の働きに対して科学的な観点から考察する能力を修得することが目的。 1. 心理学の成り立ちを理解する。 2. 人の心の基本的な仕組み及び働きを理解する。</p>	オムニバス方式
	行動科学概論	○	<p>&lt;概要&gt; 人間の行動は常に環境から影響を受け、また同時に環境に影響を与えています。人間の行動を科学するための情報（データ）は、人間の行動に影響を与える環境の中にも溢れているものです。本講義では、人間や動物の行動を理解し、分析するための視点として、環境の側面に焦点を当て、普段の何気ない行動の中にも注ぐことができる社会科学の視点を学びます。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 行動科学が扱う対象の範囲を学び、基礎的な視点を学ぶ 2. 行動を科学するための基礎的な知識を身につける 3. 学習者自身が、自らも取り込まれている環境行動を見つけ、分析する術を学ぶ</p>	
	社会心理学（社会・集団・家族心理学）	○	<p>&lt;概要&gt; 個人内の情報処理過程の特徴だけでなく、個人と集団、集団と集団の相互作用に関する心理学の知見を学ぶことを通じて、社会的な集団を形成して生活する私たちが、いかに他者から影響を受け、さらには他者に影響を与えているのかについて包括的に理解することを目的とする。授業の中では、社会心理学の研究領域で明らかにされた古典的・代表的な研究について紹介するだけでなく、それらの研究成果をもとにした近年の研究についても言及することを通して、学術的知識の変遷について学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 社会心理学に関連する知識・概念・方法論について理解する。 2. 「ひと・まち」における人の態度・行動や対人関係（集団）に見られる意義・行動について理解する。 3. 家族、集団、社会及び文化に影響を及ぼす人の過程について理解する。 4. 社会心理学に関連するデータ分析・活用について理解する。</p>	

区 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
経済学・経営学	知覚・認知心理学Ⅰ	○	<p>&lt;概要&gt; 本講義では、人間行動の基礎となる知覚心理学および認知心理学の分野でこれまでに報告された様々な研究知見と、その結果から導出された理論を概説する。「知覚・認知心理学Ⅰ」では、主に人間行動に関する基礎的な知覚心理学および認知心理学の知見を中心に講義を進める。</p> <p>&lt;目標&gt; 知覚心理学および認知心理学の専門知識の獲得を通して、人間がどのように世界と関わっているのかを理解し、知覚心理学および認知心理学の知見を通して日常生活に対する問題意識を持つことができる。人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について理解する。</p>	
	「産業・組織とひとづくり」の心理学 (産業・組織心理学)	○	<p>&lt;概要&gt; 働くひとの心について先行研究の知見を基礎にして広範に学ぶことを目指す。授業の中では産業領域において心理面に求められる理論的枠組み(組織行動や安全衛生)について学ぶ。また、組織の円滑な運営に不可欠となる職場環境のあり方、リーダー・フォロワー関係、ならびに消費者心理に関する知見を理解することを通して、産業組織分野における心理学的成果の応用可能性について学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 職場における問題(キャリア形成に関することを含む)に対して必要な心理に関する支援のあり方について理解する。 2. 産業・組織における人の行動の特徴について理解する。 3. 産業・組織心理学に関連するデータ分析・活用について理解する。</p>	
	経済学概論	○	<p>&lt;概要&gt; 大学生または社会人においては、経済の動きを単に知るだけでなく、なぜそのような構造になっているのか、それは良いのか悪いのかといった思考や価値判断が求められる。本授業では、日本や世界で過去または現在起きている現実の経済の動きを示しつつ、なぜそうなっているのか、それが学問的にどのように説明できるか、どうすればよいのかを議論したうえで、ミクロ経済及びマクロ経済等の経済学の基本的な考え方を学んでいく。グローバル化した現代社会で生じる諸課題に関し、具体的問題点を明確化するためのベースとなる経済学の考え方を理解することを目的とする。</p> <p>&lt;目標&gt; 社会的余剰や市場の失敗の考え方といった経済学の基本的な考え方を理解したうえで、現実の経済の構造や動きについて具体的問題点を抽出することができることを目標とする。</p>	
	経営学概論	○	<p>&lt;概要&gt; 社会・経済システムあるいは環境の中で企業がどのように活動しているのか、同時に企業は社会・経済システムや環境からどのような影響を受けているのかという経営学の基本概念を日常生活と結びつけて説明する。そのために、ここでは戦略論と組織論に焦点を当てて理論(といっても絶対的な法則があるわけではない)と事例(成功・失敗ともに)を通じて学ぶ。これにより、現実の世界で観察される企業の活動が高等学校で学ぶ政治・経済では生産活動を担うものとして位置づけられている企業像から一歩進んだものであると理解するとともに、自らが購入・利用している財やサービスがどのような仕組みで市場に提供しているのかを身近に感じてもらう。</p> <p>&lt;目標&gt; ・経営学の基本的な構成要素の一部である戦略論と組織論を理解する。 ・経営学が決して経営者や起業家のためだけではないことを理解するとともに自らのキャリア・デザインの一助にする。</p>	
	ミクロ経済学Ⅰ	○	<p>&lt;概要&gt; 経済学は非常に広く深い学問領域です。財政・金融・国際経済などの幅広い分野を含みます。ミクロ経済学はそれらすべての基礎となる経済理論ですから非常に重要な分野で、経済学を学ぶ人が最初にマスターしておくべき分野とも言えます。本講義では次の内容を取り扱います。 需要と供給、便益・限界便益、消費者余剰、便益最大化と消費者余剰最大化、生産関数・費用関数、限界費用・利潤・生産者余剰、限界収入・限界利潤、利潤最大化、生産者余剰最大化、完全競争市場・市場均衡、余剰分析・市場均衡の効率性、参入規制、物品税、補助金、数量規制、裁定取引、外部性、外部不経済、ピグー税、市場の失敗、公共財、不完全競争市場、独占企業の利潤最大化問題、独占の非効率性、独占の余剰分析、費用削減産業の価格規制など。</p> <p>&lt;目標&gt; 経済学にまつわる様々な概念を理解し、経済学的な接点法を用いて物事を論理的に理解する力を身に付ける。</p>	
	マクロ経済学Ⅰ	○	<p>&lt;概要&gt; マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的(マクロ的)視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計画されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身に付ける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を論理的に理解する。</p>	
	経営学総論	○	<p>&lt;概要&gt; 経営学の基礎となる、経営組織論、経営管理論、経営戦略論、労務管理論、経営史などについて学びます。事例を多く紹介したり、日常生活に引き寄せて説明することによって、経営学の基本概念と理論を直観的に理解できるような講義を努めます。 本講義には次の内容が含まれます。 会社制度(会社とは何か)、モチベーション理論、意思決定に関する様々な理論、リーダーシップ理論、職務デザイン、組織デザイン、競争戦略など。</p> <p>&lt;目標&gt; より専門的な講義を理解するために必要な経営学の基礎を身に付けることが目標です。</p>	
	経営組織論	○	<p>&lt;概要&gt; 民間企業・官公庁・NPO法人などの組織とは何か?どうして組織の中で人は一生懸命働いたり、また仕事をサポートしたりするのか(モチベーション)?組織の中で人はどのようにキャリアを形成していくのか(キャリア発達)?組織内のグループはどのようにして機能發揮しているのか(グループダイナミクスなど)?組織のある方向に導くリーダーシップとは何か?どのようにして機能發揮しているのか(リーダーシップ)?組織をより良く設計するにはどうしたらよいのか(組織設計論)?組織変革はどのようにして行われるのか(組織変革論)?組織はどのような構造を有しているのか(組織構造論)?などについての基本的知識を身に付け、考えさせます。</p> <p>&lt;目標&gt; 経営組織論(ミクロ組織論・マクロ組織論)の基本事項の理解を目標とします。</p>	
	経営管理論	○	<p>&lt;概要&gt; 経営戦略論、経営組織論を中心に、経済学ベースの経営学の基本を説明します。 ミクロ経済学の基本的な概念や考え方から始め、市場の理論、戦略の理論、組織の理論へと展開していきます。 本講義には次の内容が含まれます。 企業の境界、市場の定義とSCPパラダイム、寡占市場の均衡分析、業界分析、競争戦略、インセンティブとエージェンシー、戦略と組織構造など。</p> <p>&lt;目標&gt; 講義の中で紹介する概念、理論を正確に理解し、それらを通じて社会を見る目を養うことです。</p>	
	経営戦略論	○	<p>&lt;概要&gt; 経営戦略は「企業が実現したいと考える目標と、それを実現させるための道筋を、外部環境と内部資源とを関連づけて描いた、将来にわたる見取り図」(綱倉久永・新宅純二郎(2011)『経営戦略入門』日本経済新聞出版社。)と定義され、企業の持続的な発展に不可欠なものとなっている。本講義では、経営戦略に関する理論や学説(史)について体系的に学ぶとともに、経営戦略の実践についてケース・スタディを用いて具体的に理解を深めていく。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 経営戦略の基礎的な理論を理解する 2. ケース・スタディを用いて経営戦略を考察する 3. 企業行動を分析する方法を身に付ける</p>	
社会学	社会学概論	○	<p>&lt;概要&gt; 今日の日本社会は、情報化、消費社会の急激な進行、高齢化、グローバル化など、様々な局面・進歩・深度で変化している。それは、私たちの日常生活と無関係なことではない。本講義では、日常生活の身近な出来事を取りこみ、現代社会に起こっているさまざまな現象について社会学の道具立てを用いて解説する。それを通して、社会学の対象・基本的な考え方を学ぶ</p> <p>&lt;目標&gt; 社会学の基礎概念を理解する。現代社会に起こっているさまざまな現象について、社会学の道具立てを用いて思考することができる。</p>	共同

区 科 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	社会調査法Ⅰ（質的調査）	○	<p>&lt;概要&gt; 社会調査法Ⅰでは、主に観察、インタビューなどから構成される質的アプローチを用いた社会調査の視点と方法を学ぶ。質的アプローチは、ある人びとや出来事を理解するために、調査者が実際の現場で見たこと、経験したこと、聞いたことを要約・編集し、その場に居合わせなかった他の研究者や一般の人たちとシェアできるようにまとめあげる過程である。観察やインタビューの方法などについて、グループワークを通して実践的に学ぶとともに、調査にともなう倫理的な課題についても考える。また、フィールドワークに先立って、事前の情報収集のやり方と必要性についても学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; 本授業は受講者が、質的調査を実際に行えるようになること、具体的には、事前に調査対象に関する情報を収集する方法、観察、インタビューなどの調査方法を理解し実践できる、調査において発生する倫理的問題を理解し、それに配慮した調査を行えることを目的としている。</p>	
	社会調査法Ⅱ（量的調査）	○	<p>&lt;概要&gt; 社会調査における量的データの収集方法と、そのデータの分析方法を学ぶ。現場における真のニーズをつかむためには、既存のデータに加えて自らデータを収集し、分析する能力が必要となることが多い。授業ではアンケート調査票の作成、調査対象者の設定、結果の分析、調査における倫理等について学ぶ。また、分析においては統計学入門・演習で学んだ統計学的手法を用いる。</p> <p>&lt;目標&gt; ・社会調査を企画・実施し、データを収集・分析する能力を養う。 ・受講者が調査の一連のプロセスを自立して実施できるための知識・能力を身につけることを目標とする。</p>	
	コミュニティデザイン論	○	<p>&lt;概要&gt; ステークホルダーや社会関係資本・文化資本（ソーシャルキャピタル）という概念の理解を通じて、多様な人々が暮らす地域社会の関係を複眼的に捉える視点を獲得し、当事者たちに望ましいコミュニティの構成方法をデザインする知識を身につけることを目的とする。データサイエンスやデジタルなどの活用を通して具体的なコミュニティの分析を行い、実社会に応用する態度を養うことを目指す。</p> <p>&lt;目標&gt; ・新しい時代の社会構造・社会関係、人間関係やコミュニケーション、コミュニケーションの変化を見据えたコミュニティづくりやコミュニティデザインについての知識を身につけている。 ・具体的なコミュニティ分析をふまえて、知識や実践力を伸ばそうとする態度を身につけている。</p>	
地域学	地域文化論	○	<p>&lt;概要&gt; 地域文化に対する知識を身に付けることを目的とする。地域コミュニティの構成員が多様化し変容する時代に向けて、地域の文化的豊かさとその価値を発見する手法について具体的な事例を交えて紹介する講義を行い、その豊かさを歴史・文化的背景を深く読み解くことで、地域文化や芸術、生活文化などについての知識を深めるとともに、それらの価値について批判的に思考する力を身につける。さらに、創造的な発想力と知的好奇心をもって地域文化の創造に関わり、地域文化の諸課題に対応することができる態度を養うことを目指す。</p> <p>&lt;目標&gt; ・地域文化についての理解を深め、地域文化の諸課題について考察するために必要な能力を身につけている。 ・地域文化について創造的な発想力や姿勢をもって対応する態度を身につけている。</p>	
	地域学	○	<p>&lt;概要&gt; 国際的な教養や行動力を身に付けるためには「地域に出て実践的・主体的な学びを行う」ことが必要となる。フィールドワークの手法について理解し、倫理的・実践的な課題を把握した上で、実際に地域に出るための知識や技能、態度や行動力を育むことを目的とする。また、行政や企業、民間団体などの事例を取りあげ、具体的にどのような課題に対してどのような人々が、どのようなアイデアや手段を用いて解決しようとしているのかについて学ぶ。特にデータサイエンスやデジタルなどを活用して社会や暮らしの改善に向けた新たな仕組みづくりを行っている事例に着目する。</p> <p>&lt;目標&gt; ・国際的な教養や行動力の基礎力となる「地域に出て実践的な学びを行う」ための基礎的知識や、フィールドワークの基礎的スキル、データをふまえて課題を発見する力、などを身に付けている。 ・地域の特性や特色について理解し、自ら課題を抽出し、主体的に行動したり、異なる立場の人々と協働しようとする態度が身につけている。</p>	
デ ジ タ ル 技 術 ・ A I 技 術 活 用 力	情報科学概論（実習を含む。）	○	<p>&lt;概要&gt; 情報科学に関する基礎理論等について概説する。 ICT活用力を修得するために情報科学に関する基礎的な知識について概説する。</p> <p>&lt;目標&gt; 情報の基礎理論を理解できる。 コンピュータの基本構成を理解できる。 ソフトウェアの基本について理解できる。 教科情報で扱う内容と社会との関わりを理解している。 ICT活用力に関する情報科学の基礎的な知識を理解している。</p>	1回の授業で 講義 1.5時間 実習 0.5時間 授業全体で 講義22.5時間 実習7.5時間
	情報通信ネットワーク論（実習を含む。）	○	<p>&lt;概要&gt; インターネットをはじめとする情報通信ネットワークについて、その仕組み、システムの構成と各構成要素、セキュリティなどについて学び、またネットワーク構築に関わる設定や通信トラブルを解消するための調べ方の演習も行う。</p> <p>&lt;目標&gt; ①通信ネットワークの仕組みを理解できる。 ②主要サービスに用いるプロトコルを説明できる。 ③ネットワークの設計法と関係機器の設定法が分かる。 ④基本的なコマンドの活用ができる。</p>	1回の授業で 講義 1.5時間 実習 0.5時間 授業全体で 講義22.5時間 実習7.5時間
	情報処理言語Ⅰ（実習を含む。）	○	<p>&lt;概要&gt; プログラミングに必要な制御構造とデータ型について理解する。また、簡単なプログラミングの処理の流れと簡単なアルゴリズムについて理解する。これらの理解に基づき、自ら考えた課題を処理するプログラムを作成する実習を行う。プログラミング言語としてPythonを取りあげる。</p> <p>&lt;目標&gt; Pythonにおける制御構造とデータ構造を理解し、簡単な課題を解くPythonのプログラムが作成できるようになる。また、プログラムが正しく動作するか検証する方法と、誤り（バグ）があった場合に、修正する方法を考えて実際に行うことが出来るようになる。</p>	講義 52時間 実習 8時間
	DX概論	○	<p>&lt;概要&gt; DX（デジタル・トランスフォーメーション）の背景、概念、重要性などを理解し、DX推進の手法としてのデータやデジタル技術の活用方法の概要について学ぶ。また、DXの取り組み事例を知り、企業がどのようにデータやデジタル技術を活用して課題解決に取り組んでいるのか（競争力を高めようとしているのか）を学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; ・DXの背景、概念、重要性を理解する。 ・DXはデジタルツールの導入ではなく、課題解決のための取り組みであり、データやデジタル技術はそのための手段にすぎないことを理解し、説明できる。 ・課題解決においてデータやデジタル技術、各種ツールを活用する場面をイメージできる。</p>	
	人工知能概論	○	<p>&lt;概要&gt; データサイエンスに関する知識・技能として、人工知能とは何か、様々な目的に応じた機能を実現するために、どのような仕組みでデータを処理しているのか、機械による学習とは何を行うことか、またその概要や人工知能の得意なところ、苦手なところについて理解する。また人工知能が実際にどのような場で活用されているか、実現できる機能を利用事例とともに学び、人間社会に対する影響を知る。</p> <p>&lt;目標&gt; ・人工知能とは何か理解している。 ・人工知能で実現できる機能を利用例とともに説明できる。 ・人工知能が様々な機能を実現する仕組みの概要を理解している。 ・人工知能の得意なところ、苦手なところを理解している。 ・人工知能が社会にどのように活用され、新たな価値を生んでいるかを理解している。</p>	
	情報処理言語Ⅱ（実習を含む。）	○	<p>&lt;概要&gt; 情報処理言語Ⅰに引き続き、Pythonを用いたプログラミングについて学習する。</p> <p>&lt;目標&gt; ●Pythonにおけるプログラミングを理解し、それを用いたプログラムを作成できる。 ●オブジェクト指向プログラミングについて理解している。 ●簡単な画像描画プログラムが作成出来る。 ●簡単な画像処理プログラムが作成出来る。 ●ICT活用に必要なプログラミング技能について理解している。 ●プログラミング的思考（コンピュテーショナルシンキング）について理解している。</p>	1回の授業で 講義 3時間 実習 1時間 授業全体で 講義45時間 実習15時間
	人工知能演習	○	<p>&lt;概要&gt; 人工知能とは、人間のような知能を人工的に作ることを目指した研究分野である。本講義では、人工知能の基礎的な概念・理論をコンピュータ・ソフトウェアとして実装し、現実社会の問題への応用を試みる。</p> <p>&lt;目標&gt; ・これまでの実践例を参考にして、現実社会の問題に対して人工知能技術を応用する。 ・課題に応じて適切な人工知能技術を選択することにより、人工知能技術の利点・欠点・問題点について理解する。</p>	



区 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	データサイエンス概論	○	<p>&lt;概要&gt; データサイエンスは、統計学や人工知能などを礎とする情報科学的手法を駆使して、データから広い意味での科学的な知見を得るアプローチと捉えることができる。この講義では、情報科学的手法を用いてデータを解析するために必要なテクニックを養うことを目的とし、具体的な事例を通してデータサイエンスの考え方を学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ解析の手法を適切に選択するための考え方を身に付ける。</li> <li>データ解析の結果から、適切な解釈を得るための考え方を身に付ける。</li> <li>データおよびデータ解析の結果に対する信頼性を評価することの重要性を理解する。</li> </ul>	
	データサイエンス演習	○	<p>&lt;概要&gt; データサイエンス概論で取り上げたデータ解析の事例を対象に、Pythonなどによるプログラミングを通して実際にデータ解析を行うことで、データサイエンスへの理解をより確実にする。また、ひとつのデータセットに対して様々なデータ解析手法によるアプローチを試すことで、情報科学的な考え方に基づくデータ解析への理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事例を通じた演習により、データ解析の有効性とリスクを理解する。</li> <li>データの预处理や可視化の重要性を理解する。</li> <li>解析手法やデータの妥当性を吟味することの重要性を理解する。</li> </ul>	
	マルチメディア概論（実習を含む。）		<p>&lt;概要&gt; ネットコンテンツにおける基礎的な技術知識を学び、教科情報教育教材の開発を目的として動画画像、HTML、CSS等を用いたメディアコンテンツ制作の実習を行う。</p> <p>&lt;目標&gt; エドテック・エデュテイメントとしての教育教材の実際と可能性について理解し、ネットコンテンツの開発および活用能力を修得する。</p>	講義 22.5時間 実習 7.5時間
	データベース概論（実習を含む。）		<p>&lt;概要&gt; データベースの基礎理論について学習し、その後、実際に関係型データベースを用いた演習を通してデータベース操作、情報検索の手法を習得する。また、データベースの設計について学習する。</p> <p>&lt;目標&gt; データベース管理システム（DBMS）の基礎概念を理解できるようになること。 データベース操作言語SQLの文法を理解し、DBMSの基本操作ができるようになること。 データベースに関する内容を理解できるようになること。 ICT活用について、データベースに関する専門知識を身につけていること。</p>	1回の授業で 講義 1時間 実習 1時間 授業全体で 講義15時間 実習15時間
	ビジネスデータ科学		<p>&lt;概要&gt; データドリブン（データ駆動）経営について、その背景、概念、重要性などを理解し、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を構成する要素としてのデータの必要性、活用法の概要を学ぶ。また、企業のデータドリブン経営の事例を知り、企業がデータを活用してどのように課題解決に取り組み、競争力を高めようとしているのかを学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データドリブン経営の背景、概念、重要性を理解する。</li> <li>データドリブン経営の目的は、データの活用そのものではなく、データを活用して課題解決を図り、競争力を高めることであることを理解し、説明できる。</li> <li>情報セキュリティやデータバイアスなど、ビジネスにおけるデータ活用に関するリスクを認識する。</li> <li>課題解決に向けて、ビジネスにおいてデータを活用する場面をイメージできる。</li> </ul>	
	情報化社会概論（情報倫理を含む。）		<p>&lt;概要&gt; 情報化された社会とは情報の生産、流通、消費が行われるようになった社会のことです。この社会では、情報をどのように生産すれば問題が発生しないか、どのように流通させれば問題ないかなど、それぞれの場面において適切なふるまいをすることで正しく情報が取扱えるようになります。</p> <p>本講義では、正しいと判断するための知識や考え方を学び、過去に引き起こされた問題を事例として、それら問題はどこが悪いのかを考えることを通じて情報化社会で正しく行為できる能力を養います。</p> <p>倫理学の基礎的な知識を持つことで情報倫理が抱える課題についてより深い理解ができるようになりますので、授業でも関連した倫理学の解説を行う予定です。</p> <p>&lt;目標&gt; 情報を取り扱う場面において、どのように情報を取り扱うことが正しいことなのかを判断できるようになるための知識や判断力を身に付けている。倫理的な知識や技術と倫理の関係など、倫理性を中心として情報化社会を見据える力を養う。</p>	
	視覚伝達デザイン		<p>&lt;概要&gt; 情報デザインにおける造形要素と造形原理の習得を講義と作品制作によって行う。ピクトグラム、アイコン、シンボルマークを事例としてPCを活用したデジタルワークにて実制作を行いながら、AI等を活用した構成分析や評価などを支援的に用いる。</p> <p>次いでMBP階層分析法を用いてアイデア創出過程と作品評価を定量的方法によって行う。</p> <p>&lt;目標&gt; 高等学校情報科における授業展開を想定し、視覚伝達デザインの基礎である造形要素と造形原理および実践のためのデジタルワークの習得を行う。 また、さまざまな応用事例を通してデジタル画像処理による新時代に対応した視覚伝達デザインの可能性について理解を深める。</p>	
	情報職業論		<p>&lt;概要&gt; 情報社会の進展に伴い、私たちの身の回りのことは大きな変化が見られる。これからの情報社会に生きる社会人として情報社会の光と影、両面を正しく理解し、必要な知識と技術を習得する。さらに、情報社会におけるさまざまな職業に関しての知識を学ぶとともに、社会生活に必要な態度を学びます。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>情報倫理（マナー・個人情報保護）について学び、生活に応用できる。</li> <li>メディアについて正しく理解でき、説明できる。</li> <li>情報を巡る問題について、論理的・多角的に分析し解決するスキルを身につける。</li> <li>自己の考えを的確な方法を用いてプレゼンテーションできる。</li> <li>活動を通じて、他者とコミュニケーションし、よりよい意見を考えることができる。</li> </ol>	
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	心理学・行動科学		<p>&lt;概要&gt; 認知機能の発達及び感情・社会性の発達や、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について、自己と他者の関係も含めながら概説する。加えて発達障害等非常定型発達についての基礎的知識や考え方についても講義を行う。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>認知機能の発達及び感情・社会性の発達を理解する。</li> <li>自己と他者の関係のあり方と心理的発達を理解する。</li> <li>誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達を理解する。</li> <li>発達障害等非常定型発達についての基礎的知識及び考え方を理解する。</li> <li>高齢者の心理を理解する。</li> </ol>	
	臨床心理学概論		<p>&lt;概要&gt; 心理学的な支援を行う上で必要とされる臨床心理学の基礎的な知識を中心に講義を進める。最初に学問としての臨床心理学の成り立ちから、精神分析理論、東洋心療法、行動療法など代表的な理論などを紹介し、現代社会における人間関係が抱える課題解決に重要となる視座を理解する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学の成り立ちについて理解する。</li> <li>臨床心理学の代表的な理論について理解する。</li> <li>臨床心理学の視点から、現代社会が抱える人間関係について理解する。</li> </ol>	
	「次世代育成と教育」の心理学（教育・学校心理学）		<p>&lt;概要&gt; 教育現場における様々な問題やその背景について知識を習得する。加えて、教育現場における心理社会的課題やその支援について、学校内外の連携の視点も踏まえながら理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育現場において生じる問題及びその背景について理解する。</li> <li>教育現場における心理社会的課題を認識する。</li> <li>教育現場における心理社会的課題への支援について、関係機関との連携も含めて理解する。</li> <li>教育・学校心理学に関連するデータ分析・活用について理解する。</li> </ol>	
	心理学研究方法		<p>&lt;概要&gt; 心理学の理解を深めるためには、その研究方法についての理解が肝要である。心理学の諸領域の各特性に関連が深い方法、領域間で共通する方法について、「測定すること」に焦点化する形で心理学研究方法について論考する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>心理学における実証的研究法（量的研究および質的研究）の理解</li> <li>データを用いた実証的な思考方法の理解</li> <li>研究における倫理的理解</li> </ol>	

区 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	形態機能学Ⅰ（人体の構造と機能及び疾病）		<p>&lt;概要&gt; 人間の心の働きや行動の基礎となる人体の構造の理解は重要である。その人体の構造を形態と機能を結びつくと同時に、臨床的な視点から様々な疾病や障害に関する知識を習得する。さらに、人体の構造に関する知識を基にして、公認心理師が担う心理的支援を必要とするがん、難病等の疾病についての理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 人体の心身機能と身体構造について理解する。 2. 人体の様々な疾病や障害について理解する。 3. がん、難病等の心理的支援が必要な主な疾病について理解する。</p>	
	「障害と社会の多様性」の心理学 （障害者・障害児心理学）		<p>&lt;概要&gt; 現代社会での新たな生き方として、多様性ある生き方（diversity）が重視されている。その意味から理解できるように、従来からの障害の有無で生き方が決まるのではなく、障害の有無に関わらず、「その人らしさ」を重視する多様な生き方に関する基礎的知識・理解が重要になってきている。そこで、今回の講義では、身体障害、知的障害及び精神障害の基礎的概要に関する知識を習得し、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な心理的支援についての理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 障害者・障害児に関連する知識・概念について理解する。 2. 心理学の視点から、障害者・障害児が抱える社会的課題について理解する。 3. 障害者・障害児に必要な支援について理解する。 4. 障害者・障害児心理学に関連するデータ分析・活用について理解する。</p>	
	「健康と福祉」の心理学（健康・医療心理学）		<p>&lt;概要&gt; 人間の心身の健康及びwell-beingな生活を維持・促進するために重要となる健康と医療の関係について講義を進める。特に、複雑な心理社会的課題を抱える現状で生じるストレスと心身の疾病との関係について心身医学に関する基礎的知識を学び、保健医療・福祉現場で必要な心理的支援について理解を深める。さらに、近年増加している災害時等に必要となる心理的支援についても理解する。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. ストレスと心身の疾病との関係についての知識について理解する。 2. 医療現場や保健活動に関連する知識・方法論について理解する。 3. 医療現場や保健活動に必要な心理社会的課題について理解する。 4. 医療現場や保健活動や災害時等に必要となる支援について理解する。 5. 健康・医療心理学に関連するデータ分析・活用について理解する。</p>	
	「地域福祉と支援サービス」の心理学（福祉心理学）		<p>&lt;概要&gt; well-beingな生活を維持・促進するための生活基盤には、福祉の視点が重要になる。また、福祉現場では、乳幼児から高齢者までの多様な課題を抱える現状で生じる様々な問題が変化する。こうした福祉現場で生じる様々な問題に対して、心理学の視点から背景を理解し、問題解決に必要な支援について理解を深めたい。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 生涯にわたり必要な福祉心理学の基本的視点を理解する。 2. 虐待、知的・身体・精神それぞれの障害者福祉、高齢者福祉に関する基本的知識を理解する。 3. 福祉現場において生じる問題とその心理社会的背景について理解する。 4. 福祉現場における必要な心理的支援について理解する。 5. 福祉心理学に関連するデータ分析・活用について理解する。</p>	
	「安全・安心なまちづくり」の心理学 （司法・犯罪心理学）		<p>&lt;概要&gt; 人が地域やコミュニティでwell-beingな生活を維持・促進させる基盤として、「安全かつ安心なまちづくり」が重要である。今回の講義では、司法・犯罪心理学の視点を通して、「安全かつ安心なまちづくり」に必要な基礎的知識を理解する。具体的には、事件を造って少年犯罪・非行（犯罪被害を含む）や、近年増加している家事事件（家庭内DVや虐待など）の理解と、司法・犯罪に係る心理的支援について理解する。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を理解する。 2. 少年犯罪・非行及び家事事件に関わる関係機関及び法制度について理解する。 3. 司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的支援を理解する。 4. 5. 司法・犯罪心理学に関連するデータ分析・活用について理解する。</p>	
	知覚・認知心理学Ⅱ		<p>&lt;概要&gt; 本講義では、人間行動の基礎となる知覚心理学および認知心理学の分野でこれまでに報告された様々な研究知見と、その結果から導出された理論を概説する。「知覚・認知心理学Ⅱ」では、臨床心理士や公認心理師を目指す学生を対象とした専門的な内容も含める。</p> <p>&lt;目標&gt; 知覚心理学および認知心理学の専門知識の獲得を通して、人間がどのように世界と関わっているのかを理解し、知覚心理学および認知心理学の知見を通して日常生活に対する問題意識を持つことができる。人の感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害について理解する。</p>	
	感情・人格心理学		<p>&lt;概要&gt; 人間の行動を理解する心理学の基本として、今回の講義で概説する感情と人格が重要になる。感情は目に見える表面に顕在化するレベルだけでなく、目に見えない潜在的に喚起されるレベル、及びその結果生じる様々な行動特性についても理解することが重要になる。また、感情が喚起される背景にある人間個々の人格に関する基礎的知識を理解し、人格の類型論、特性論などを通して、同じ状況でも人間行動個々の行動がどうして異なるのかについて理解を深めたい。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序の基礎を理解する。 2. 感情が行動に及ぼす影響を理解する。 3. 人格の概念及び形成過程の基礎を理解する。 4. 人格の類型、特性等の理解を通して、人間行動のデータ分析・活用について理解する。</p>	
	学習・言語心理学		<p>&lt;概要&gt; 心理学における学習に関する諸理論を理解することは、心理学の理解を体系づけるために効果的である。学習理論は、心理学に関する古典的な理論であるが、現代の心理学的課題の解決のために有効であることを理解する。また、学習における言語機能について理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt; 学習に関する諸理論について理解を深めるとともに、現代の心理学的課題の解決に学習理論をどのように適用することができるかを考察する。また、学習における言語の機能や学校や社会における言語の機能について理解を深める。 1. 人の行動が変化する過程を理解する。 2. 言語の習得における機序を理解する。</p>	
	神経・生理心理学		<p>&lt;概要&gt; 人間の心理的機能（知覚、感情、記憶、動機づけ等）と行動的機能（運動など）を司る基盤となる神経系（主に脳神経系）の構造と機能、並びに生理学的反応の機序に関する知識を習得する。さらに、公認心理師に必要な支援について理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 人間の生理的機能（知覚、感情、記憶、動機づけなど）について理解する。 2. 人間の行動的機能（運動など）を司る基盤となる神経系（主に脳神経系）の構造と機能について理解する。 3. 人間の生理学的反応の機序について理解する。 4. 高次脳機能障害や認知症などの心理的支援について理解する。</p>	
	心理学実験		<p>&lt;概要&gt; 心理学の研究に必要な基本概念やデータ収集技法を含む実験の実施と論文の作成についての実習を行う。図表の作成方法および実験の報告書の書き方についても併せて指導を行う。これらの実体験を通じて、心理学における実験的研究法の手続きを学ぶ。</p> <p>心理学とは「どのような学問か。」について体験的に理解を深めるとともに、心理学研究の論文作成の基礎的能力の習得を目指す。具体的には、実験の目的に相応した独立変数の操作と従属変数の観測や測定ができること。また、実験結果について図表を用いて報告書の作成ができること。さらに、先行研究を参照しながら考察することができること等を通じて、卒業研究を書くために必要な研究スキルを身につける。</p> <p>（オムニバス方式／全30回） ・12 小野史典／15回 ミューラーリヤー錯視、心的回転 等 ・13 神林洋平／15回 社会的促進、尺度作成 等</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 実験の計画立案の理解 2. 統計に関する基礎的知識の理解</p>	オムニバス方式
	ヘルスリテラシー		<p>&lt;概要&gt; 健康は組織や個人のあるゆる活動の基盤となるものである。ヘルスリテラシーは、その健康を確保し、維持し、増進し、さらに活用するために必要な情報を読み書き応用するための基礎的能力であり、医療・保健分野や教育分野のみならず、企業の健全性や健康経営の観点から産業分野でも注目されつつある。この講義では、ヘルスリテラシーに関する基本事項について理解し、記憶し、説明し、自らの活動や他者の支援に活用できる能力を身につけてもらうことを目指す。</p> <p>&lt;目標&gt; ヘルスリテラシーと健康に関してその定義や意義を理解するとともに、それらの構成要素や評価方法などの基本事項を体系的に理解することにより、健康を確保し、維持し、増進し、活用するために必要となる情報を入力し、理解し、評価し、活用することが自らできるとともに、他者に対してヘルスリテラシーに関する支援するために必要な能力を身につける。</p>	

区 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	関係行政論		<p>&lt;概要&gt; 心理的支援をより有効かつ的確に進めるためには、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野に關係する行政機能や法制度を理解する必要がある。同時に、心理的支援を要する要支援者が理解できるように具体的に説明することが重要になる。講義では、様々な相談事例を通して、關係する行政機能や法制度について理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt; ①保健医療分野に關係する制度を理解し、説明できること。 ②福祉分野に關係する制度を理解し、説明できること。 ③教育分野に關係する制度を理解し、説明できること。 ④司法・犯罪分野に關係する制度を理解し、説明できること。 ⑤産業・労働分野に關係する制度を理解し、説明できること。</p>	
	公認心理師の職責		<p>&lt;概要&gt; 公認心理師の役割は「公認心理師法」により「国民の心の健康の保持増進に寄与する」ため、心理に関する支援を要する者の「心理状態の観察、その結果の分析」、「相談及び助言、指導その他の援助」、「関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助」、「心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供」に関する専門的知識及び技術を用いるよう定められている。したがって、公認心理師が果たすべき職責（役割や専門性、求められる資質）は重大であり、講義では各分野における職務について理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 公認心理師に求められる職責（役割、法的義務や倫理、被支援者の安全確保や情報管理、自己課題発見・解決能力、自己研鑽等）について理解する。 2. 公認心理師における各分野（保健医療・福祉・教育等）での具体的な職務について理解する。 3. 公認心理師における多職種や地域との連携について理解する。 4. 公認心理師としての生涯学習への準備について理解する。</p>	
	精神保健学（精神疾患とその治療）		<p>&lt;概要&gt; 現在社会を取り巻く様々な問題と心の健康との關係について、精神保健の視点から講義を行なう。特に、精神保健上で代表的な精神疾患に関する成因、症状、診断法、治療法（薬物の処方による心身の変化を含む）、経過について知識を深める。同時に、公認心理師に必要な本人や家族への支援と医療機関との連携について理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 精神保健の実態およびニーズを把握し、第1次、第2次、第3次予防対策を考えることができる。 2. さまざまな精神疾患について理解する。 3. さまざまな精神疾患の抱える成因、症状を理解する。 4. さまざまな精神疾患の診断、経過、検査の種類について理解する。 5. さまざまな精神疾患の治療法、心理的支援法について理解する。 6. 公認心理師と医療機関との連携について理解する。</p>	
	心理演習		<p>&lt;概要&gt; 心理的支援の実践に必要な基礎的な知識及び技能の修得を目的として、演習を行う。相互に様々な役割を演じながら、問題解決の習得を進める役割演技（ロールプレイング）と事例検討を通して、支援場面でのコミュニケーション、心理検査や心理面接、及び地域支援等の基礎的な知識及び技法を学ぶ。 講義は、オリエンテーションの後、 （オムニバス方式/全15回） ・21 田中亜矢巳/8回 主に支援場面でのコミュニケーションと心理検査を担当する。 ・14 佐竹圭介/7回 主に心理面接と事例検討を担当する。</p> <p>&lt;目標&gt; 以上の講義概要を理解のため、以下の点を目標とする。 1. 心理に関する支援を要する者等の理解、ニーズの把握及び支援計画の作成について理解する。 2. 心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて理解する。 3. 多職種連携及び地域連携について理解する。 4. 職業倫理及び法的義務について理解する。</p>	オムニバス方式
	心理研究演習		<p>&lt;概要&gt; 指導教員予定者からの定期的な指導を受けながら、1～2年次までの学修を通じて得られた知見や「卒業研究」の準備段階として、取り組みたい研究テーマの設定を念頭におき、先行研究を概観する。</p> <p>&lt;目標&gt; 各学生にとって関心ある心理学・臨床心理学の分野について、関連する著作や論文を通して、基礎的な知識や研究方法について、主体的に学習する。</p>	
	組織における健康リスクマネジメント		<p>&lt;概要&gt; 人新世たる現代社会において、人々を取り巻く環境は加速度的に変化し複雑化し、個人や組織は不確実性とストレスに絶えず晒されている。経営の本質が社会に有益な価値を生み出しつつ組織の目的を追求していくことであるなら、その不確実性を正面から扱うリスクマネジメントは、組織の経営に必要不可欠な構成要素である。 また、健康は、社会的価値であると同時に他の社会的価値を生産する活動の基盤となる重要な資源でもある。よって、健康リスクマネジメントとしての産業保健や健康経営は組織の重要な経営課題として捉えられるべきものであり、講義ではこの点に焦点をあてる。</p> <p>&lt;目標&gt; 健康の価値や意義と生産性や幸福との関係、及び組織が人々の健康に関与する積極的意義について、組織経営とリスクマネジメントの観点から理解し、関連する経営課題を見出し、解決し、社会的価値を生み出す組織活動を創造するための基礎となる知識を身につける。</p>	
	心理実習		<p>&lt;概要&gt; 本実習では、公認心理師に必要な主要領域の施設における実習を行い、①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて、②他職種連携及び地域連携について、③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について、の3点を中心に修得する。</p> <p>・オリエンテーション ・公認心理師に必要な主要領域における実習指導（事前・事後指導を含む）。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 支援を要する者へのチームアプローチに関する知識・方法論について理解する。 2. 多職種連携及び地域連携に関する知識・概念・方法論について理解する。 3. 職業倫理及び法的義務に関する知識・概念について理解する。</p>	
	異文化間心理学概論		<p>&lt;概要&gt; 異文化間における対人關係の形成および文化移行に伴う心理的反応について学ぶ。具体的には異文化接触場面における1) 気づき、2) 理解、3) 対処、について段階的に習得するための手法を実践する。</p> <p>&lt;目標&gt; ・異文化の存在と影響についての気づきを得る。 ・異文化接触場面での反応・動機を理解する。 ・異文化性に対処するための認知と行動を習得する。 ・文化一般の共通性、特定文化の特徴を知る。 ・思考の柔軟化する方法を体得する。</p>	
	心理的アセスメント		<p>&lt;概要&gt; 人間の心理状態や行動特性を客観的に分析し、心身の健康さを促進するために心理的アセスメントは重要であり、講義では次の4点を中心に学ぶ。第1に、基本的な心理的アセスメントの目的及び倫理について学ぶ。第2に、心理的アセスメントの観点及び範囲について理解する。第3に、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について、実際の心理検査を教材として体験する。第4に、適切な記録及び報告を通して、フィードバックの重要性について理解を深める。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 心理的アセスメントに関連する知識・概念について理解する。 2. 心理的アセスメントに関連する倫理や個人情報の保護について理解する。 3. 心理的アセスメントに関連する検査の進め方について理解する。 4. 心理的アセスメントに関連するデータ分析・活用について理解する。</p>	

区 分 目	区 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
社会科学系科目群	経済学	ミクロ経済学Ⅱ		<p>&lt;概要&gt; ゲーム理論を用いた、ミクロ経済学の戦略的アプローチを学びます。かつてミクロ経済学は市場の分析が中心でしたが、最近では組織や制度の分析に関心が移ってきています。組織や制度の分析では、人々の行動が相互に依存する状況を考えるため、ゲーム理論が不可欠です。この授業では、簡単な二人ゲームを主に使って、ゲーム理論の初歩を学びます。</p> <p>&lt;目標&gt; ゲーム理論と情報の経済学の基礎を身につける。ゲーム理論と情報の経済学を使って、現実の問題を分析できるようになる。</p>	
		マクロ経済学Ⅱ		<p>&lt;概要&gt; この講義では、マクロ経済学の分析ツールを使って、物価と失業に関する諸問題を理論的に分析していきます。以下のようなトピックを扱う予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総需要曲線</li> <li>・総供給曲線</li> <li>・ピグー効果(実質残高効果)</li> <li>・インフレ供給曲線</li> <li>・フィリップス曲線</li> <li>・オウケンの法則</li> <li>・インフレ期待の形成</li> <li>・インフレ需要曲線</li> </ul> <p>&lt;目標&gt; 物価と失業に関する諸問題を理論的に考えることができる。</p>	
		経済統計学Ⅰ		<p>&lt;概要&gt; 統計学とは具体的に何を明らかにするための学問であるかを解説する。講義では理論の解説は最小限にとどめ、具体的な応用例を多く解説・計算しながら、統計学的センスを養うよう努める。ジャンプ式で進む期待値金額の計算、池にいる魚の数の推定、学習効果の効果の検証など、電卓を用いて実際に計算・考察してみる。また、社会科学で用いられる社会調査(アンケート調査等)を利用する際の注意点を併せて解説する。本講義では小さいサイズのデータを用いた演習を用いたアクティブラーニング手法を用いて情報を収集したり情報を活用したりする技能を身に付け、ミクロ経済学、マクロ経済学などの基礎的な経済理論を理解し、計量的な分析によって応用する能力を持つ人材を育成する。</p> <p>&lt;目標&gt; (1) 文字式と総和記号の使い方に慣れる (2) 基準を調整して比較を正しく行うことができる (3) 相関関係と因果関係の違いを理解できる (4) 正規分布表を正しく用いることができる (5) 社会調査の結果を正しく解釈できる (6) 期待値の計算ができる (7) 標本と母集団の関係を理解する</p>	
		経済統計学Ⅱ		<p>&lt;概要&gt; 本講義のねらいは統計学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実に統計学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。また直感的な理解を優先するので、説明において厳密には不正確な場合が存在する。後半では、2変数の関係を重回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。統計学を習得するには、本来実際のデータを用いてコンピュータにより実習を重ねる必要があるが、本講義では時間的・空間的制約のためコンピュータ実習は行わない。ただし各自が自分でできるように資料を用意する予定である。本講義では小さいサイズのデータを用いた演習を用いた「アクティブラーニング手法」を用いて「情報を収集したり情報を活用したりする技能」を身に付け「ミクロ経済学、マクロ経済学などの基礎的な経済理論を理解し、計量的な分析によって応用する能力」を持つ人材を育成する。</p> <p>&lt;目標&gt; 本講義で修得する「情報を収集したり情報を活用したりする技能」とは以下のよう項目である。 (1) 統計学の基礎的な理論を修得し、統計学の見方・考え方を理解する。 (2) 統計的手法を現実の経済データに適用し、得られた結果を正しく解釈・考察できるようにする。 (3) 2変数の関係を扱うための理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。</p>	
		計量経済学		<p>&lt;概要&gt; 計量経済学では2変数以上の関係を重回帰分析によって検証するための理論をできるだけ具体例を用いて解説する。本講義のねらいは計量経済学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実に計量経済学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。後半では、重回帰分析の応用である連立方程式モデルについて学習する。現実の経済を理解するためには、様々な要因で決定される複雑な変数間の相互依存関係を分析する必要があり、その記述方法のひとつが連立方程式モデルである。実際にモデル分析をするためには、パソコンを用いる必要があるが、本講義では時間的・空間的制約のため、パソコン演習は行わない。代わりに、アクティブラーニング手法として小さいサイズのデータと電卓を用いた演習課題を繰り返し解き、「情報を収集したり情報を活用したりする技能」の習得に努める。</p> <p>&lt;目標&gt; (1) 多変数の関係を扱うための計量経済学の理論を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。 (2) 経済理論を統計学的手法で検証する方法を習得する。 (3) 様々な要因で決定される複数の変数間の相互依存関係を分析する方法を習得し、実際に応用された結果を正しく解釈・考察できるようにする。</p>	隔年
		産業連関論		<p>&lt;概要&gt; 「〇〇イベントの経済効果は〇〇億円」というニュースや記事をよく目にします。実は、これらの数値の多くは産業連関表を用いて算出されています。経済活動によって発生する財やサービスの流れを投入面と産出面から結び付けて、数值的に(金額に換算して)経済構造を把握しようとするものが産業連関表です。ある産業の経済活動によって生まれた財・サービスは、他の産業の経済活動の原材料として使用されたり、家計や政府によって消費されたり、海外へ輸出されたりします。これらの需要は、新たな生産活動や消費活動へと波及していきます。このようにして波及していく生産活動の金額の増加分を産業連関表から算出し、足し合わせていったものが生産波及効果になります。この講義では、産業連関表の見方と仕組みを説明したうえで、産業連関表から読み取れる経済活動や産業構造について学びます。さらに、産業連関表を用いて計算される経済効果(生産波及効果)の概念を学び、その算出方法を習得します。</p> <p>&lt;目標&gt; この講義の目標は、主に次の2点です。 ・産業連関表に関する専門的知識を身に付け、産業連関表を利用して経済活動や産業構造を多面的な角度から読み取れるようになること ・PC(エクセル)を用いて産業連関表を加工・分析する技能を身に付け、生産波及効果が算出できるようになること。</p>	
		経済政策総論		<p>&lt;概要&gt; 前半では政治の問題を扱います。政治は社会の構造を決めることです。その決め方は、基本的に、どのように行われるのがよいかを、政治決定の場面で、「誰が」「何のために、誰のために」「どのように」決定を行うか、問題点は何かを考えます。後半では現在の経済の構造・循環から三つの基本問題を取り上げて考えます。第一は生産活動を始める前の自然資源と、人間の生産能力についてです。まず、生産のために必要な自然資源は、人間の間でどのように分けられたらよいかを考えます。第二は生産物の分け方の問題です。現在の社会では生産物の生産は主に企業形態のもとで、企業家が労働者を雇って行われます。その時、生産物(＝販売額)は、企業家と労働者の間で、利潤と賃金という名前で分けられます。これが今、正しく分けられているのか、そもそも正しく分ける基準とは何か、この問題を考えます。第三は、公的・社会保険制度と生活保護制度の二つの制度についてです。この講義ではこうした問題を考えます。</p> <p>&lt;目標&gt; 概要に示した基本的な問題について考えることを通して、私たちの社会、特に生産・分配・消費の構造を、今後どの方向に改善していったらよいかについて、自分の見解を持てるようになること。</p>	
		金融経済論		<p>&lt;概要&gt; この講義では、初めて金融論を学ぶ学生諸君を対象にして、現実の金融現象を理解するために必要な基礎的な学力を育成することを目標としています。よって、できるかぎり「なぜこの理論を学ばなければならないのか」、あるいは、「理論がどのように現実を説明するのか」がよくわかるような解説を心がけたいと考えています。</p> <p>&lt;目標&gt; 1.貨幣の役割、利率とはなにかなど、貨幣理論の基礎を理解する 2.国民経済というマクロ的視点をも身につける 3.金融経済に関する統計データを正しく把握する力を身につける 4.我が国や世界の抱える問題点に注目し、解決への道筋を思い描けるようになる</p>	
		財政学		<p>&lt;概要&gt; 政府は税を徴収し、様々な領域で支出を行なっています。こうした政府による経済活動を財政といいます。本講義では財政の基本的な機能や論理、日本の財政制度について幅広く学びます。</p> <p>&lt;目標&gt; ・財政の基本的な機能や論理、日本の財政制度などについて理解する ・日本の財政状況を把握する ・経済社会における様々な問題に目を向け、問題の対処法について経済学的観点から議論できるようになる</p>	

区 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	公共政策論		<p>&lt;概要&gt; この講義では、「公共政策」とはなにか、公共政策における典型的な課題とはなにか、「公共政策」に対し「経済学的にアプローチする」とはどういうことか、課題の発見能力と解決能力とはなにか、といったテーマを扱う。(参考文献:伊藤隆敏(2017)『公共政策入門 ミクロ経済学的アプローチ』日本評論社)</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 「公共政策」に対する「経済学的考え方」を理解する 2. 現実に議論されている課題について、経済学的な観点で考察する</p>	
	地域経済論		<p>&lt;概要&gt; 地域における経済現象とその主要な理論・モデルについて学ぶ。経済学を基礎とし、空間という要素を取り入れてヒト、モノ、カネ、情報の動きを見ていく。 わが国は人口減少社会に入り、少子化・高齢化の問題が深刻になるなかで、地方創生による地域づくりが進められている。経済のグローバル化が叫ばれる一方で、人々の生活の基盤である地域の役割はますます重要な局面を迎えている。地域には、地域内や地域間での財・サービスやヒトの往来、さらには大都市がある一方で農村もあり、単に地域といってもさまざまな形態が生まれ、地理的特性や人口構成、産業構造などによっても異なる。 これら地域経済に関わる諸活動や地域の構造を理論的な観点から学んでいくとともに、地域に関連するデータや取り組み事例を見ながら、地域の比較や分析を行い、地域活性化や地方創生について考える。</p> <p>&lt;目標&gt; 地域の諸問題に関する理論・背景を理解するとともに、地域データに基づいて地域を分析し、地域の課題に対する考え方を修得する。 また、関心の深い地域・テーマを自ら設定し、レポートの作成を通じて、問題の所在と解決へ向けた多面的なものを見方ができるようになる。</p>	
	労働経済論		<p>&lt;概要&gt; 労働経済論、とりわけキャリア形成論を中心に講義をする。ここでキャリア形成とは(人生全体のことで上下するものではない)という主張もあるが、本講では主に企業において生涯に渉ってどのように仕事能力を高めていくのかという視点から見ていく。だが、同時に労働者の諸権利についても周知を図りたい。近年の派遣労働者を始めとする非正規雇用の問題など時事問題も取り上げる。そして、日本の雇用慣行に関して、社会通念的な議論を批判し、キャリア形成論との関連を重要視する。さらに、応用的な内容として、労働経済学の理論をやり、次いで女性労働、若年労働、老年労働、労使関係について概観していきたい。</p> <p>&lt;目標&gt; 日本の雇用慣行(終身雇用制、年功序列型賃金体系、企業別労働組合)の通念に対する批判的理解、キャリア形成(OJT、同期同時昇進、ジョブ・ローテーションによる幅広い専門性の育成)、ワークライフバランス、ワークシェアリングなどの用語と内容の理解、労働経済論の基本的な内容、即ち失業率、有効求人倍率、労働力率、M字型カーブ、限界生産力説、などの理解。さらに、人的資本理論、内部労働市場論、フィリップス曲線・オースン法則・総供給曲線の関係、UVカーブ、統計的差別の理論等の理解。</p>	隔年
	医療福祉経済論		<p>&lt;概要&gt; 日本では少子高齢社会が急速に深化するなかで、医療や介護を必要とする高齢者が急増している。一方で、伸び悩む経済成長や就業構造の変化は、医療や介護を必要とする者たちに対してどのように、そしてどれだけ支えることができるのかという問題の解を複雑にする。 本科目は、日本における医療保障・社会福祉政策が今後どう進んでいくのか、そしてどう進めばよいのかを考えるために必要となる経済および政策の基礎を学ぶものである。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 日本の医療保障・福祉政策のしくみを理解する。 2. 医療保障・福祉政策を議論するための経済の基礎を理解する。</p>	
	国際経済学		<p>&lt;概要&gt; グローバル化が進む現代世界経済において、私たちの置かれている状況は急速に変化しています。ヒト・モノ・カネのあらゆる面でのグローバル化がこれからの生き残り競争の筆頭にあげられる今日、世界ではいったい何が起きていて、私たちはどのような視点をもって事態を観察・分析すればいいのでしょうか？ 本講義では、以上のような問題意識を出発点として、まず世界経済の現状を概観します。そして、現在生じている事態を理解し、これを読み解くために必要な国際貿易や海外直接投資、外国為替など国際経済全般に関わる基本概念・理論について説明します。また、世界経済の現状とこれらの理論を照らし合わせながら、理論を批判的に検討します。さらに、現在を理解し解決の方途を探るヒントは歴史にありますので、この世界経済の現状を歴史的観点からも考察していきます。</p> <p>&lt;目標&gt; 世界経済の現状を理解し、国際経済全般にかかわる基本概念と理論を身につける。また、世界経済の現状あるいは歴史的観点から、理論を批判的に検討し、理論の有用性や問題点、限界を理解する。</p>	
	国際金融論		<p>&lt;概要&gt; 現代の国際金融問題を理解するためには、理論、制度、歴史に対するバランスのとれた理解が求められる。本講義の目的は「国民所得会計と国際収支」「外国為替市場と外国為替取引」「国際決済と国際通貨、基軸通貨」「国際通貨制度の変遷」について理解することにある。</p> <p>&lt;目標&gt; 国際金融の基礎理論と歴史・制度を学び、国際金融の過去と現在を正しく捉えられるようになる。</p>	
	経済発展論		<p>&lt;概要&gt; 「発展」とはどういう状態を指すのだろうか。経済的に豊かであれば、その国や地域は発展していると言えるだろうか。本授業では「発展」という現象を多角的にとらえながら、世界各地の多様なあり方について考える。経済的な側面のみにとらわれることなく異なる学問領域から横断的に学ぶことで、「発展」という社会現象を深く理解することを目指す。</p> <p>&lt;目標&gt; ・ 特定の方法論や伝統的な理論に引きずられることなく、「発展」を多角的に捉えられるようになること。 ・ オソドックスな発展のプロセスを遂げてきた国だけでなく、違ったあり方、考え方としての多様な「発展」を学ぶことで、建設的な批判、「問い」を投げかけられるようになること。</p>	
	観光政策概論		<p>&lt;概要&gt; わが国は久しく工業立国、科学技術立国、貿易立国という国策を標榜してきましたが、2006年未成立の観光立国推進基本法の成立により、観光振興が国策となりました。外貨獲得を急務とする発展途上国だけでなく、スペインやフランスのような先進国も観光に力点を置いている国として知られています。本講義は、観光への基礎的理解、観光政策としての政府の関与、とりわけ「豊かな国」における観光政策の意義(効果)、大衆観光だけでなく著地型観光の社会的経済的意義、および観光開発の持続可能性への理解を深めます。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 観光の概念把握 2. 観光の社会的経済的意義への理解 3. 観光政策への理解 4. 観光開発の持続可能性への認識</p>	
	観光経済学		<p>&lt;概要&gt; 観光経済学は、観光活動を科学的に分析する手法の一つです。本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学をベースとした応用経済学としての観光経済学を学んでいきます。前半ではミクロ経済学をベースとして、観光に対する需要と供給、観光産業における価格付け、観光公害などについて学んでいきます。後半ではマクロ経済学をベースとして、観光統計、経済効果分析、観光と為替レートについて学んでいきます。</p> <p>&lt;目標&gt; 観光活動を科学的に分析する手法を学ぶことで、①観光分野で起こる事象を経済学の知識を用いて説明できる。②観光に関する課題・問題点を見つけることができる。③適切な観光政策を立案できるようになることを目標とする。</p>	

区 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	観光統計学		<p>&lt;概要&gt; 観光の現状やこれからについて考える際に、観光に関するデータを使った分析が重視されています。しかし、その分析のためには、データの特徴や統計分析の方法に対する正しい理解が必要不可欠です。そこで、この講義では、観光に関するデータを使った統計分析の方法を学びます。具体的には、データ収集の方法、統計分析の方法、分析結果の公開という三つのテーマについて詳しく学ぶことで、観光データの統計分析に必要な能力を身につけることを目指します。</p> <p>&lt;目標&gt; 観光に関するデータの特徴を理解し、それらのデータを使って統計分析を行い、その分析結果を正しく判断できるようにする。</p>	
	観光地域経済論		<p>&lt;概要&gt; 観光や地域経済の状況をわくわく知るためには、データに基づく分析は必要不可欠です。近年では、データから可能な限り多くの情報を得るために、プログラミングによる効率的なデータ整形や高度な統計分析が行われるようになっていきました。この講義では、プログラミング言語の一つであるPythonを使いながら、観光や地域経済の分析で重視されているデータ整形や統計分析の方法を学んでいきます。</p> <p>&lt;目標&gt; 各種データをもとに、データ整形や高度な統計分析の方法を用いることで観光や地域経済に関する事柄を詳細に分析できる。</p>	
	環境経済学		<p>&lt;概要&gt; 現代、我々は気候変動をはじめとする様々な環境問題に直面している。本講義ではまず現実の様々な環境問題（気候変動、廃棄物、生物多様性等）の現状を解説し、その上でそれらの問題が発生する原因を経済学の観点から分析し、具体的な対策を提示していく。</p> <p>&lt;目標&gt; 本講義は受講者が環境経済学という一つの考え方を現実の環境問題に適用することを通じて、現実の問題を理論的に考察できるようにすることを目標とする。そのため現実の問題に対する知識と経済学の考え方をバランスよく、さらに双方を絶えず関連付けさせながら講義していく。</p>	
経営学	財務管理論		<p>&lt;概要&gt; 投資、資金調達、利益還元などの企業の財務行動について、テキストと就学支援システムからダウンロードできる資料に基づいて講義を行います。財務管理の基礎的な専門知識を習得後、投資決定並びに資金調達、利益還元に関する講義を行います。本講義には、次の内容が含まれます。リスクとリターン、資本コスト、現在価値、企業価値、投資決定、企業の資金調達、資本構成、利益還元など。</p> <p>&lt;目標&gt; 財務管理の基礎的な専門知識習得と、その応用ができる。</p>	
	国際経営論		<p>&lt;概要&gt; この授業では、多様な人材を活かす経営手法として最近、日本国内でも注目を集めるようになったダイバーシティ・マネジメントについて学習します。米国で誕生したダイバーシティ・マネジメントには、どのような特徴があるのか、また日本企業はこれをどのように実践しているのか、などを考察していきます。</p> <p>&lt;目標&gt; 最近、日本国内でも注目されるようになったダイバーシティ・マネジメントがなぜ誕生したのか、それまでの多様な人材管理手法とはどのような点で異なるのかを正しく理解する。上記の点を踏まえた上で、ダイバーシティ・マネジメントに対する日本国内での認識について理解する。ダイバーシティ・マネジメントの取り組みという点で、日本企業とアメリカ企業にはどのような違いや類似性があるのかを考える。ダイバーシティ・マネジメントの観点から日本企業の障害者雇用やその問題点について理解する。</p>	
	地域企業経営論		<p>&lt;概要&gt; 現代の地域企業経営には、単なる利益追求だけでなく、地域の多様なステークホルダーと協働して地域課題解決に取り組むビジネスモデルの構築が期待されている。本講義は未来のソーシャルアントレプレナー（社会企業家）育成をターゲットに、①各人によるテキストの事前精読、②ゼミ同等レベルのグループワークによる深い文献レビューとそれを背景とする論点提示、③講義参加者全員による徹底的なディスカッションを通じて、山積する地域課題解決に資する革新的な地域企業経営のあり方について共に学び考える協働学習型の講義である。</p> <p>&lt;目標&gt; 地域と企業経営を取り巻く社会経済状況のグローバルな変化を踏まえた上で、地域企業経営における組織・戦略・社会的責任・地域課題などについて理解した上で自ら問いを見出し、地域課題を解決しつつ地域や企業経営を革新する新たなビジネスモデルのあり方について考えることができる。</p>	
	中小企業経営論		<p>&lt;概要&gt; 日本において、中小企業は全企業数の99.7%と多数を占め、国の経済成長や地域発展に必要不可欠な主体である。本講義では、日本の中小企業の発展史、中小企業経営、中小企業政策について理論と実践を幅広く学ぶとともに、中小企業の魅力や可能性についてケース・スタディを用いて具体的に考察していく。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 日本の中小企業の発展史を理解する 2. 中小企業経営について考察する 3. 中小企業の実態や課題を知る</p>	
	企業論		<p>&lt;概要&gt; 現代の日本企業の現状と課題について理解する。前半では、日本企業の経済活動の現状と課題について説明する。これによって、日本企業に関する総論的な知識を得ることができる。後半では、企業を取り巻く経営環境の変化に対応した企業の動向について説明する。これによって、日本企業に関する各論的な知識を得ることができる。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 現代の日本企業の現状と課題について、説明することができる。 2. 経営環境の変化に対応した日本企業の動向について、SWOT分析の視点から、具体的に述べることができる。 3. 戦略的ファンダメンタル分析によって、日本企業の現状と課題を列挙することができる。</p>	
	多国籍企業論		<p>&lt;概要&gt; 国境を越えてビジネスを展開することを国際化といい、その中でも海外に子会社を設けて国際的にビジネスを展開している企業のことを多国籍企業という。この講義では、多国籍企業のビジネス展開について、1)その歴史の変遷（日本企業を中心に）、2)生産・販売・人事などの職別戦略、3)新興国への進出、4)その他の新潮流（クロスボーダーM&amp;Aやサービス産業における多国籍化など）の4つの側面から考察を行う。</p> <p>&lt;目標&gt; 理論や事例を通して国際ビジネスの仕組みを学習するとともに、それが私たちの社会に及ぼす影響について深く考察できる力を身につける。</p>	
	経営統計学		<p>&lt;概要&gt; はじめて統計学を学ぶ受講者を対象に、基本知識（専門用語など）を学びます。対面授業へのPCの持ち込みを推奨します。教科書は「統計学入門」を使用します。主に経済データを用いて統計学を学びます。この授業では統計学の初歩を学び、そして統計学の初歩は、経済学のみならず、心理学や医学や工学にも応用できる知識となります。本格的な統計解析にはコンピュータが必要になるので、授業にPCを持ち込んだり、自宅の自分のPCで学んだことを確認することをお勧めします。PCだけでなく、開成電車（スマートフォンの無料アプリ）の使い方も学びます。パーソナル・コンピュータを自由に使いこなせることも統計学を学ぶうえでは重要です。</p> <p>&lt;目標&gt; 統計学の知識によって、社会で起こる様々な現象に対する科学的な洞察力を養う。</p>	
	会計学 1		<p>&lt;概要&gt; 日商簿記検定1級レベルの商業簿記および会計学について学習する。具体的には、会計制度、会計基準・基準・原則、資産会計、負債会計、純資産会計、損益会計（一部）について解説を行う。</p> <p>&lt;目標&gt; 日商簿記検定1級レベルの商業簿記および会計学のうち、本講義で取り上げる範囲について、基本的な問題が解けるようになる。</p>	

区 科 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	会計学 2		<p>&lt;概要&gt; 会計原則、会計の基礎概念の把握した上で、財務諸表が企業の実態をどのように示す構造となっているのか、最近の会計制度の大幅な変更により、どのような変化が生じたのかについて考えていきたい。会計学1・2は必ず両方履修してください。昨年通り実質4単位ものです。片方だけでは評価できません。</p> <p>&lt;目標&gt; 会計の役割を理解し、利害関係者にとって有用な情報とはどのようなものを把握してもらう。会計学1・2を合わせて30回で授業を行います。</p>	
	簿記		<p>&lt;概要&gt; 簿記とは「帳簿記入」の略で、世界の様々な企業や法人が公開する「財務諸表」という、会計書類を作成するための技術であり手段です。この授業では、簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記帳の方法、報告書の作成を身につけるための講義です。 具体的には、まず日商簿記検定3級資格取得のための講義と問題演習を行います。そしてこの知識を使い、民間企業の財務諸表の基本的な見方を学びます。 日商簿記検定2級、更には、職業的資格となる公認会計士試験や税理士試験、日商簿記検定1級、国家公務員（国税専門官等）を目指す方には、とても重要な基礎学習となります。 また資格取得に止まらず、将来の就職活動で役立つ、企業の財務諸表を考察する力を養います。</p> <p>&lt;目標&gt; ① 日商簿記検定3級レベルの商業簿記の基礎的取引の仕訳を習得し、精算表をはじめ貸借対照表や損益計算書を作成できると。 ② 6月実施の日商簿記検定試験3級合格を目指す。 ③ 民間企業の財務諸表（主に貸借対照表、損益計算書）の簡単な見方を習得し、考察する力を身につける。</p>	
	流通論 I		<p>&lt;概要&gt; わが国の流通は、大きな変革期を迎えている。たとえば、中小小売業者の淘汰、卸売業者の合併、コンビニの隆盛と停滞、商店街・百貨店の衰退、ネット取引の拡大など、さまざまな変化に直面している。こうした複雑で多様な現象を理解するためには、流通に関する基礎理論の習得が不可欠である。そのため、本講義では、さまざまな企業の事例をおとじて流通の現象を概観するとともに、現実の流通を分析するための基礎理論の習得を目指す。 本講義は、流通分野では、商品自体や商品の流通・マーケティング、保険の活動に関わる諸問題を理解する能力の獲得をめざし、おもに商品の流通に関する基礎知識を提供する。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 流通論を体系的に修得する。 2. 流通現象を理論的に理解できるようになる。</p>	
	流通論 II		<p>&lt;概要&gt; 流通論は、生産と消費を繋げる重要な役割を果たしている。したがって、企業がマーケティング戦略を考える上で、生産者から消費者に至るまでのモノやサービスの流れを理解することが不可欠である。流通論IIでは、商品流通の担当者である小売業に焦点を当て、彼らが流通活動全体のなかで担う役割やマーケティング戦略などについて理解を深めることを目指す。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 流通論の基本体系を理解する。 2. 商品の企業から消費者への仕組みを理解し、流通論の概念を活用して企業の事例を分析できるようになる。</p>	
	マーケティング論		<p>&lt;概要&gt; 売りたい商品がある。しかし消費者はその商品に興味がないかもしれない、どうすればいいか。 欲望あるいは価値はどのように生成するのか。そして企業はそれらにどのように関与しまたは適応するのか。この創造的な側面がマーケティングの醍醐味のひとつである。 足元を見てみよう。部屋の床には自分のものではない家族の誰かの髪の毛が落ちていた。それを、家族の誰かが掃除を怠慢しているという意味なのか、誰かと一緒に住んでいる温もりと意味づけなのか、それによって足元に落ちている誰かの髪の毛の価値はきっと変わるはずだ。マーケティングの知識や思考法は種々の現場だけでなく、広く生活の場にも応用可能なものが多い。講義では受講生の日常的な経験や感覚に基づいて理解可能なマーケティングの専門的知識を中心に講義を行う。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. マーケティングの基本的な枠組みについて理解する。 2. マーケティングの概念について理解する。 3. 社会的な現象をマーケティングの枠組みから理解できるようになる。</p>	
	マーケティング戦略論		<p>&lt;概要&gt; マーケティング戦略をめぐる「諸問題」を理解するための「基本的な枠組み」を、解説する。 マーケティングとは、「寡占企業による流通論の管理」といえる。顧客にとって価値のある提案を創造などする諸活動」などと定義される。マーケティング戦略論では、製品政策、価格政策、プロモーション政策、流通チャネル政策（DM戦略）、また、ターゲット戦略（STP戦略）や戦略的マーケティング、インターネット時代のマーケティング戦略などを扱う。</p> <p>&lt;目標&gt; マーケティング戦略をめぐる諸問題を知り、理論的な枠組みを使って理解する。</p>	
	商品学		<p>&lt;概要&gt; 商品をめぐる「諸問題」を理解するための「基本的な枠組み」を、解説する。 流通過程において、売買取引の対象となる客体が「商品」である。商品のあり方が、「生産と消費の懸隔を埋め合わせる」という流通活動にどのような影響を与えるのかなどを明らかにすることが、商品学の重要な課題である。</p> <p>&lt;目標&gt; 商品をめぐる諸問題を知り（何が「素朴な疑問」なのかを知り）、理論的な枠組みを使って理解する（どのような「答え（仮説）」が提案されているのかを理解する）。</p>	
	商品開発論		<p>&lt;概要&gt; 商品開発は企業にとって価値創造のための中核的な活動である。とはいえ、商品開発プロセスやその手法はあまり明らかになっていないことから、体系的に講義することは少ない。そこで本講義では、マーケティング論をベースとした商品開発のプロセスとその手法を講義し、その知識を体系的に理解してもらう。 本講義は、流通分野では、商品自体や商品の流通・マーケティング、保険の活動に関わる諸問題を理解する能力の獲得をめざし、商品開発論とそれに関連するマーケティング論・流通論の知識を総合して、アクティブ・ラーニングに取り組みつつ、体系的な商品開発の理解へ誘う。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. マーケティング論をベースとした商品開発プロセスと多様な手法を体系的に理解する。 2. 商品開発担当者の置かれた状況や仕事の内容を理解し、商品開発の進捗状況に応じて、適切な考え方を活用して判断する。</p>	
	保険論 I		<p>&lt;概要&gt; 人は生きていく上で、様々な問題に直面します。その中には、病気、事故、災害など自らの努力や周囲のサポートだけでは乗り越えられないものもあります。個々人の力ではどうしようもないことが起きた場合、主として経済的に補助してもらえシステムが「保険」です。 この授業では、いざというときに人生をサポートしてくれる「保険」について基本から学びます。保険が扱う対象である「危険」とは何かということから、保険の仕組みや原理、種類、どのように発達してきたのかという歴史的視点など、初歩的な内容を習得します。</p> <p>&lt;目標&gt; 身の回りに数多くある保険は、現代社会で生きていく上で必要不可欠な経済的保障制度です。 リスク対策としての保険がなぜ必要なのか、どのような歴史的背景からどのように発展してきたのか、主要な保険の種類と特徴や問題点を理解できるようになることを目標とします。</p>	
	保険論 II		<p>&lt;概要&gt; 保険論Iの内容を学習していることを前提としています。最初にある程度保険論Iの内容の確認はしますが、基本的な事項は復習しておいてください。保険論IIでは、現代のリスクから生活を守るために欠くことができない社会保険を中心に学びます。保険だけでなく、国民生活を総合的に守るための社会保険の手法も学び、保険との比較をすることで双方の理解を深めます。その上で、海外の社会保険・社会保険および日本の保険政策の変遷も学び、海外との比較を通じて今後の日本の社会保険、保険政策のあり方についても考えていきます。</p> <p>&lt;目標&gt; 日本を中心に世界各国の現代の社会保険・社会保障の状況をふまえ、今後の日本の社会保障ならびに社会保険のあり方を考えられるくらいに知識と思考力を習得してもらえようことを目指します。そして、今後の日本がどうあるべきかを自らの力で提案できるようになってもらいたいと考えています。</p>	隔年

区 科 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	観光マーケティング論		<p>&lt;概要&gt; 本授業では観光に必要なマーケティングの知識と分析手法を習得した上で実際のケースを考えていく。先端のビジネスケースにも触れるため英語教材も使用する。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 観光マーケティングを理解する 2. 観光マーケティングに関する調査分析手法を理解する 3. 実際のビジネスケースを考える</p>	
	ヘルスツーリズム論		<p>&lt;概要&gt; 2007年6月、観光立国推進基本法が成立し、近年日本政府においても「ニュー・ツーリズム創出・流通促進事業」が進められている。そのニュー・ツーリズムの一つとして挙げられるのがヘルスツーリズムである。ヘルスツーリズム (Health Tourism) は、健康の回復、維持、増進に貢献する観光で、医学的なサポートを必要とし、世界的にも注目されているニュー・ツーリズムである。</p> <p>本授業は、地域・国民経済効果の観点からヘルスツーリズムを捉え、その歴史、研究領域、日本をはじめ各国におけるヘルスツーリズムの現状、ヘルスツーリズムによる経済効果の計測方法等の基礎知識を受講生に習得してもらい、未来に向けて、日本における持続的可能なヘルスツーリズムを推進していくことに関する課題を見出し、これから日本の経済発展を担う若者の視点から提案できることを期待する。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. ヘルスツーリズムの歴史、研究領域、国際的な現状、それによる経済波及効果の計測方法また医療経済評価の方法常用モデルの基礎知識を習得できる 2. ヘルスツーリズムの関する文献研究や観光経済学科のプロジェクト演習の実践結果も利用し、これから日本における持続的可能なヘルスツーリズムの課題を見出し、地域・経済的な観点から提案することを目指す。</p>	
	観光文化心理学		<p>&lt;概要&gt; 人間は自分の個人的な価値観に基づいて、自分の個人的な利便性を追及するために、合理的な経済活動を行っており、社会的な圧力がなければ進歩しもしような合理的な個人主義者になるという欧米的な考え方が、全ての文化経済に当てはまると思われてきた。社員はできるだけ自分の能力を発揮できる職場を求めたながら、自分の能力を雇用者に売っているというのが雇用関係の基本だと主調される。一方では、日本・中国などアジア諸国では、先述した欧米個人主義に当てはまらない経済的システムが形成されてきた。</p> <p>近頃の文化心理学という実験・社会心理学は、個人人間の独立性・価値観の独立性・合理性を欧米諸国の文化思想(神話)に過ぎないということを実証的に論じ始めた。本授業では、このような新しい社会心理学的な実験研究を紹介する。</p> <p>&lt;目標&gt; 文化心理学の最新の実験的研究や下記の理論を理解すること 1. 集団主義と個人主義がどのように定義されてきたか 2. 相互依存主義の新しい見解がどのような問題を呈しているか 3. 自己高揚の普遍性についての論争 4. アジア諸国における道徳(あるいはそのなさ) 5. 全体的・分析的思考の理論</p>	
社会学	質的調査データ解析法		<p>&lt;概要&gt; 社会調査の中の質的調査の方法について、その特徴とデータの収集・分析を中心に、社会学・文化人類学の先行研究に目を配りながら理解を深める。質的調査の方法とデータ収集のやり方、質的調査法を用いる意義と役割、テーマの設定のしかた、データの分析方法について理解する。あわせて質的調査の実施に向けて調査のプロセスを習得する。</p> <p>&lt;目標&gt; 社会調査における質的調査の特徴やデータ収集・その分析方法について理解し、質的調査の実施に向けて調査のプロセスを習得することを目的とする。</p>	
	現代社会学概論(社会調査)		<p>&lt;概要&gt; 社会学は様々な方法によって社会のすがたを明らかにしようとする学問である。そのための有効な方法の一つが社会調査である。社会調査の分野では、具体的な社会現象を客観的に把握するために様々な手法が開発され、また多くの調査研究が蓄積されている。授業では、社会調査の先行研究を紹介しながら、重層的に質的・量的社会調査の両方に目をくぼり、社会調査の実施に向けた基礎知識を習得することを目的とする。</p> <p>&lt;目標&gt; 授業では、社会調査に関する一般的な基礎知識を習得し、さまざまな調査手法について学ぶ。学生自身が社会調査の実施に向けた準備ができるようになること、また身に固りて目にする多くの調査データを正しく読み取り理解できるようにすることを目的とする。授業全体を通して、社会調査の意味と目的、調査における資料やデータの収集から分析までのプロセスに関して理解できるようになることをめざす。</p>	
	課題の発見と検証		<p>&lt;概要&gt; 社会学・社会心理学的な研究を進めるにあたって、社会調査についての知識は必須である。この授業では、自分の関心を元に研究テーマを設定し社会調査に、社会調査に資料やデータを収集し、それを分析し、研究結果として表現し自分の関心を元に研究テーマを設定し、社会調査によって資料やデータを収集し、それを分析し、研究結果として表現し自分の関心を元に整理していく具体的な方法に関して講義を行う。問題関心の精緻化、調査の企画、調査表の作成、分析前のデータ処理等を行うにあたって必要な概念や技法を理解する。</p>	
	現代社会学概論(基礎理論)		<p>&lt;概要&gt; 社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。現代社会学の礎を築いたともいえるM.ウェーバー、E.デュルケムの学説や、産業化・近代化、脱工業化と消費社会化、グローバル化と階層構造の変容(新しい貧困)といった現代産業社会の構造と変動について、詳しい資料を配付しながら説明する。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 社会学の基本概念や理論的視角を理解している。 2. 社会学の概念と方法を用いて、現代社会学の構造と変動を解明できる。 3. 現代社会が抱える諸問題に関心を向け、考察できる。</p>	
	社会心理学概論		<p>&lt;概要&gt; 社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。さらに近年では、進化心理学やネットワーク論、社会構築主義などのアプローチも、この研究領域に浸透しつつある。この講義では、「合理化」と「生きにくさ」という2つのキーワードを軸に、個人と社会の関係性を様々な次元で紐解いていく。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 社会心理学の基礎概念について学ぶ 2. 社会心理学の学説史を学ぶ 3. 社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4. 現代社会の諸問題の解決に向けて、社会心理学の応用を検討する</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (32 高橋 第1~8回担当) 第1回社会心理学入門社会的存在の多義性 第2回社会心理学の歴史 フアンズムと冷戦の産物としての社会心理学 第3回情動的な存在としての人間感情表出の多元性と普遍性 第4回傍観者効果と社会的インパクト理論傍観者効果と社会的インパクト理論 第5回「心の理論」とマキャベリの知性仮説「心の理論」とマキャベリの知性仮説 第6回純粋悪の神話道徳心のモジュール性 第7回近代化と人類の自己審判近代化と人類の自己審判 第8回中間試験中間試験 (55 森田 第9~15回担当) 第9回知識と権力知識と権力に関する社会学理論や概念を講義する。 第10回学校/医療と権力学校や医療をめぐる権力に関する社会学理論や概念を講義する。 第11回意識と医療化脱皮や逸脱者、またその医療化に関する社会学理論や概念を講義する。 第12回施設という社会施設に関する社会学理論や概念を講義する。 第13回趣味や好みと社会趣味や好み、文化に関する社会学理論や概念を講義する。 第14回社会問題の社会構築主義社会問題の社会構築主義について講義する。 第15回エスノメソドロジーエスノメソドロジーについて講義する。</p>	オムニバス方式
	民俗学・文化人類学概論		<p>&lt;概要&gt; 本講義は、文化人類学という研究方法を用いて文化や社会を比較し、事例から理論、そして理論から事例という議論の往還を通して、文化および社会を考察するものである。文化人類学とは、未知の「他者」、あるいは全く新しい現象を発見したときの「驚き」、「喜び」に動機付けられた学問である。全く異なる「他者」を理解する技法・具体的には「他者」の所有する概念と行動を「翻訳」する技法を学ぶものである。対象は論理的に言うところ、世界の多様な民族の諸活動とその文化的諸条件である。本講義の中心的な「他者」は、この「他者」を理解しようという文化人類学的視点に立って、社会・文化を比較し、自分自身の文化や慣習に基づいた思い込みや常識をいったん括弧に括って客観的に見つめ直す作業を実践することである。</p> <p>&lt;目標&gt; 本講義の目標は、全15回の講義を通して、世界の多様な民族の宗教、親族、呪術・妖術、生産、言語、儀礼、経済、政治、学説史などを紹介することにより、人間の諸活動の「普遍性」と相対性を理解することにある。この理解に基づいて、文化や社会の多様性・複雑性、そして「普遍性」を説明することができるようになることを目指す。また文化人類学の理論、人類学学説史をその社会的・文化的背景とあわせて説明できること。</p>	



区分 科目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	現代社会学特殊講義（地域福祉）		<p>&lt;概要&gt; 近年、活発化している市民的活動（NPOやボランティア活動など）について、その歴史の変遷を日本社会の都市化との関わりで理解する。さらに、さまざまな分野における市民的活動の実態を通して、市民的活動の可能性と社会的役割について考察する。</p> <p>&lt;目標&gt; 活発化している市民的活動の背景を、日本の社会変動との関わりから考察し、さまざまな社会問題の解決にむけた市民的活動の社会的役割や位置づけについて理解を深める。</p>	隔年
	現代社会学特殊講義（コミュニティと災害）		<p>&lt;概要&gt; 災害に対する人々や集団・組織の対応や、災害の地域社会（コミュニティ）に対するインパクトなど、災害の社会過程をめぐるテーマに検討を加えるとともに、災害社会学の基本的な視点や研究枠組みについて説明する。かつて、シンクタンク（公益財団法人）において防災対策に関する調査研究プロジェクトに携わったことのある者が、当時の研究成果も交えて講義する。</p> <p>&lt;目標&gt; 災害社会学の基本的視座や概念、研究方法などを学び、災害の特質を現代社会の構造・変動との関連で理解する。併せて、災害に強いコミュニティ・社会をどう構築していくかという課題について考える。</p>	隔年
	社会心理学特殊講義（社会問題）		<p>&lt;概要&gt; 社会病理学（社会問題の社会学）の観点から、現代日本社会について社会的に考察する構えを身につけるのが、本講義のねらいです。まず、社会病理学の理論的枠組みについて概説し、ついでその分析視点について講じていきます。その上で、貧困問題、ドメスティック・バイオレンス等現代的な社会問題（※教員の関心や研究中のテーマに合わせて変更する可能性もあります）をめぐる具体的論点をあげながら、現代日本の社会病理現象について多角的に考察していきます。</p> <p>&lt;目標&gt; 現代社会と地域社会の特質と社会に潜む社会問題＝現代日本の社会病理現象について理解し、社会病理学の理論と分析視点に関する知識を身につけることを目標とします。そのうえで、社会病理学の観点から現代日本社会について社会的に考察する構えを身につけることも目標としています。</p>	隔年
	社会心理学特殊講義（コミュニケーション）		<p>&lt;概要&gt; 近年、男性の女性化や女性の男性化など、性・ジェンダーをめぐる揺らぎ現象が話題となっている。本講義では、そうした時代の変化を説明する仮説の一つとして、R.ランガムの唱える&lt;人類の自己家畜化&gt;説を取り上げ、検討を行っていく。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 性・ジェンダーをめぐる揺らぎ現象について理解する 2. フェミニズムや社会学における伝統的枠組みと進化的アプローチのギャップについて理解する 3. 進化的アプローチの特徴と論争状況を理解する</p>	隔年
	民俗学・文化人類学特殊講義（現代民俗）		<p>&lt;概要&gt; 本講義では、民俗学的な論文（民俗学に隣接する諸分野の論文をも含む）を読み、民俗学から見た日本文化・日本社会の特質について考えていく。毎回の授業に臨むあたり、受講者には、課題を提出してもらう。なお、初回授業の際に、グループ分けを行う予定ですので、履修希望者は必ず出席すること。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 民俗学の専門用語、ならびに民俗学的な考え方を理解する。 2. 日本文化や日本社会に対する理解を深める。 3. 学術論文の構成・特色を理解する。</p>	
	民俗学・文化人類学特殊講義（生活文化）		<p>&lt;概要&gt; 私たちの生活や社会は、目に見えるものから見えないものまで、ありとあらゆるモノや何かの交換で成り立っている。私たちは、何をどのようなルールで交換して、社会生活を営んでいるのか。日本社会の身近な事例と、世界の諸民族における交換習俗の理解を通じ、自らを相対化する視点を取得することを目的とする。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 世界の諸民族における交換習俗、貨幣の在り方を理解するとともに、経済人類学の基本的理論について理解する。 2. 自分たちの社会や身の回りの交換行為、習俗についてレポートを執筆する。</p>	
	人材育成論		<p>&lt;概要&gt; 人を育てた経験は、誰しも必ずあるものです。たとえば、同級生に勉強を教えたり、部活動で後輩に指導をしたりといったことです。人がよりよく学ぶには、いったいどのようにするのでしょうか。このテーマをもとに本講義では、人がよりよく学ぶための仕組みについて、育成の観点も踏まえながら考えていきます。</p> <p>&lt;目標&gt; ・人がよりよく学ぶための仕組みを説明することができる。 ・人を育てることの意義を説明することができる。 ・人を育てた経験を他者に伝えることができる。 ・人がよりよく学ぶために、自分が実践できることを説明できる。 ・多様な考え方を尊重し、教え学びあう雰囲気貢献することができる。</p>	
	環境教育概論		<p>&lt;概要&gt; 環境教育をめぐる歴史、現状、課題などを概説する。様々な環境破壊の事例を取り上げ、その中で教師や社会教育関係者が自らを取り巻く環境をより良きものとして維持していくために環境教育をいかにして組織してきたかの解説を通して学ぶ。</p> <p>&lt;目標&gt; ・環境破壊が人間の発達にどのような影響を与えるかを理解できる。 ・環境破壊に向き合った教師や社会教育関係者の仕事（環境教育）の意味を理解できる。 ・環境教育をめぐる歴史、現状、課題などに、自分なりの考察の視点を持つことができる。</p>	
	子ども社会学概論		<p>&lt;概要&gt; 私たちの社会において子どもとはどのような存在なのか、子どもを社会との関係からとらえなおす。また、子どもに関する諸問題について状況を理解し、社会の変化が子ども、教育、家庭、学校、地域にもたらす影響や課題について検討し、さらに、子どもへの支援の方策等についても具体的に考察する。</p> <p>&lt;目標&gt; 子どもに関する諸問題について社会的視点からとらえ、子ども個人の行動が何によって規定されているのかなどを考察し、社会問題をとらえて分析する視点を深める。 具体的には、 ①子どもの発達と社会化の関連性などについて、基礎的な知見を理解する。 ②家庭、学校、地域社会における集団の意義・機能などや諸課題を理解する。 ③子どもを社会との関係から捉え直し、社会問題を俯瞰するための広い視野を身につける。</p>	
	地域福祉社会学		<p>&lt;概要&gt; 地域社会と福祉の関わりについて、高齢者福祉をテーマに考えていく。マスコミによって連日のように「高齢化の危機」が叫ばれている。では一体、高齢化とはわれわれの社会にどのような変化をもたらすのだろうか。本講義では、高齢者のおかれている現状とこれまでの日本の高齢者福祉政策の変遷とを明らかにし、今後「いかなる超高齢社会が目指されているのか」について考察を進める。その際、地域社会の役割変化に着目し、新たなコミュニティのあり方を考える。また、ジェンダー視点を有効な分析手段として使用するため、ジェンダー概念についても詳しく講義する。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 日本の高齢化状況と高齢者の生活を知る 2. 社会政策として高齢者福祉の成立を理解する 3. 国家・市場・家族・地域と高齢者介護との関連について理解を深める 4. 現行の高齢者福祉政策に関する知識を得る 5. 自分の生きていく社会状況として高齢化を理解する</p>	

区 分 目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
課 題 解 決 科 目	プロジェクトマネジメント論		<p>&lt;概要&gt; プロジェクトマネジメントの基本的な概念と手法を理解し、実際のプロジェクトでの対応力を向上させるための知識を学びます。身近な事例やケースを通じてプロジェクトマネジメントの実践的な側面を学び、資源や組織のマネジメント、タイムマネジメント、多様なチームメンバーとのコミュニケーションやリーダーシップ、情報のマネジメント、イノベーションと技術開発などの知識を習得し、それらをメンバーとして活用する力を養います。</p> <p>&lt;目標&gt; ・プロジェクトマネジメントの基本的な概念や理論、フレームワーク、評価等を理解できる。 ・プロジェクトマネジメントにおける各種資源の効果的な利用、事後評価を視野に入れた計画立案や予算立ての重要性、リーダーシップとチームマネジメント等を理解できる。 ・プロジェクトの中で発生が想定される様々な課題を早期に見出す方法、プロジェクト目標を達成するために適切な解決策を提案することができる。</p>	
	DXによる地域課題解決 (PBL) 入門	○	<p>&lt;概要&gt; 事前学習として社会調査における基本事項やマナーを学んだ後、3年次前期に履修するDXによる地域課題 (PBL) 前期履修対象となる企業や自治体、地域の視察を行う。またDXによる地域課題 (PBL) 前期の発表会を見学、聴講する。視察および見学の後に振り返りを行い、3年次での「DXによる地域課題解決 (PBL)」の受講も踏まえた自身のこれからの大学生活の在り方や学ぶべきものをまとめる。</p> <p>&lt;目標&gt; ・社会調査における基本事項やマナーの基本事項を学ぶ。 ・様々な山口市における地域課題に触れてみて、自分は何のような課題に興味があるのかを見極める。 ・今後の大学生活の在り方や学ぶべきものについて探求する。 (21 社 / 1回) オリエンテーション (30 川尻 / 1回) 社会調査の基本事項 (21 社 / 2回) マナー講座 (21 社・30 川尻 / 3回) (共同) 企業や自治体、地域の視察の引率 (コーディネート含む) (21 社・30 川尻 / 3回) (共同) 視察に基づく振り返り : グループワーク (21 社・30 川尻 / 3回) (共同) DXによる地域課題解決 (PBL) I の最終発表会受講 (21 社・30 川尻 / 1回) (共同) 今後の大学生活の目標発表 (わかちあい) : グループワーク (21 社・30 川尻 / 1回) (共同) まとめ</p>	共同
	DXによる地域課題解決 (PBL) I	○	<p>&lt;概要&gt; 「オービスラーニング演習」、「アントレプレナー演習」、「地域市民学演習」のいずれかより履修するものとする。いずれもタイトルに基づく基礎知識、および対象地域や企業の現状を事前学習として学ぶ。その後自身が履修するタイトルの対象とするNPO法人や企業において現地実習を16時間以上行う。事後学習として課題発見方法や効果的な発表方法を学んだ上で、自身が現地実習を通して発見した課題のDXによる解決方法を策定し、最後に受講生によるその発表会をする。</p> <p>&lt;目標&gt; ・山口市における地域課題に対する市民活動や営利活動の現状の一端を知る。 ・現地実習や発表を通してコミュニケーション能力を向上させる。 ・収集した情報を体系的に捉える。 ・DXマインド、ウェルビーイングの視点をもって課題発見、さらに解決法を立案し、人にわかりやすく伝える。 ・自分たちは地域課題に対してどのように関わられるのを考える。 ・今後の大学生活の目標を見出すとともに、自身の市民性を育む。</p> <p>01. (事前講義) オリエンテーション 02. (事前講義) 基礎知識 03. (事前講義) DXによる課題解決 04. (事前講義) 社会調査の応用基礎 05. (事前講義) 山口市の概況と課題 06. (事前講義) 実習先の概況 07. (事前講義) 実習先での課題解決事例 08. &lt;実習&gt; 16時間 (最低2日間実習に行く) 09. (事後講義) 課題発見と解決 10. (事後講義) プレゼンテーションの基礎知識 11. &lt;最終発表&gt;</p>	共同 講義 : 22時間 実習 : 16時間
	DXによる地域課題解決 (PBL) II	○	<p>&lt;概要&gt; 山口市では「シビテックチャレンジチャレンジYAMAGUCHI」という地域課題、行政課題を行政と県民が協働して解決する事業が2021年度より実施されている。毎年度8件の採択があり2023年度現在24件のテーマが実施されている。これらテーマはその年度に一度はおよそ解決されているが、間違いなく別解も存在する。学環の本授業指導担当教員それぞれがこのテーマのうち一つを担当し、学生は自身が希望するテーマを選択して、そのテーマ指導担当教員とともに別解 (DXによる課題解決方法) を立案する。</p> <p>&lt;目標&gt; ・具体的な地域課題をもとに、デジタルデータやデジタル技術を用いてどのように解決できるかを実践的に取り組む。 ・自身の市民性、DXマインド、ウェルビーイングの視点を醸成する。 (30 川尻・21 社) オリエンテーション、外部団体や指導担当教員との連絡調整、講義総括などのコーディネート、最終報告会の実施 (学環教員) 指導担当学生の指導、管理</p>	共同
卒 業 研 究	研究演習	○	<p>&lt;概要&gt; 指導教員予定者からの定期的な指導を受けながら、1~3年次までの学修とDXによる地域課題解決 (PBL) を通じて得られた知見や「卒業研究」として取り組みたい研究テーマの設定を念頭におき、先行研究を概観することや研究計画の立案につながる情報収集等に取り組み、「卒業研究」につなげる。</p> <p>&lt;目標&gt; ・研究テーマについて検討することができる。 ・先行研究を調べ、それを整理することができる。 ・研究計画立案の方法を理解し、その準備に取り組むことができる。</p>	
	卒業研究	○	<p>&lt;概要&gt; 「課題解決科目」、「研究演習」で得られた経験や知見を踏まえ、地域課題の解決や新たな価値創出に資する研究テーマを設定し、先行研究を概観し研究計画を立て、指導教員からの定期的な指導を受けながら情報・データを収集し、それについての定量的・定性的な分析・考察を行い、卒業論文としてまとめる。また、4年次に引き続きDXによる地域課題解決 (PBL) に取り組むことができる場合は、継続したPBLでの取り組みとそこで得た成果を、学問的見地と客観的なデータを基に卒業課題報告としてまとめる。</p> <p>&lt;目標&gt; ・先行研究やこれまでのPBLの成果を活かして、研究テーマに基づく研究計画を立案することができる。 ・先行研究を含め、情報やデータを収集整理することができる。 ・得られた知見について考察することができる。あるいは課題解決につながる企画等を提案をすることができる。 ・得られた知見やその考察、課題解決につながる企画、提案を文章でまとめたり、口頭でプレゼンテーションできる。</p>	